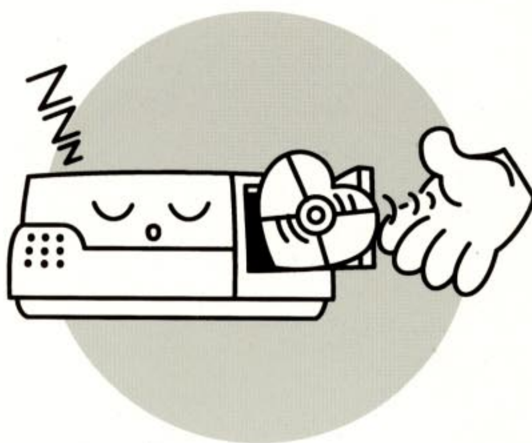


NEC

再セットアップガイド

(Windows 95インストール)



●Windows 95と添付アプリケーションの再セットアップ

●他のOSを利用する

98 MATE

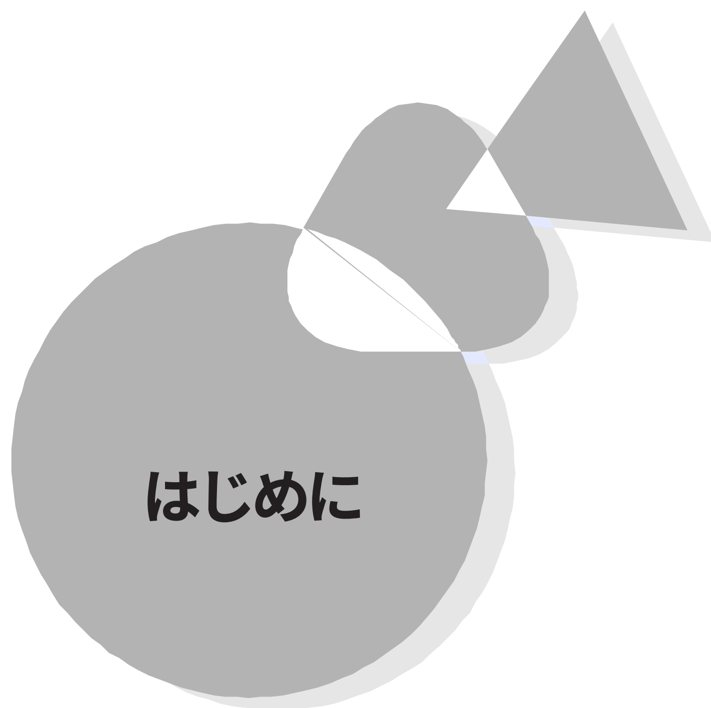
ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断で他に転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容は、万全を期して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
(4) 運用した結果の影響については、(3)項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

・本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 95および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
OS/2、OS/2 Warp、WIN-OS/2は、米国IBM Corporationの商標です。
NetWareは米国Novell, Inc.の登録商標です。
TGUI9682はTrident Microsystems, Inc.の商標です。
その他の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

FN8C1A
808-882706-010-A



このマニュアルでは、本機添付の「バックアップＣＤ－ＲＯＭ（ＯＳを除く）用インストールディスク」や「バックアップCD-ROM」を使って、Windows 95のシステムと添付アプリケーションを復元する手順を説明しています。

また、他のOSを利用するためのアップグレードや注意事項について説明しています。

このマニュアルの構成

なお、このマニュアルは次の機種を対象にしています。

- PC-9821 RaII23/W30
- PC-9821 Ra266/W30
- PC-9821 Ra266/W30R
- PC-9821 Xa20/W30R
- PC-9821 Xa200/W30R
- PC-9821 Ra333/W60*
- PC-9821 Ra300/W40*

＊PC-9821 Ra266/W30Rをそれぞれに読み替えてください。

Part 1　Windows 95と添付アプリケーションの再セットアップ

Windows 95のシステムと添付アプリケーションの復元方法について、本機添付の「バックアップCD-ROM（OSを除く）用インストールディスク」や「バックアップCD-ROM」などを使って、ご購入時の状態に戻す手順を説明しています。また、独自に本機のハードディスク内のシステムやアプリケーションの環境を設定したい方もご覧ください。
なお、このマニュアルでは、本機のハードディスクの内容をご購入時の状態に戻すことを「再セットアップする」または「再インストールする」といいます。

Part 2　他のOSを利用する

MS-DOSやWindowsの知識をもっているユーザの方を対象に、Windows 95以外の別売のOSを本機で利用するための必要な知識や注意事項について説明しています。
対象OSは次のとおりです。

- MS-DOS
- Windows NT
- NetWare
- Windows 3.1
- OS/2
- Windows 98　など

付録

固定ディスク起動メニューやFAT32ファイルシステムを利用する際の必要事項について説明しています。

■ソフトウェアの最新情報のお知らせ

製品の最新情報、ソフトウェアのアップデートサービスの情報(ソフトウェアの強化・修正情報、モジュールの入手情報)を、FAXサービス、パソコン通信、インターネットでご案内しております。

- **NECパソコン情報FAXサービス**

  FAX　東京：(03)3769-9821

  　　　　大阪：(06)304-9821

  ＊大阪のFAX番号は平成11年1月1日より、次の番号に変更されます。

  (06)6304-9821

- **パソコン通信**

  PC-VAN　NECパソコン情報 (J NECPC)

  NIFTY-SERVE　NEC Information Center Forum (GO FNECINFO)

- **インターネット**

  98 Information　URL http://www.nec.co.jp/98/

安全にお使いいただくために

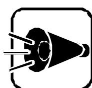
⚠警告

●本機に添付のCD-ROMは、CD-ROM対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。

大音量によって耳に障害を被ったり、スピーカを破損する恐れがあります。

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号には、次のような意味があります。

	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。場合によっては、本機が故障したり、本機で使用しているソフトウェアや、お客様が作成されたデータが壊れたりする可能性もあります。
	参考にしていただきたいことを説明しています。
	参照ページを表しています。

このマニュアルで使用している表記には、次のような意味があります。

Windows	Windows 95と別売のWindows 3.1の両方を指します。
Windows NT	別売のWindows NT 4.0と別売のWindows NT 3.51の両方を指します。
MS-DOS	MS-DOS® 全般を指します。 特に必要な場合は、バージョン名を記載します。
MS-DOSモード	Windows 95のMS-DOSプロンプトの状態を指します。
[XXX]	[ ]で囲んである文字は、画面に表示されるダイアログボックス、ボタンなどの名前を表しています。 例 : [OK]ボタン
ESC	キーボードのキーは、枠で囲んで表記しています。
バックアップCD-ROM	PC-9821 RaII23/W30、PC-9821 Ra266/W30では本機添付の「チュートリアル／バックアップCD-ROM(OSを除く)」を指します。 PC-9821 Ra266/W30R、PC-9821 Xa20/W30R、Xa200/W30Rでは本機添付の「アプリケーションCD-ROM／バックアップCD-ROM(OSを除く)」を指します。

MS-DOSのコマンド書式で使用されている記号には、次のような意味があります。

＜ ＞	この中の項目は、必ず入力します。
[ ]	この中の項目は、必要に応じて入力します。
｜	この記号で区切られた項目のうち、どれか一つを入力します。

記載されているアプリケーションなどの製品の正式名称は、以下のとおりです。

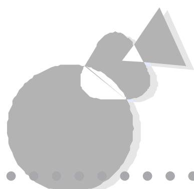
本文中の表記	正式名称
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows 3.1	Microsoft® Windows® operating system Version 3.1
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0およびMicrosoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0
Windows NT 3.51	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 3.51およびMicrosoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 3.51

本文中で使われている用語で、わからない用語が出てきた場合は、『ステップアップガイド』の付録の「パソコン用語集」をご覧ください。

目　次

Part 1　Windows 95と添付アプリケーションの再セットアップ

Part 2　他のOSを利用する



付録

Part 1

Windows 95と添付アプリケーションの再セットアップ

本機に添付されている「Windows 95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」や「バックアップCD-ROM」を使って、本機のシステムやアプリケーションを復元する方法を説明しています。

なお、「再セットアップする前に」は必ずお読みください。

再セットアップする前に

ここでは、再セットアップを行う際に必要な情報や注意事項について説明しています。

再セットアップを始める前に必ずお読みください。

■再セットアップが必要になるとき

次のような状況のときに、本機を再セットアップしてください。

- **ハードディスク内のシステムが壊れてしまった**
- **ハードディスク内のシステムファイルを誤って消してしまった**
- **電源をONにしても、システムが起動しない**
- **ハードディスク内のアプリケーションを[アプリケーションの追加と削除]の機能を使って削除してしまい、追加できない**
- **本機内蔵のハードディスクを購入時と異なるドライブ構成で使いたい**

■再セットアップに関する注意

- 再セットアップを行う場合、本機を購入後にお客様が接続した周辺機器を全て外して再セットアップを実行してください。
- バックアップCD-ROMで再セットアップできるのは、本機に標準で添付されていたソフトウェアのみです。お客様ご自身が、後からインストールされたアプリケーションや、作成されたデータは復元されません。お客様ご自身が後から変更した設定やデータはすべて消え初期状態に戻ります。本機を購入後、お客様が接続した周辺機器の設定はシステムの再セットアップ後にもう一度、設定し直してください。周辺機器の設定については『Microsoft® Windows® 95ファーストステップガイド』または、『ステップアップガイド』や周辺機器のマニュアルをご覧ください。また、再セットアップを行う前に大切なデータは必ずバックアップをとっておいてください。
- 再セットアップ中は、フロッピーディスクから[Windows 95再セットアップ]を起動して行うようになっているため、次のようなドライブ構成となります。

フロッピーディスクドライブ	**Aドライブ**
ハードディスクの第1パーティション	**Bドライブ**
CD-ROMドライブ	**Qドライブ**

- 実際に表示される画面は、お使いの機種によって、本文中の画面と一部異なる場合があります。
- 2Gバイト以上のハードディスクを搭載した機種でパーティションを再分割する場合、領域確保できるパーティションあたりの最大サイズは2047Mバイトです。
  また、2047Mバイトを超える場合は、複数のパーティションに分割されます。

- 本機にインストールされているアプリケーションの中には、それぞれ個々に削除したり追加したりできるものもあります。詳しくは『アプリケーション操作ガイド』をご覧ください。
- バックアップには約70分かかります。画面の内容を読んだり、確認するのにかかる時間によっては、これより長くなることがあります。

■準備するもの

本機に添付されている、次のCD-ROM、フロッピーディスク、マニュアルを準備してください。

- **Windows 95 CD-ROM**
- **バックアップCD-ROM**
- **Windows 95 CD-ROMセットアップ起動ディスク**
- **バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク**
- **Microsoft Internet Explorer Version3.02 CD-ROM**
- **Microsoft IME97 Upgrade CD-ROM**
- **Microsoft Windows 95 ファーストステップガイド**



「Windows 95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」はライトプロテクト(書き込み禁止)されていないか確認してください。ライトプロテクトされている場合は、解除してください。ライトプロテクトについては『ステップアップガイド』の「フロッピーディスクの内容の保護」をご覧ください。

■必要なハードディスクの空き容量

工場出荷時のハードディスクのソフト占有量は次の通りです。再セットアップする際にはこれらの容量よりさらに50Mバイト以上の容量を確保してください。

- **PC-9821RaII23/W30　410Mバイト以上**
- **PC-9821Ra266/W30　410Mバイト以上**
- **PC-9821Ra266/W30R　450Mバイト以上**
- **PC-9821Xa20/W30R　450Mバイト以上**
- **PC-9821Xa200/W30R　450Mバイト以上**
- **PC-9821Ra333/W60　425Mバイト以上**
- **PC-9821Ra300/W40　425Mバイト以上**

■操作方法について

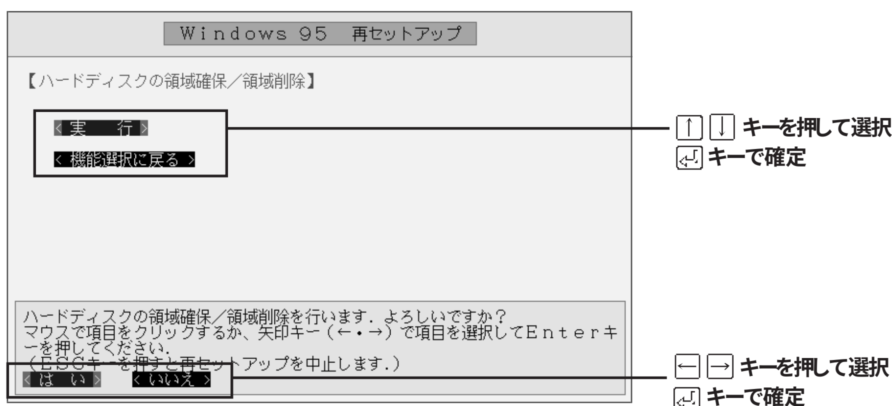
9ページ以降、以下のような画面が表示されますので、簡単な操作方法を説明します。

●[Windows 95再セットアップ]画面での操作方法

[Windows 95再セットアップ]画面での操作は、キーボードでもマウスでも行うことができます。次に、操作方法について例を示します。

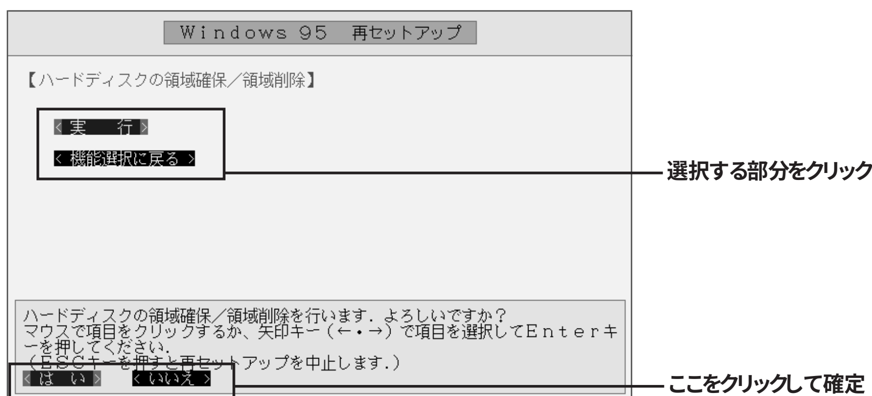
・キーボードで操作する

本文中で「選択する」と表記されている場合は、↑ ↓ ← →キーを押して選択した項目の表示色を変えます。⏎ キーを押して確定します。



・マウスで操作する

本文中で「選択する」と表記されている場合は、選択する部分をクリックします。

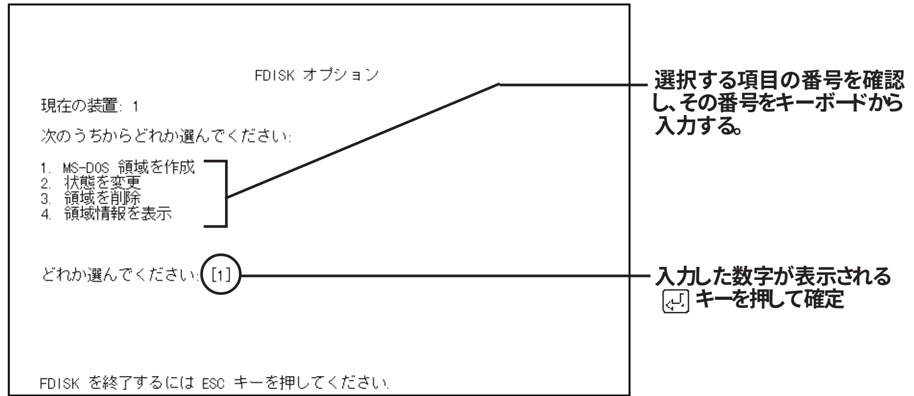




マウスで操作できるのは[Windows 95再セットアップ]の画面のみです。その他の[FDISKオプション]の画面は、マウスでは操作できません。

●[Windows 95再セットアップ]画面以外での操作方法

[FDISKオプション]画面などでは、キーボードで操作します。



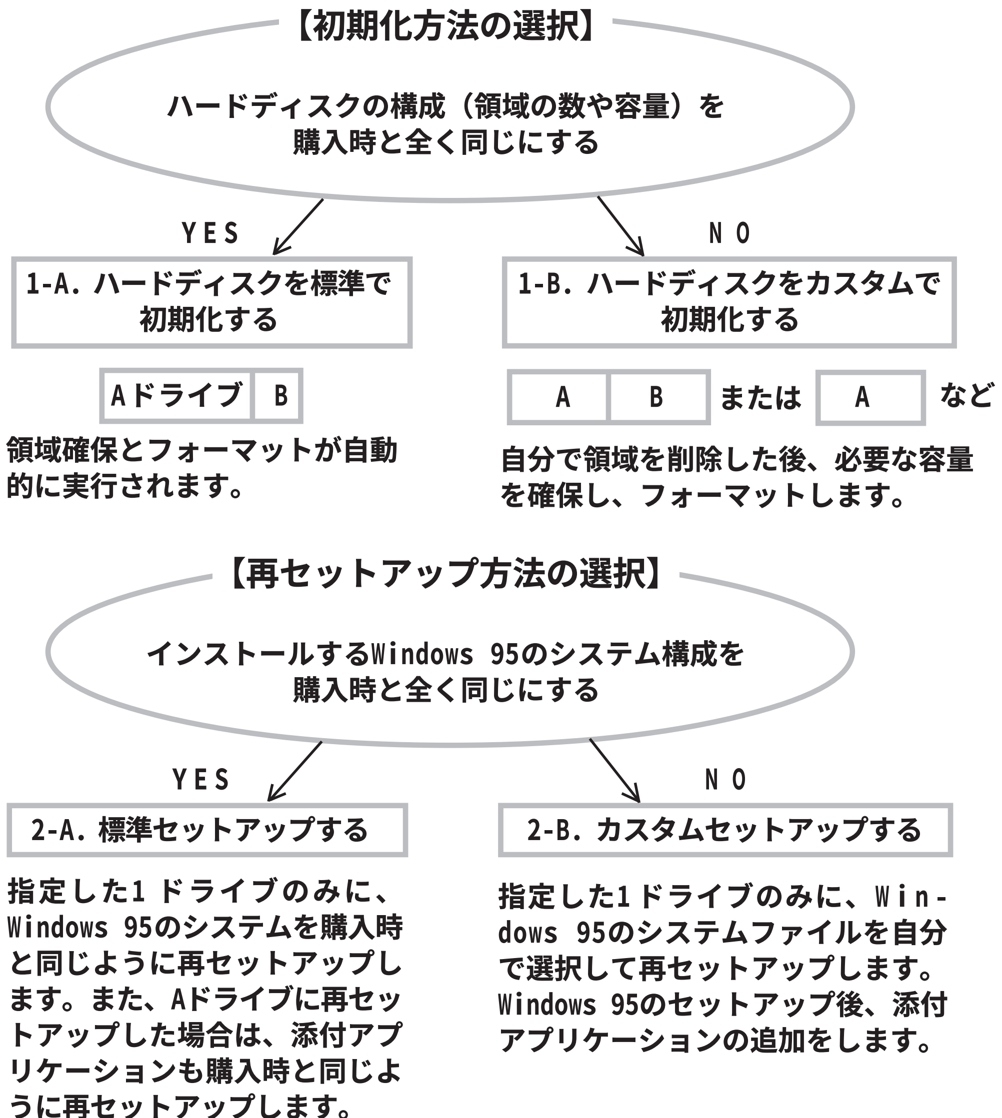
再セットアップの手順

■再セットアップの流れ

再セットアップを始める前に、次の2点について、確認してください。

- 初期化方法の選択
  ハードディスクの構成(領域の数や容量)を購入時と全く同じにするか、しないか
- 再セットアップ方法の選択
  インストールするWindows 95のシステム構成を購入時と全く同じにするか、しないか

どのような構成にするかによって、参照するページが異なります。



セットアップした後のハードディスクとフロッピーディスクのドライブ名は例のようになります。

例1　購入時とまったく同じように再セットアップした場合

ハードディスク　　フロッピーディスク

A※ | B　　C

例2　カスタムで初期化後、2番目の領域にWindows 95のシステムを再セットアップした場合

A | B※　　C

例3　「ハードディスクをカスタムで初期化する」の手順で領域を1つのみ確保した場合

A※　　B

例4　セットアップモードの選択で「Cドライブブートセットアップ」を選択した場合

C※ | D　　A

※で指定した1ドライブのみにWindows 95と添付アプリケーションを再セットアップします。

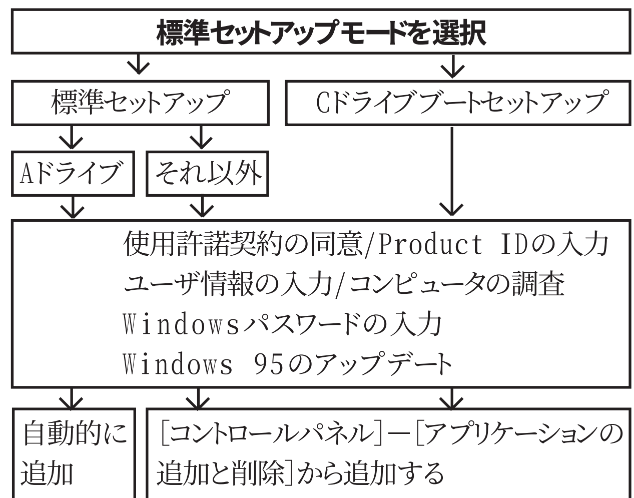
●標準セットアップの流れ

標準セットアップの流れは、次のようになります。

セットアップモードの選択

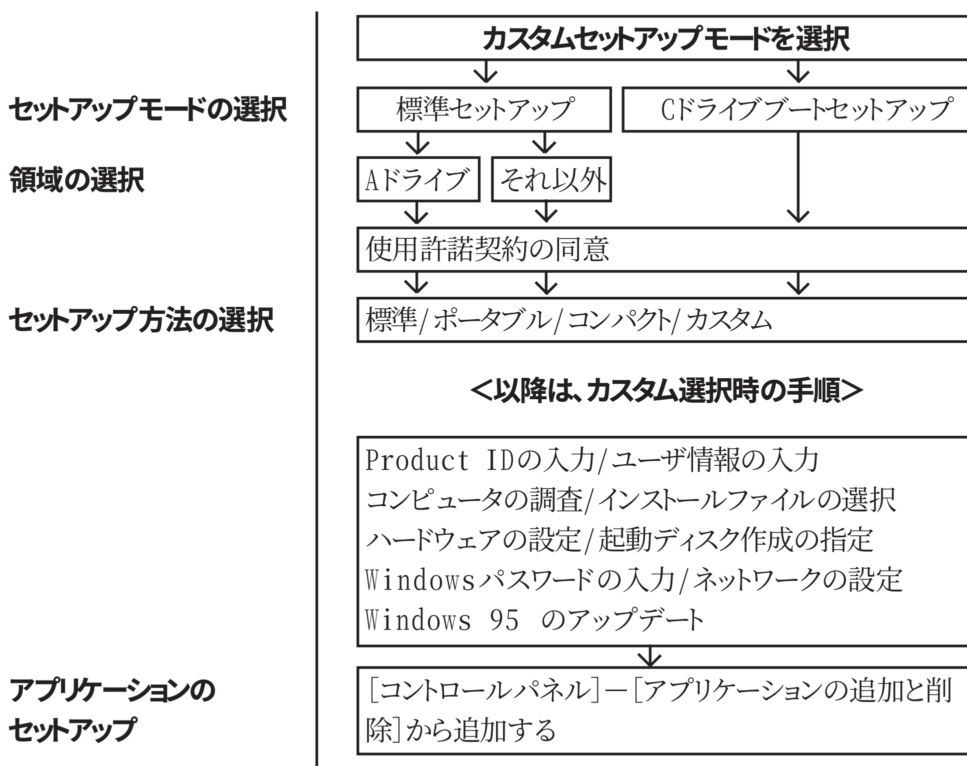
領域の選択

アプリケーションのセットアップ



●カスタムセットアップの流れ

カスタムセットアップの流れは、次のようになります。



■購入時と同じ状態に戻すには

簡単にセットアップしたい方、購入時と全く同じドライブ構成にしたい方、またはすべてのアプリケーションを一括でセットアップしたい方は、以下の手順でセットアップを行ってください。

1-A．ハードディスクを標準で初期化する

初期モードの選択（手順5）　[標準初期化モード]を選択

↓

2-A．標準セットアップする

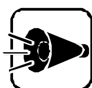
セットアップモードの選択（手順6）　[標準セットアップ]を選択
領域の選択（手順7）　[Aドライブ]を選択

ハードディスクを初期化する

ハードディスクの初期化には2通りの方法があります。
購入時と同じドライブ構成にしたい場合は、「1-A. ハードディスクを標準で初期化する」の手順を行ってください。
ドライブの領域数や容量をご自分で設定したい場合は、「1-B. ハードディスクをカスタムで初期化する」の手順を行ってください。

1-A. ハードディスクを標準で初期化する.......

この手順で初期化を行うと、ハードディスクの領域はご購入時と同じ状態に分割されます。領域の削除から領域の確保まで自動的に行われるので、簡単に初期化することができます。



ハードディスクの初期化を行うと、お客様がセットアップしたシステムやアプリケーション、データファイルはすべて削除されます。
大切なデータやファイルがある場合は、必ずフロッピーディスクなどに保存してください。

1 本体の電源をONにした後、すぐに「Windows95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」をフロッピーディスクドライブに、「Windows 95 CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。

2 次のメッセージが表示されます。[Enter] キーを押します。

・PC-9821 RaII23/W30

```
このフロッピーディスクは、Windows95を
再セットアップする為のものです。
再セットアップに入る前に、本機に添付の
「再セットアップガイド」を必ずお読みく
ださい。

再セットアップを行わない場合は、電源を
切ってください。

再セットアップを行う場合は、Enterキー
を押してください。
```

・その他の機種

```
このフロッピーディスクは、Windows95をセットアップする
為のものです。
※再セットアップとは、本機に添付されている「バックアッ
  プCD-ROM（OSを除く）用インストールディスク」や「バ
  ックアップCD-ROM（OSを除く）」などを使って、本機の
  システムやアプリケーションを復元することです。
再セットアップに入る前に、本機に添付の「再セットアップ
ガイド」を必ずお読みください。

<注意>
再セットアップは途中で中断しないでください。
（もし、中断した場合は最初からやり直してください）
再セットアップには、約70分かかります。

再セットアップを行わない場合は、フロッピーディスクを抜
いて、電源を切ってください。
再セットアップを行う場合は、Enterキーを押してください。
```

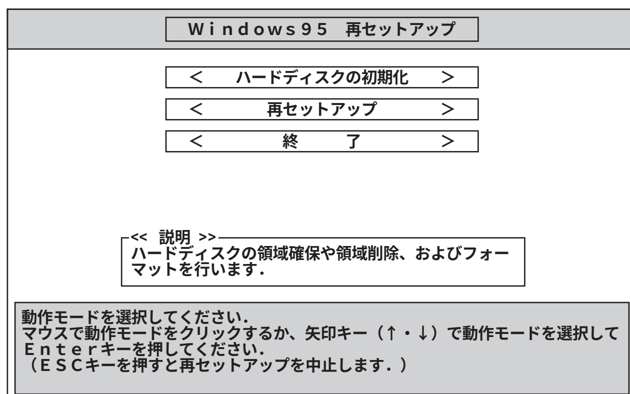
3 次のメッセージが表示されます。[Enter] キーを押します。

```
<確認してください>

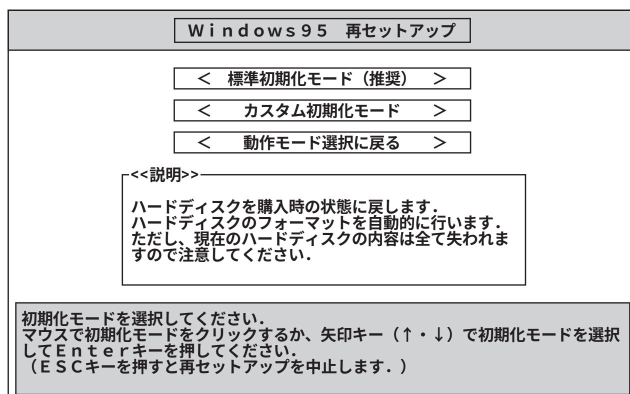
・フロッピーディスクが「書き込み可能」になっていることを確認してください。「書き込み禁止」にな
  っていると再セットアップが行えません。詳しくは、本機に添付の「ステップアップガイド」の「フロ
  ッピーディスクドライブ」に書いてある「フロッピーディスクの内容の保護」をご覧ください。
・CD-ROMドライブに、「Windows 95 CD-ROM」が入っていることを確認してください。

準備ができましたら、Enterキーを押してください。
```

4 しばらくすると次の画面が表示されます。[ハードディスクの初期化]を選択して↵キーを押します。



5 [標準初期化モード(推奨)]を選択して↵キーを押します。



6 「ハードディスクのフォーマットを行います．よろしいですか?」のメッセージが表示されます。←、→キーで＜はい＞を選択して↵キーを押します。
ハードディスクのフォーマットが始まります(処理時間は、パソコンのCPUの処理速度やハードディスクの容量の違いにより多少異なりますが、30分以上かかる場合は、ハードディスク等の異常が考えられます。その際は、電源をOFFにし、最初からやり直してください。
フォーマットが終了すると、自動的に再起動されます。

7 「再セットアップを行う場合は、Enterキーを押してください。」というメッセージが表示されたら↵キーを押します。

8 「＜確認してください＞　………　準備ができましたら、Enterキーを押してください。」というメッセージが表示されたら↵キーを押します。

次に「Windows 95を再セットアップする」に進んでください。

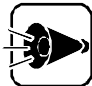
1-B. ハードディスクをカスタムで初期化する...

ハードディスクのドライブを再分割して、領域のサイズをご自分で設定されたい方は次の手順でハードディスクの初期化を行ってください。

1. 領域を削除する
2. 領域を確保する
3. ドライブをフォーマットする

1. 領域を削除する

ハードディスクの初期化を行うには、まず再セットアップ先となるドライブの領域の削除の作業が必要です。



ハードディスクのすべての領域を削除すると、お客様がセットアップしたシステムやアプリケーション、データファイルはすべて削除されます。
大切なデータやファイルがある場合は、必ずフロッピーディスクなどに保存してください。

1 本体の電源をONにした後、すぐに「Windows 95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」をフロッピーディスクドライブに、「Windows 95 CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。

2 次のメッセージが表示されます。⏎キーを押します。

・PC-9821 RaII23/W30

```
このフロッピーディスクは、Windows95を
再セットアップする為のものです。
再セットアップに入る前に、本機に添付の
「再セットアップガイド」を必ずお読みく
ださい。

再セットアップを行わない場合は、電源を
切ってください。

再セットアップを行う場合は、Enterキー
を押してください。
```

・その他の機種

```
このフロッピーディスクは、Windows95をセットアップする
為のものです。
※再セットアップとは、本機に添付されている「バックアッ
  プCD-ROM（OSを除く）用インストールディスク」や「バ
  ックアップCD-ROM（OSを除く）」などを使って、本機の
  システムやアプリケーションを復元することです。
再セットアップに入る前に、本機に添付の「再セットアップ
ガイド」を必ずお読みください。

&lt;注意&gt;
再セットアップは途中で中断しないでください。
（もし、中断した場合は最初からやり直してください）
再セットアップには、約70分かかります。

再セットアップを行わない場合は、フロッピーディスクを抜
いて、電源を切ってください。
再セットアップを行う場合は、Enterキーを押してください。
```

3 次のメッセージが表示されます。⏎キーを押します。

```
<確認してください>

・フロッピーディスクが「書き込み可能」になっていることを確認してください。「書き込み禁止」にな
  っていると再セットアップが行えません。詳しくは、本機に添付の「ステップアップガイド」の「フロ
  ッピーディスクドライブ」に書いてある「フロッピーディスクの内容の保護」をご覧ください。
・CD-ROMドライブに、「Windows 95 CD-ROM」が入っていることを確認してください。

準備ができましたら、Enterキーを押してください。
```

4 [ハードディスクの初期化]を選択して[Enter]キーを押します。

Ｗｉｎｄｏｗｓ９５　再セットアップ

＜　ハードディスクの初期化　＞
＜　再セットアップ　＞
＜　終　了　＞

<< 説明 >>
ハードディスクの領域確保や領域削除、およびフォーマットを行います．

動作モードを選択してください．
マウスで動作モードをクリックするか、矢印キー（↑・↓）で動作モードを選択してＥｎｔｅｒキーを押してください．
（ＥＳＣキーを押すと再セットアップを中止します．）

5 [カスタム初期化モード]を選択して[Enter]キーを押します。

Ｗｉｎｄｏｗｓ９５　再セットアップ

＜　標準初期化モード（推奨）　＞
＜　カスタム初期化モード　＞
＜　動作モード選択に戻る　＞

<<説明>>
ハードディスクを購入時の状態に戻します．
ハードディスクのフォーマットを自動的に行います．
ただし、現在のハードディスクの内容は全て失われますので注意してください．

初期化モードを選択してください．
マウスで初期化モードをクリックするか、矢印キー（↑・↓）で初期化モードを選択してＥｎｔｅｒキーを押してください．
（ＥＳＣキーを押すと再セットアップを中止します．）

6 [ハードディスクの領域確保/領域削除]を選択して[Enter]キーを押します。

Ｗｉｎｄｏｗｓ９５　再セットアップ

＜ハードディスクの領域確保／領域削除＞
＜　ハードディスクのフォーマット　＞
＜　初期化モード選択に戻る　＞

<<説明>>
ハードディスクの領域確保、および領域削除などの処理を行います．
選択後は、メッセージに従って操作してください．

機能を指定してください．
マウスで機能をクリックするか、矢印キー（↑・↓）で機能を選択してＥｎｔｅｒキーを押してください．
（ＥＳＣキーを押すと再セットアップを中止します．）

7 「ハードディスクの領域確保/領域削除を行います. よろしいですか?」のメッセージが表示されます。[はい]を選択して[Enter]キーを押します。

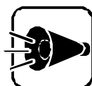
8 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)………?」と表示されたら、[N]キーを押して [↵] キーを押します。

```
512 MB以上のディスクがあります.

このバージョンの Windows では, このような大容量ディスク
のサポートが強化され, より効率のよいディスク利用やより
大きな領域の定義ができるようになりました。 古いバージョ
ンの MS-DOS, Windows, ディスク ユーティリティなどはこの
大容量ディスク サポートを使用して作成された領域にはアク
セスできません.

複数のオペレーティング システム, または異なるバージョンのオペレーティング
システムをデュアル ブートする場合は, このサポートは使用しないでください.

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)...........? [N]
```



ここでは、必ず「N」を選択してください。

9 [3. 領域を削除]を選択して [↵] キーを押します。

```
                    FDISK オプション

現在の装置: 1

次のうちからどれか選んでください:

1. MS-DOS 領域を作成
2. 状態を変更
3. 領域を削除
4. 領域情報を表示


どれか選んでください: [1]




FDISK を終了するには ESC キーを押してください.
```



周辺機器の接続状況によって、表示される画面は多少異なります。

10 [1.MS-DOS領域を削除]または[2.非MS-DOS領域を削除]のどちらかを選択した後、 ↵ キーを押してください。Windows 95を使用していた領域は、MS-DOS領域ですので、通常は[1.MS-DOS領域を削除]を選択してください。

```
                              領域を削除

現在の装置: 1

次のうちからどれか選んでください:

1.  MS-DOS 領域を削除
2.  非 MS-DOS 領域を削除



どれか選んでください: [ ]




FDISK オプションに戻るには ESC キーを押してください.
```

11 削除する領域を選択し、 ↵ キーを押します。

```
                          MS-DOS 領域を削除

現在の装置: 1

領域    状態      システム名        Mバイト   システム    使用   BOOT
B: 1   アクティブ   XXXXXXXXXXXX     XXX   FAT16      XX%    可
C: 2   アクティブ   XXXXXXXXXXXX     XXX   FAT16      XX%   不可


装置の総容量は  XXX  Mバイトです.   (1Mバイト=1048576バイト)

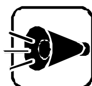
注意! 削除した MS-DOS 領域のデータはなくなります.
どの領域を削除しますか......................? [ 1]




FDISK オプションに戻るには ESC キーを押してください.
```



お使いのシステムの状況によって、表示される画面は多少異なります。

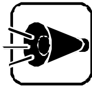


MS-DOS領域が存在しない状態で[MS-DOS領域を削除]を選択する、または、非MS-DOS領域が存在しない状態で[非MS-DOS領域を削除]を選択すると、[削除するXXX領域はありません]と表示されます。
この場合、 ESC キーを押すと手順9の画面に戻ります。再度、手順9、10をやりなおしてください。
非MS-DOS領域とは、MS-DOSまたはWindows 95で直接利用できない形式でフォーマットされた領域のことです。

次のようなメッセージが表示されます。

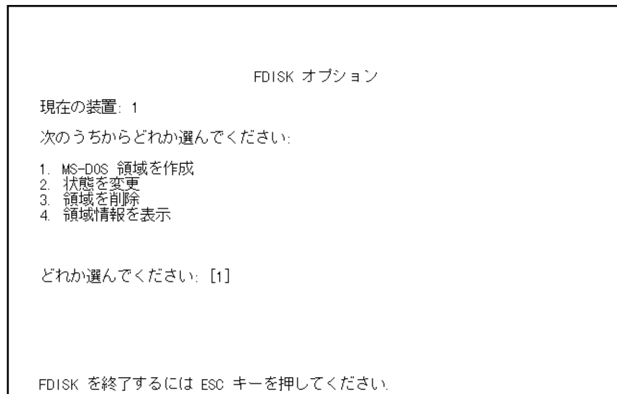
よろしいですか(Y/N)………?

12 Y キーを押し、続けて ↵ キーを押します。
領域が削除されます。
削除したい領域が複数ある場合は、手順11〜12を繰り返してください。



システムがセットアップされていた領域は必ず削除してください。それ以外の領域を削除する必要はありません。
その場合は、ESCキーを押して[FDISKオプション]の画面に戻ってください。

13 領域の削除が終了したら、 ESC キーを押して次の[FDISKオプション]画面を表示しておきます。



次に「2. 領域を確保する」に進んでください。

2．領域を確保する

一度削除した領域は、領域を確保する作業が必要になります。領域は削除した領域の容量だけ確保することができます。
ハードディスク内の容量が2Gバイト以下で、すべての領域が削除されていれば、1つの領域として確保することもできます。また、領域は複数に分割することもできます。

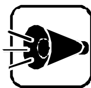
例1　最大サイズを割りあてる

・ハードディスクの容量が1000Mバイトある場合

Aドライブ 1000Mバイト

・ハードディスクの容量が3000Mバイトある場合

Aドライブ 2047Mバイト	Bドライブ 953Mバイト



ハードディスクの容量で、MS-DOS 6.2およびWindows 95で確保可能な領域の最大サイズは2047Mバイトです。したがって、内蔵のハードディスクが2047Mバイト以上ある場合は、1つの領域としてハードディスクを利用することはできません。

例2　2つの領域に分割する

・ハードディスクの容量が3000Mバイトある場合

Aドライブ 1800Mバイト	Bドライブ 1200Mバイト



再セットアップ中は、フロッピーディスクドライブから[Windows 95再セットアップ]を起動しているため、フロッピーディスクドライブがAドライブ、ハードディスクの第1パーティションがBドライブ（以降C、D…）と表示されています。

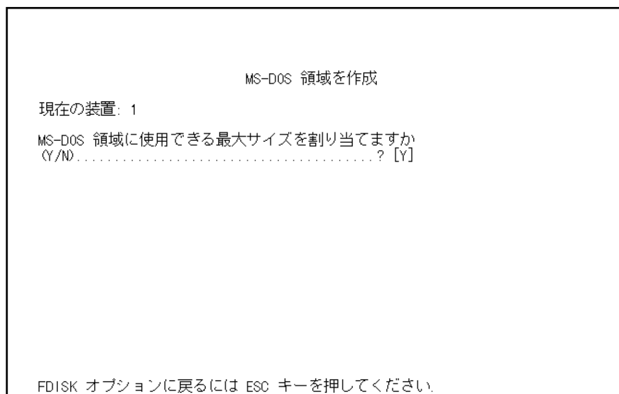


ハードディスクを複数に分割した場合、1番目の領域を第1パーティションといいます。

ハードディスクの領域を確保する手順について説明します。

1 ［FDISKオプション］の画面で、［1.MS-DOS領域を作成］を選択して [↵] キーを押します。

2 次の画面が表示されたら [N] キーを押して [↵] キーを押してください。



MS-DOS 領域を作成

現在の装置: 1

MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てますか
(Y/N)..? [Y]

FDISK オプションに戻るには ESC キーを押してください.

3 「MS-DOS領域を作ります…?」と表示されたら、確保したい領域のサイズを、Mバイト単位または全体に対する割合で入力し、 [↵] キーを押してください。

例　3000Mバイトのハードディスクに、1800Mバイトの領域を確保する場合

バイト単位で入力した場合	**「1800」と入力**
全体に対する割合で入力した場合	**「60%」と入力**



購入時の状態に戻すために必要な領域のサイズは、「必要なハードディスクの空き容量」（☞ P.3）をご覧になり、確保してください。

手順3を繰り返して、複数の領域を確保します。

4 領域の作成が終了した後、 [ESC] キーを押してください。
［FDISKオプション］の画面が表示されます。

5 [ESC]キーを2回押します。以下のようなメッセージが表示されます。

設定を有効にするためにシステムを再起動します.
マウスで<OK>ボタンをクリックするか、Enterキーを押してください.
<OK>

6 ↵キーを押します。
自動的に再起動されます。

7 「再セットアップを行う場合は、Enterキーを押してください。」というメッセージが表示されたら↵キーを押します。

8 「＜確認してください＞　………　準備ができましたら、Enterキーを押してください。」というメッセージが表示されたら↵キーを押します。

3.ドライブをフォーマットする

新しく確保しなおした領域はフォーマットの作業が必要です。

1 次の画面が表示されていることを確認してください。
再起動した後、次の画面が表示されます。[ハードディスクの初期化]を選択して↵キーを押します。

Ｗｉｎｄｏｗｓ９５　再セットアップ

<　ハードディスクの初期化　>
<　再セットアップ　>
<　終　了　>

<<　説明　>>
ハードディスクの領域確保や領域削除、およびフォーマットを行います．

動作モードを選択してください．
マウスで動作モードをクリックするか、矢印キー（↑・↓）で動作モードを選択して
Ｅｎｔｅｒキーを押してください．
（ＥＳＣキーを押すと再セットアップを中止します．）

2 [カスタム初期化モード]を選択して↵キーを押します。

Ｗｉｎｄｏｗｓ９５　再セットアップ

<　標準初期化モード（推奨）　>
<　カスタム初期化モード　>
<　動作モード選択に戻る　>

<<説明>>
ハードディスクを購入時の状態に戻します．
ハードディスクのフォーマットを自動的に行います．
ただし、現在のハードディスクの内容は全て失われますので注意してください．

初期化モードを選択してください．
マウスで初期化モードをクリックするか、矢印キー（↑・↓）で初期化モードを選択
してＥｎｔｅｒキーを押してください．
（ＥＳＣキーを押すと再セットアップを中止します．）

3 ［ハードディスクのフォーマット］を選択して、↵ キーを押します。

```
Windows95 再セットアップ

＜ハードディスクの領域確保／領域削除＞
＜　ハードディスクのフォーマット　＞
＜　初期化モード選択に戻る　＞

<<説明>>
ハードディスクの領域確保、および領域削除などの処
理を行います.
選択後は、メッセージに従って操作してください.

機能を指定してください.
マウスで機能をクリックするか、矢印キー（↑・↓）で機能を選択してEnterキ
ーを押してください.
（ESCキーを押すと再セットアップを中止します.）
```

4 フォーマットするドライブを選択して ↵ キーを押します。

ここでは、フロッピーディスクドライブをBとして説明します。実際と異なる場合は、読み替えてください。

```
Windows95 再セットアップ

【ハードディスクのフォーマット】
＜フォーマットドライブ＞　　B：
＜実　　行＞
＜機能選択に戻る＞

<<注意>>
ハードディスク上にバックアップデータがある場合、
ハードディスクのフォーマットを行うとバックアップ
データも削除されますので注意してください。

フォーマットするハードディスクドライブを指定してください.
マウスでドライブ名をクリックするか、矢印キー（←・→）でドライブ名を選択して
Enterキーを押してください.
（ESCキーを押すと再セットアップを中止します.）
＜B：＞　＜C：＞
```

5 ［実行］を選択して ↵ キーを押します。

6 「フォーマットしますか(Y/N)?」というメッセージが表示されますので、Y キーを押して ↵ キーを押してください。

フォーマットが開始されます(処理時間は、パソコンのCPUの処理速度やハードディスクの容量の違いにより多少異なりますが、30分以上かかる場合は、ハードディスク等の異常が考えられます。その際は、電源をOFFにし、最初からやり直してください。

ドライブの初期化が終了すると、次のメッセージが表示されます。

```
ボリュームラベルを入力してください.
半角で11文字，全角で5文字以内
必要なければ、Enterキーを押してください.
```

必要であれば、「ボリュームラベル」を入力してください。
必要なければ、↵ キーを押してください。



「ボリュームラベル」は再セットアップ後にも入力することができます。
購入時のボリュームラベルは「Windows 95」です。

フォーマットが終了すると、次の画面が表示されます。

Ｗｉｎｄｏｗｓ９５　再セットアップ

<ハードディスクの領域確保／領域削除>

<　ハードディスクのフォーマット　>

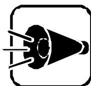
<　初期化モード選択に戻る　>

<<説明>>

ハードディスクの領域確保、および領域削除などの処理を行います．
選択後は、メッセージに従って操作してください．

機能を指定してください．
マウスで機能をクリックするか、矢印キー（↑・↓）で機能を選択してＥｎｔｅｒキーを押してください．
（ＥＳＣキーを押すと再セットアップを中止します．）

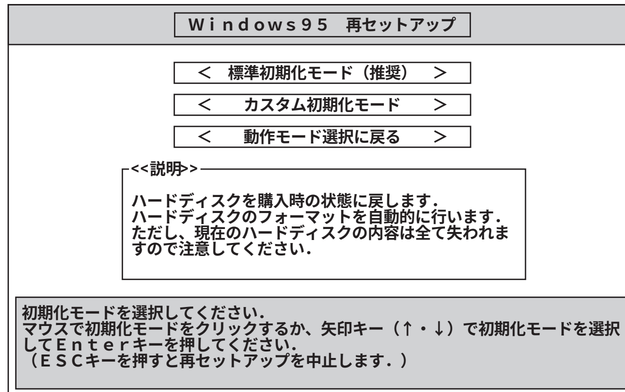
新しく領域を作成しなおしたドライブがある場合は、手順3～6を繰り返してフォーマットしてください。



「1．領域を削除する」で領域の削除をしなかったドライブについては、フォーマットの作業は必要ありません。領域の削除をしなかったドライブをフォーマットすると、フォーマットしたドライブのデータがすべて失われるのでご注意ください。

7 全ての領域のフォーマットが終了したら、[初期化モード選択に戻る]を選択し、↵ キーを押します。

8 ［動作モード選択に戻る］を選択し、⏎キーを押します。



次に「Windows 95を再セットアップする」に進んでください。

Windows 95を再セットアップする

Windows 95の再セットアップ方法には、次の2通りがあります。
購入時と全く同じにしたい場合は、「2-A. 標準セットアップする」の手順を行ってください。
インストールするWindows 95のファイルを自分で設定したい場合は、「2-B. カスタムセットアップする」の手順を行ってください。

2-A. 標準セットアップする……………………

1 次の画面が表示されていることを確認してください。[再セットアップ]を選択して⏎キーを押します。

Ｗｉｎｄｏｗｓ９５　再セットアップ

＜　ハードディスクの初期化　＞
＜　再セットアップ　＞
＜　終　　了　＞

＜＜ 説明 ＞＞
ハードディスクの領域確保や領域削除、およびフォーマットを行います．

動作モードを選択してください．
マウスで動作モードをクリックするか、矢印キー（↑・↓）で動作モードを選択して
Ｅｎｔｅｒキーを押してください．
（ＥＳＣキーを押すと再セットアップを中止します．）

2 [標準再セットアップモード（推奨）]を選択して⏎キーを押します。

Ｗｉｎｄｏｗｓ９５　再セットアップ

＜標準再セットアップモード（推奨）＞
＜カスタム再セットアップモード＞
＜　動作モード選択に戻る　＞

＜＜説明＞＞
購入時の機能を再セットアップします．
選択後は、メッセージに従って操作してください．

再セットアップモードを選択してください．
マウスで再セットアップモードをクリックするか、矢印キー（↑・↓）で再セットアップモードを選択してＥｎｔｅｒキーを押してください．
（ＥＳＣキーを押すと再セットアップを中止します．）



3 「標準再セットアップを開始します。よろしいですか?」のメッセージが表示されます。[はい]を選択して⏎キーを押します。

4 次のメッセージが表示されます。インストール先の容量を確認して、⏎キーを押します。

```
Windows 95の再セットアップを正常終了するた
めにはインストール先の領域が、約460Mバイト
必要です

インストールする領域サイズが460MBに満たない
場合は、電源をOFFにして、本機に添付の「再セ
ットアップガイド」に従って、最初からやり直し
てください。

  Enterキーを押してください。
```

5 ⏎キーを押します。

```
Microsoft Windows 95 Setup

  セットアップへようこそ。

  セットアッププログラムは、コンピュータでWindows 95を
  実行するための準備を行います。

     Enterキーを押すと、Windowsをセットアップします。

     セットアップのヘルプを見るには、F1 キーを押してください。

     セットアップを中止するには、F3キーを押してください。

  注意：最近ファイルをバックアップしていない場合は、Windows
     をインストールする前にバックアップすることをお勧めしま
     す。バックアップするにはＦ３キーを押してセットアップ
     を中止し、BACKUPプログラムを実行してください。

  セットアップを続けるには、Enterキーを押してください。
```

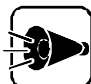
6 セットアップモードを選択して⏎キーを押します。

```
Microsoft Windows 95 Setup

  セットアップモードを選択してください。

  標準セットアップ
  Cドライブブートセットアップ

  選択を決定するには、Enterキーを押してください。
  選択を変更するには、上下の方向キーを使って移動し、Enter
  キーを押してください。
```



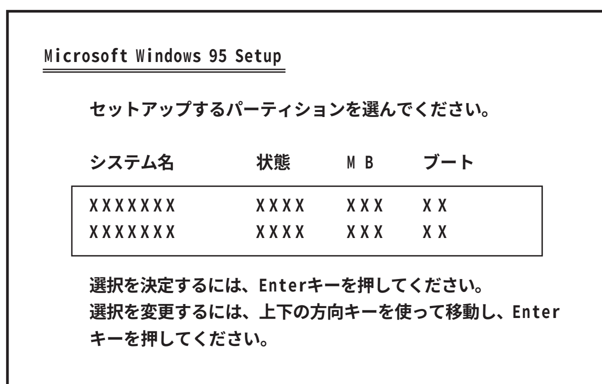
購入時の状態に戻すには必ず[標準セットアップ]を選択してください。



［標準セットアップ］を選択すると、Windows 95をセットアップするドライブや、ドライブ構成を任意に指定することができます。
［Cドライブブートセットアップ］を選択すると、第1ハードディスクの第1パーティションにのみセットアップできます。
また、この時セットアップ後のドライブ構成は次のようになります。

- **フロッピーディスクドライブ　　Aドライブ**
- **ハードディスクドライブの第1パーティション　　Cドライブ**
- **CD-ROMドライブ　　Qドライブ**

7 セットアップしたい領域を選択して↵キーを押します。
手順6で［Cドライブブートセットアップ］を選択した場合は、この画面は表示されません。「第1ハードディスクの第1パーティションにインストールされます。」という旨のメッセージが表示されます。



購入時の状態に戻すには必ずWindows 95と書かれた領域（パーティション）を選択してください。

第3パーティション以降の領域を確保した場合は、ここでフォーマットを促す画面が表示されます。必ず「フォーマット（推奨）」を選択して、すべての領域をフォーマットしてください。

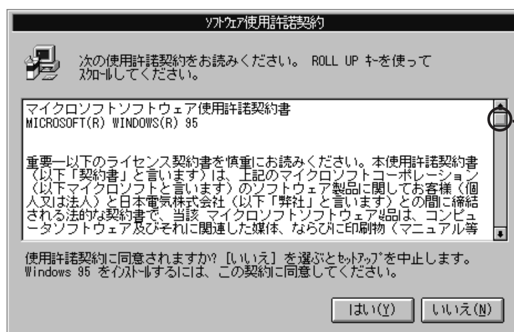
セットアップのためのファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーには1〜2分ほど時間がかかります。しばらくお待ちください。

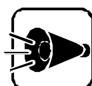
8 ファイルのコピーが終了すると、次のような画面が表示されます。「Windows95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」をフロッピーディスクドライブから取り出し、↵キーを押します。

コンピュータを再起動します。Windows95起動ディスクを
フロッピーディスクドライブから取り出してください。

Enterキーを押すと、続行します。

9 しばらくすると、[ソフトウェア使用許諾契約]の画面が表示されます。
[使用許諾契約書]の内容を確認します。確認が終わったら[はい]ボタンをクリックします。
[使用許諾契約書]は大切な情報ですので、画面をスクロールして、必ずお読みください。

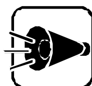




[いいえ]をクリックするとセットアップが中止されます。

10 [セットアップウィザード]の画面が表示されます。画面の内容を確認して[次へ]ボタンをクリックし、再セットアップを続行してください。

11 次に[ディレクトリの選択]の画面が表示されます。
[X:¥Windows](Xはドライブ名)が選択されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。
ディレクトリの準備が行われます。



必ず、[X:¥Windows](Xはドライブ名)を選択して、[次へ]をクリックしてください。



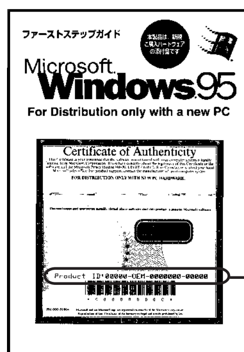
12 ［セットアップ方法］の画面が表示されます。［カスタム］のチェックボックスがチェックされていることを確認して［次へ］ボタンをクリックしてください。



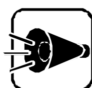
13 次の画面が表示されます。キーボードを使ってProduct IDを入力します。入力が終わったら［次へ］ボタンをクリックします。



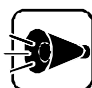
Product IDは添付の『Microsoft® Windows® 95ファーストステップガイド』の表紙に記載されています。



Product IDはここに記載されています。



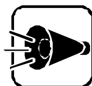
0と0（オー）、1（イチ）とI（アイ）など、似ている文字を間違えないように注意してください。



『Microsoft® Windows® 95ファーストステップガイド』は紛失しないように気を付けてください。
表紙に記載されている「Product ID」がないと、再セットアップできません。

14 ［ユーザー情報］の画面で、キーボードを使って名前と会社名を入力します。入力が終わったら［次へ］ボタンをクリックします。





- **ユーザー情報は、Windows 95のライセンスを受けている人の情報を入力してください。**
- **会社名は入力しなくてもかまいません。ただし、セットアップ完了後に変更することはできません。**
- **名前を入力しないと、次の手順に進むことはできません。**
- **ここで入力した名前は、セットアップ完了後に変更することはできませんので、ご注意ください。**



通常は、日本語ローマ字入力ができるようになっています。

●漢字変換の例　「田中」と入力する場合

①「たなか」と入力します。

ローマ字入力の場合は、キーボードの [T] [A] [N] [A] [K] [A] を押します。

かな入力の場合は、キーボードの [た] [な] [か] を押します。

②キーボードの [　　] （スペース）キーを押します。

入力した文字が漢字に変換されて 田中 のように表示されます。

変換したい漢字が表示されない場合は、キーボードの [　　] （スペース）キーを押します。

③キーボードの [↵] キーを押します。

変換した漢字が確定されます。

- **難しい読み方の名前などを入力する場合は、まず ①〜③の手順で「た」を変換し、次にもう一度①〜③の手順で「なか」を入力するというように、漢字 1文字ごとに区切って入力してください。**
- **ひらがなを入力して、キーボードの [　　　] （スペース）キーを押さずに [↵] キーを押すと、ひらがなのまま確定することができます。**
- **間違えて入力してしまった場合は、[BS] キーを押すことで1文字ずつ削除することができます。**

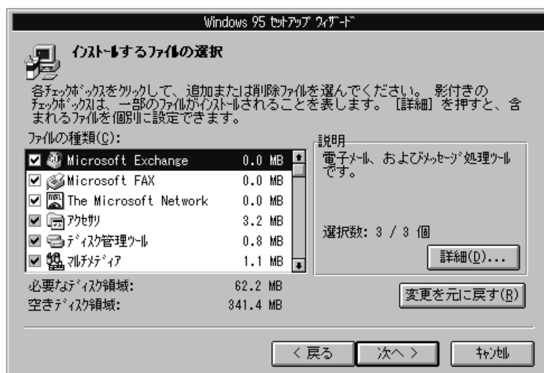
キーボードに関する詳細な説明は『ステップアップガイド』の「キーボード」をご覧ください。

15 次に[コンピュータの調査]の画面が表示され、コンピュータの環境を調査します。[はい]のチェックボックスがチェックされていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。



16 次に表示された画面で、再度[次へ]ボタンをクリックしてください。ハードウェアの調査を開始します。

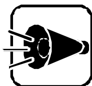
17 再セットアップしたいファイルを選択して[次へ]ボタンをクリックしてください。
購入時の状態に戻すには、設定を変更しないで[次へ]ボタンをクリックします。





ここで選択しなかったオプションについても、再セットアップ後に[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]で組み込むことができます。

18 [コンピュータの設定]の画面が表示され、ハードウェアの設定を一覧表示します。
[次へ]ボタンをクリックしてください。



ここで設定を変更することはできません。変更が必要な項目についてはシステムの再セットアップ終了後に設定を行います。

19 [起動ディスク]の画面が表示されます。[いいえ]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。





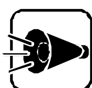
「Windows 95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」というラベルの貼られたフロッピーディスクが本機に添付されていますので、再セットアップに使用するために「Windows 95起動ディスク」を作成する必要はありません。
「Windows 95起動ディスク」を作成した場合は、添付の「マイクロソフト ウィンドウズ95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」のラベルをフロッピーディスクに貼ってください。

20 [コピー開始]画面で[次へ]ボタンをクリックします。
ファイルのコピーが開始されます。

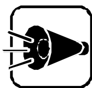
21 [ディスクの挿入]画面が表示されたら、「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックします。

途中でフロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えるメッセージが表示される場合は、画面の指示にしたがってフロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えてください。

22 [コピー完了]の画面が表示されたら、[完了]ボタンをクリックしてください。
コンピュータを再起動します。



これ以降の手順で再起動時に「固定ディスク起動メニュー」が表示された場合は、セットアップしている領域から起動してください。
固定ディスク起動メニューについては、「付録　固定ディスク起動メニューの利用」をご覧ください。



PC-9821 RaII23/W30、PC-9821 Ra266/W30をお使いの場合は、手順28へ進んでください。

23 「MEMORY 640K+...」が表示されたら、すぐに f・8 キーを押します(しばらく押したままにしておいてください)。

24 「Microsoft Windows 95起動メニュー」が表示されます。
(ここで f・8 キーを離してください)

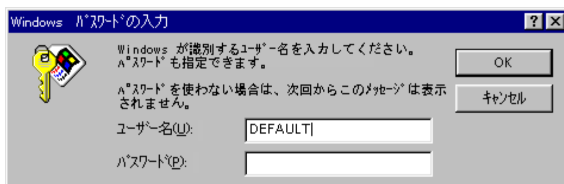
25 メニューの中から「6. コマンドプロンプトのみ」を選択します。MS-DOSコマンドプロンプトが表示されます。
(この時、"コマンドまたはファイル名が違います."というメッセージが表示されても、動作には影響ありません。)

26 CD-ROMドライブに「バックアップCD-ROM」がセットされている事を確認し、フロッピーディスクドライブに「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」をセットします。

27 MS-DOSコマンドプロンプトで以下のように⏎キーまでをそれぞれ続けて入力し、各ファイルが正しく展開されたことを確認してください。

A:¥><フロッピーディスクドライブ名>:¥EXPAND -R Q:¥BACKUP¥WINDOWS¥SYSTEM¥IOSUBSYS¥ESDI_506.PD_<再セットアップ先ドライブ名>¥WINDOWS¥SYSTEM¥IOSUBSYS ⏎
A:¥><フロッピーディスクドライブ名>:¥EXPAND -R Q:¥BACKUP¥WINDOWS¥SYSTEM¥PCI.VX_<再セットアップ先ドライブ名>¥WINDOWS¥SYSTEM ⏎
A:¥> WIN ⏎

28 コンピュータが再起動し、しばらくすると[Windowsパスワードの入力]画面が表示されます。Windowsが識別するユーザー名を入力してください。





- **この画面が表示されないで、コンピュータが停止した場合は、コンピュータの電源を切った後、再度電源を入れ、すぐに f･8 キーを押します。この後、手順23～27の操作を行ってください。**
- **[ユーザー名]を入力せずに[キャンセル]ボタンをクリックすると、[Windowsパスワードの入力]画面は終了し、セットアップは次へ進みます。**
- **パスワードを指定した場合は再セットアップ後、Windowsを起動するたびにパスワードの入力画面が表示されます。指定したパスワードは忘れないように覚えておいてください。**

入力が終了したら、[OK]ボタンをクリックします。
パスワードの確認の画面が表示されたら、指定したパスワードをもう一度入力して[OK]ボタンをクリックしてください。
パスワードを指定しなかった場合は、そのまま⏎キーを押してください。

29 自動的にシステム環境の設定を行います。しばらくすると「システムの設定を完了しました。」というメッセージが表示されます。「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」を取り出し、[OK]ボタンをクリックします。

30 システムが再起動され、「フロッピーディスクドライブに「Windows 95CD-ROMセットアップ起動ディスク」とかかれたフロッピーディスクを入れてください。」というメッセージが表示されます。
「Windows 95CD-ROMセットアップ起動ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックします。
自動的にシステムが再起動します。

続いて、アプリケーションの登録を行います。

1 次のメッセージが表示されていることを確認して、↵キーを押します。

```
＜確認してください＞

・フロッピーディスクが「書き込み可能」になっていること
 を確認してください。「書き込み禁止」になっていると再
 セットアップが行えません。詳しくは、本機に添付の「ス
 テップアップガイド」の「フロッピーディスクドライブ」
 に書いてある「フロッピーディスクの内容の保護」をご覧
 ください。
・CD-ROMドライブに、「バックアップ CD-ROM(OSを除く)」
 が入っていることを確認してください。

準備ができましたら、Ｅｎｔｅｒキーを押してください。
```

2 「Windows95モジュールのアップデートを開始します。」というメッセージが表示されます。↵キーを押します。
アップデートモジュールがコピーされます。

3 Aドライブにインストールした場合は、「アプリケーションの登録を開始します。」というメッセージが表示されます。↵キーを押します。
アプリケーションの登録が開始されます。約10分〜20分程かかります。

4 「CD-ROMドライブに「Microsoft Internet Explorer Version3.02」というラベルの付いたCD-ROMを入れてください。」というメッセージが表示されます。
CD-ROMドライブに「Microsoft Internet Explorer Version3.02 CD-ROM」をセットして、↵キーを押します。

5 「CD-ROMドライブに「Microsoft IME97 Upgrade」というラベルの付いたCD-ROMを入れてください。」というメッセージが表示されます。
CD-ROMドライブに「Microsoft IME97 Upgrade CD-ROM」をセットして、↵キーを押します。

6 しばらくすると、「フロッピーディスクドライブに「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」というラベルが貼られたフロッピーディスクを入れてください。」というメッセージが表示されます。
フロッピーディスクドライブに「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク 」をセットして、↵キーを押します。



7 「システムのインストールが完了しました。」というメッセージが表示されます。「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」および「Microsoft IME97 Upgrade CD-ROM」を取り出し、システムを再起動します。

8 再起動後、しばらくすると次の画面が表示されます。[キャンセル]ボタンをクリックします。

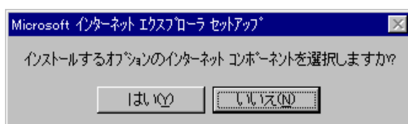


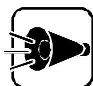


プリンタを利用する場合は、『ステップアップガイド』のPart 2の「プリンタ」をご覧になり、プリンタの接続や設定を行ってください。

9 「使用許諾契約書」の画面が表示されますので、内容を確認します。確認が終わったら[はい]ボタンをクリックします。

10 次の画面が表示されますので、[いいえ]ボタンをクリックします。

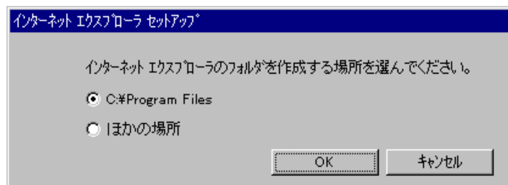




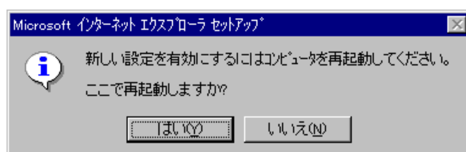
- **次のようなメッセージが表示された場合は[はい]ボタンをクリックします。**
  コピーするファイルより新しいファイルがコンピュータに存在します...
  ファイル名:regsvr32
- **次のようなメッセージが表示された場合は[いいえ]ボタンをクリックします。**
  Windows 95のファイルとは言語またはコードページの異なるファイルが存在します...
  ファイル名:ctl3dv2.dll
- **上記以外のバージョンの競合の画面が表示された場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。**

---

11 次の画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。
(PC-9821 Ra II 23/W30、PC-9821 Ra266/W30をお使いの場合のみ)

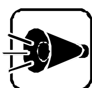


12 次の画面が表示されますので、[いいえ]ボタンをクリックします。



13 「Microsoft Authenticode v2 アップデートはインストールされました.」というメッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

14 再起動を促すメッセージが表示されますので、[いいえ]ボタンをクリックします。



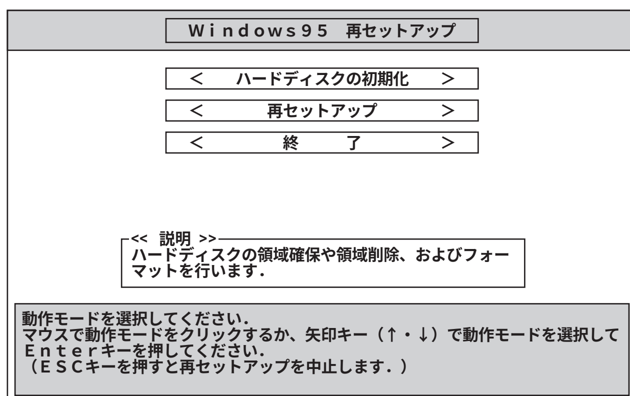
手順13、14はPC-9821 Ra266/W30R、PC-9821 Xa20/W30R、PC-9821 Xa200/W30Rをお使いの場合のみ表示されます。

Aドライブにwindows 95をインストールした場合は、
これでWindows 95のセットアップは終了です。
AドライブにWindows 95をインストールしなかった場合は、
「2-B.カスタムセットアップする」の手順14以降の操作(☞P.47)を行ってください。

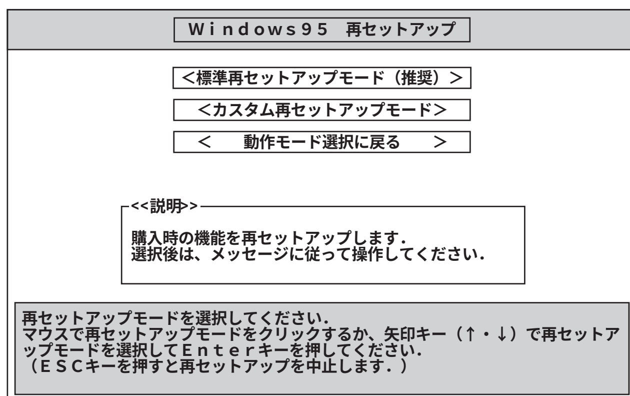


2-B. カスタムセットアップする……………

1 次の画面が表示されていることを確認してください。[再セットアップ]を選択して↵キーを押します。

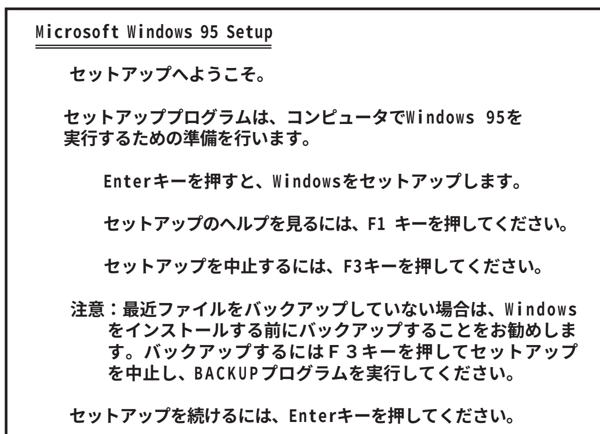


2 [カスタム再セットアップモード]を選択して↵キーを押します。

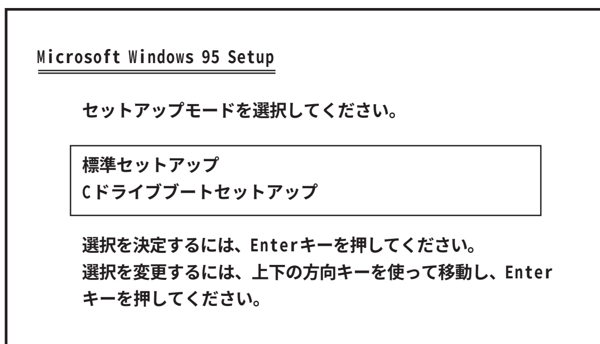


3 「カスタム再セットアップを開始します。よろしいですか?」のメッセージが表示されます。
[はい]を選択して↵キーを押します。

4 ⏎キーを押します。



5 セットアップモードを選択して⏎キーを押します。

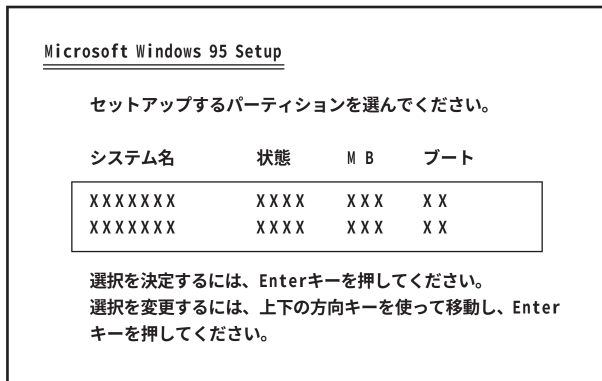


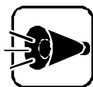


［標準セットアップ］を選択すると、Windows 95をセットアップするドライブや、ドライブ構成を任意に指定することができます。
［Cドライブブートセットアップ］を選択すると、第1ハードディスクの第1パーティションにのみセットアップできます。
また、この時セットアップ後のドライブ構成は次のようになります。

- **フロッピーディスクドライブ　Aドライブ**
- **ハードディスクドライブの第1パーティション　Cドライブ**
- **CD-ROMドライブ　Qドライブ**

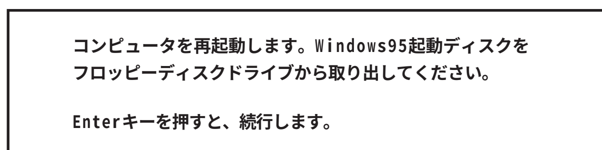
6 セットアップしたい領域を選択して⏎キーを押します。
手順5で[Cドライブブートセットアップ]を選択した場合は、この画面は表示されません。「第1ハードディスクの第1パーティションにインストールされます。」という旨のメッセージが表示されます。



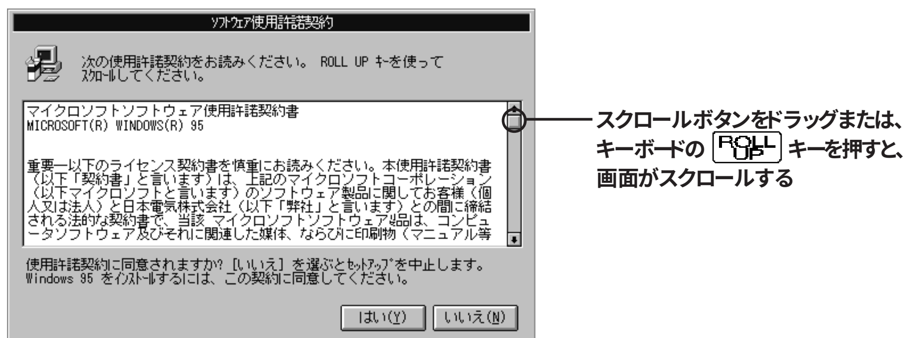


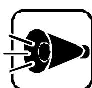
第3パーティション以降の領域を確保した場合は、ここでフォーマットを促す画面が表示されます。必ず「フォーマット(推奨)」を選択して、すべての領域をフォーマットしてください。

7 次のような画面が表示されます。「Windows95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」をフロッピーディスクドライブから取り出し、⏎キーを押します。



8 しばらくすると、[ソフトウェア使用許諾契約]の画面が表示されます。
[使用許諾契約書]の内容を確認します。確認が終わったら[はい]をクリックします。
[使用許諾契約書]は大切な情報ですので、画面をスクロールして、必ずお読みください。

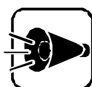




[いいえ]をクリックするとセットアップが中止されます。

9 ［セットアップウィザード］の画面が表示されます。画面の指示にしたがって［次へ］ボタンをクリックし、再セットアップを続行してください。

10 次に［ディレクトリの選択］の画面が表示されます。
Windows 95を再セットアップするディレクトリを選択します。

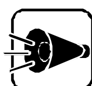


必ず、[X:¥Windows]（Xはドライブ名）を選択して、[次へ]をクリックしてください。



11 ［セットアップ方法］の画面が表示されます。［カスタム］のチェックボックスがチェックされていることを確認して［次へ］ボタンをクリックしてください。



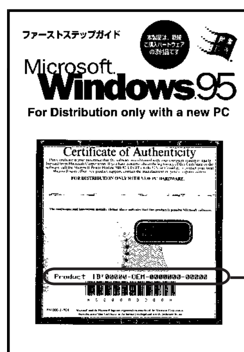


以降は[カスタム]を選択した場合の手順です。他の方法を選択した場合は、表示される画面などが異なる場合があります。

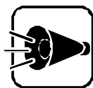
12 次の画面が表示されます。キーボードを使ってProduct IDを入力します。
入力が終わったら[次へ]ボタンをクリックします。



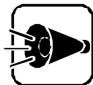
Product IDは添付の『Microsoft® Windows® 95ファーストステップガイド』の表紙に記載されています。



Product IDはここに記載されています。



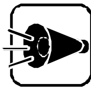
0と0（オー）、1（イチ）とI（アイ）など、似ている文字を間違えないように注意してください。



『Microsoft® Windows® 95ファーストステップガイド』は紛失しないように気を付けてください。
表紙に記載されている「Product ID」がないと、再セットアップできません。

13 ［ユーザー情報］の画面で、キーボードを使って名前と会社名を入力します。
入力が終わったら[次へ]ボタンをクリックします。





- ユーザー情報は、Windows 95のライセンスを受けている人の情報を入力してください。
- 会社名は入力しなくてもかまいません。ただし、セットアップ完了後に変更することはできません。
- 名前を入力しないと、次の手順に進むことはできません。
- ここで入力した名前は、セットアップ完了後に変更することはできませんので、ご注意ください。



通常は、日本語ローマ字入力ができるようになっています。

●漢字変換の例　「田中」と入力する場合

①「たなか」と入力します。

ローマ字入力の場合は、キーボードの [T] [A] [N] [A] [K] [A] を押します。

かな入力の場合は、キーボードの [た] [な] [か] を押します。

②キーボードの [　　　] (スペース)キーを押します。

入力した文字が漢字に変換されて **田中** のように表示されます。

変換したい漢字が表示されない場合は、キーボードの [　　　] (スペース)キーを押します。

③キーボードの [↵] キーを押します。

変換した漢字が確定されます。

- 難しい読み方の名前などを入力する場合は、まず ①〜③の手順で「た」を変換し、次にもう一度①〜③の手順で「なか」を入力するというように、漢字 1文字ごとに区切って入力してください。
- ひらがなを入力して、キーボードの [　　　] (スペース)キーを押さずに [↵] キーを押すと、ひらがなのまま確定することができます。
- 間違えて入力してしまった場合は、[BS] キーを押すことで1文字ずつ削除することができます。

キーボードに関する詳細な説明は『ステップアップガイド』の「キーボード」をご覧ください。

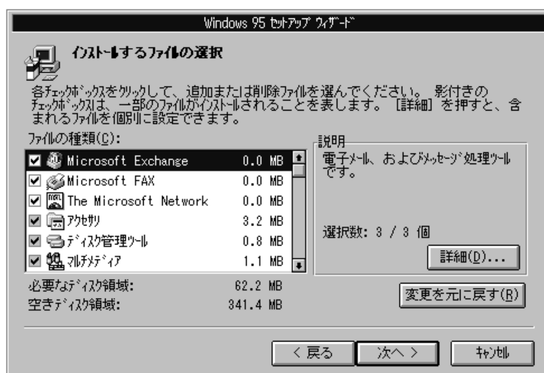
14 次に[コンピュータの調査]の画面が表示され、コンピュータの環境を調査します。すべてのハードウェアデバイスを自動的に調べるか、調べるハードウェアデバイスを指定するか選択してください。
通常は[はい]を選択してください。



- **[はい]を選択した場合**
  次に表示された画面で再度[次へ]ボタンをクリックしてください。
- **[いいえ]を選択した場合**
  次の画面で調査するハードウェアを選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。表示された画面で再度、[次へ]ボタンをクリックしてください。

ハードウェアの調査を開始します。

15 再セットアップしたいファイルのチェックボックスをチェックして[次へ]ボタンをクリックしてください。




ここで選択しなかったオプションについても、再セットアップ後に[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]で組み込むことができます。

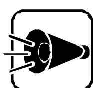
16 ネットワークの設定を行い、[次へ]ボタンをクリックします。



17 [ユーザー情報]の画面で、各項目を入力して、[次へ]ボタンをクリックします。



18 [コンピュータの設定]の画面が表示され、ハードウェアの設定を一覧表示します。[次へ]ボタンをクリックしてください。



ここで設定を変更することはできません。変更が必要な項目についてはシステムの再セットアップ終了後に設定を行います。

19 [起動ディスク]の画面が表示されます。[いいえ]を選択して、[次へ]ボタンをクリックしてください。





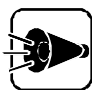
「Windows 95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」というラベルの貼られたフロッピーディスクが本機に添付されていますので、再セットアップに使用するために「Windows 95起動ディスク」を作成する必要はありません。
「Windows 95起動ディスク」を作成した場合は、添付の「マイクロソフト ウィンドウズ95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」のラベルをフロッピーディスクに貼ってください。

20 [コピー開始]画面で[次へ]ボタンをクリックします。
ファイルのコピーが開始されます。

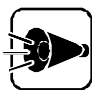
21 「‘CD-ROMドライブに「バックアップCD-ROM(OSを除く)」’ラベルの付いたディスクを挿入して[OK]を押してください。」のメッセージが表示されます。
「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックします。

途中でフロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えるメッセージが表示される場合は、画面の指示にしたがってフロッピーディスクやCD-ROMを入れ替えてください。

22 [コピー完了]の画面が表示されたら、[完了]ボタンをクリックしてください。
コンピュータを再起動します。



これ以降の手順で再起動時に「固定ディスク起動メニュー」が表示された場合は、セットアップしている領域から起動してください。
固定ディスク起動メニューについては、「付録　固定ディスク起動メニューの利用」をご覧ください。



PC-9821 RaII23/W30、PC-9821 Ra266/W30をお使いの場合は、手順28へ進んでください。

23 「MEMORY 640K+...」が表示されたら、すぐに[f･8]キーを押します(しばらく押したままにしておいてください)。

24 「Microsoft Windows 95起動メニュー」が表示されます。
(ここで[f･8]キーを離してください)

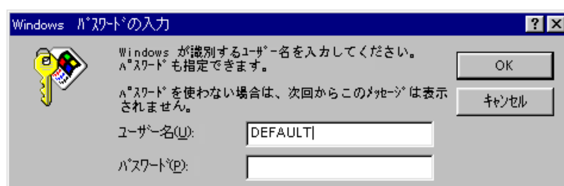
25 メニューの中から「6．コマンドプロンプトのみ」を選択します。MS-DOSコマンドプロンプトが表示されます。
（この時、“コマンドまたはファイル名が違います．”というメッセージが表示されても、動作には影響ありません。）

26 CD-ROMドライブに「バックアップCD-ROM」がセットされている事を確認し、フロッピーディスクドライブに「バックアップCD-ROM（OSを除く）用インストールディスク」をセットします。

27 MS-DOSコマンドプロンプトで以下のように[↵]キーまでをそれぞれ続けて入力し、各ファイルが正しく展開されたことを確認してください。

A:¥> <フロッピーディスクドライブ名>:¥EXPAND -R Q:¥BACKUP¥WINDOWS¥SYSTEM¥IOSUBSYS¥ESDI_506.PD_ <再セットアップ先ドライブ名>¥WINDOWS¥SYSTEM¥IOSUBSYS [↵]
A:¥> <フロッピーディスクドライブ名>:¥EXPAND -R Q:¥BACKUP¥WINDOWS¥SYSTEM¥PCI.VX_ <再セットアップ先ドライブ名>¥WINDOWS¥SYSTEM [↵]
A:¥> WIN [↵]

28 コンピュータが再起動し、しばらくすると[Windowsパスワードの入力]画面が表示されます。Windowsが識別するユーザー名を入力してください。





- **この画面が表示されないで、コンピュータが停止した場合は、コンピュータの電源を切った後、再度電源を入れ、すぐに[f･8]キーを押します。この後、手順23～27の操作を行ってください。**
- **[ユーザー名]を入力せずに[キャンセル]ボタンをクリックすると、[Windowsパスワードの入力]画面は終了し、セットアップは次へ進みます。**
- **パスワードを指定した場合は再セットアップ後、Windowsを起動するたびにパスワードの入力画面が表示されます。指定したパスワードは忘れないように覚えておいてください。**

入力が終了したら、[OK]ボタンをクリックします。
パスワードの確認の画面が表示されたら、指定したパスワードをもう一度入力して[OK]ボタンをクリックしてください。
パスワードを指定しなかった場合は、そのまま[↵]キーを押してください。



29 自動的にシステム環境の設定を行います。しばらくすると「システムの設定を完了しました。」というメッセージが表示されます。「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」を取り出し、[OK]ボタンをクリックします。

30 システムが再起動され、「フロッピーディスクドライブに「Windows 95CD-ROMセットアップ起動ディスク」とかかれたフロッピーディスクを入れてください。」というメッセージが表示されます。
「Windows 95CD-ROMセットアップ起動ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックします。
自動的にシステムが再起動します。

続いて、Windows 95モジュールのアップデートを行います。

1 次のメッセージが表示されていることを確認して、⏎キーを押します。

> **<確認してください>**
>
> **・フロッピーディスクが「書き込み可能」になっていることを確認してください。「書き込み禁止」になっていると再セットアップが行えません。詳しくは、本機に添付の「ステップアップガイド」の「フロッピーディスクドライブ」に書いてある「フロッピーディスクの内容の保護」をご覧ください。**
> **・CD-ROMドライブに、「バックアップ CD-ROM(OSを除く)」が入っていることを確認してください。**
>
> **準備ができましたら、Ｅｎｔｅｒキーを押してください。**

2 「Windows 95モジュールのアップデートを開始します。」というメッセージが表示されます。⏎キーを押します。
アップデートモジュールがコピーされます。

3 「CD-ROMドライブに「Microsoft Internet Explorer Version3.02」というラベルの付いたCD-ROMを入れてください。」というメッセージが表示されます。
CD-ROMドライブに「Microsoft Internet Explorer Version3.02 CD-ROM」のCD-ROMをセットして、⏎キーを押します。

4 「CD-ROMドライブに「Microsoft IME97 Upgrade」というラベルの付いたCD-ROMを入れてください。」というメッセージが表示されます。
CD-ROMドライブに「Microsoft IME97 Upgrade CD-ROM」をセットして、⏎キーを押します。

5 しばらくすると、「フロッピーディスクドライブに「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」というラベルが貼られたフロッピーディスクを入れてください。」というメッセージが表示されます。
フロッピーディスクドライブに「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク 」をセットして、⏎キーを押します。

6 「システムのインストールが完了しました。」というメッセージが表示されます。「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」および「Microsoft IME97 Upgrade CD-ROM」を取り出し、システムを再起動します。

7 再起動後、しばらくすると次の画面が表示されます。[キャンセル]ボタンをクリックします。

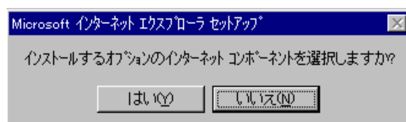


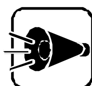


プリンタを利用する場合は、『ステップアップガイド』のPart 2の「プリンタ」をご覧になり、プリンタの接続や設定を行ってください。

8 「使用許諾契約書」の画面が表示されますので、内容を確認します。確認が終わったら[はい]ボタンをクリックします。

9 次の画面が表示されますので、[いいえ]ボタンをクリックします。





- **次のようなメッセージが表示された場合は[はい]ボタンをクリックします。**

  コピーするファイルより新しいファイルがコンピュータに存在します...
  ファイル名：regsvr32

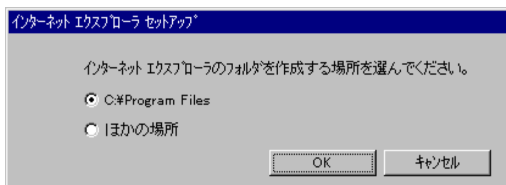
- **次のようなメッセージが表示された場合は[いいえ]ボタンをクリックします。**

  Windows 95のファイルとは言語またはコードページの異なるファイルが存在します...
  ファイル名:ctl3dv2.dll

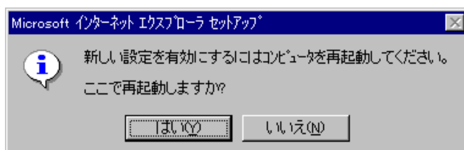
- **上記以外のバージョンの競合の画面が表示された場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。**

---

10 次の画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。
(PC-9821 Ra II 23/W30、PC-9821 Ra266/W30をお使いの場合のみ)

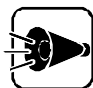


11 次の画面が表示されますので、[いいえ]ボタンをクリックします。



12 「Microsoft Authenticode v2 アップデートはインストールされました.」というメッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

13 再起動を促すメッセージが表示されますので、[いいえ]ボタンをクリックします。



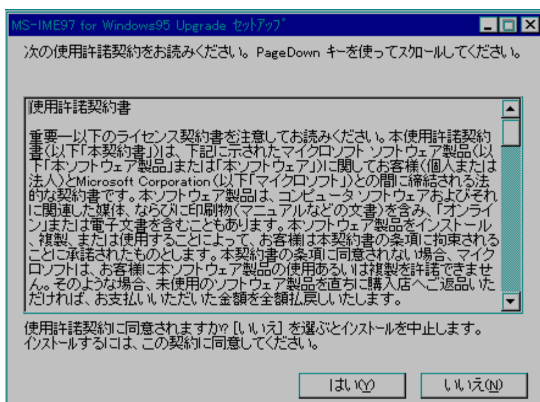
手順12、13はPC-9821 Ra266/W30R、PC-9821 Xa20/W30R、PC-9821 Xa200/W30Rをお使いの場合のみ表示されます。

---

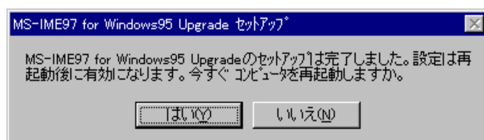
14 次の画面が表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。



15 次の画面が表示されますので、[使用許諾契約書]の内容を確認します。確認が終わったら[はい]ボタンをクリックします。



16 次の画面が表示されますので、[いいえ]ボタンをクリックします。



17 Windowsを再起動後、[スタート]メニューの[Windowsの終了]をクリックし[MS-DOSモードで再起動する]を選択します。

18 フロッピーディスクドライブに「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」をセットし、次の例のように入力します。

(例)フロッピーディスクドライブがCドライブの場合

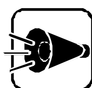
C:⏎
MOVIME⏎

「モジュールのコピーが完了しました。システムの再起動を行ってください.」メッセージが表示されます。

19 次のように入力し、Windowsシステムを再起動します。

EXIT⏎

これでWindows 95の再セットアップは終了です。『アプリケーション操作ガイド』のPart6の「削除したアプリケーションを再追加する」を参照して、アプリケーションを追加してください。



アプリケーションのインストール時やアプリケーション実行時に、ctl3d32.dllのバージョンが競合する旨のメッセージが表示された場合、以下の処置を行ってください。

「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」と書かれたフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、MS-DOSプロンプトから次の例のように入力します。

(例)フロッピーディスクドライブがCドライブ、Windows 95がインストールされているドライブがAドライブの場合

C: ⏎
copy ctl3d32.dll a:¥windows¥system⏎

「上書きしますか」というメッセージが表示されたら、Yキーを押します。

Part 2

他のOSを利用する

Windows 3.1、MS-DOSやOS/2など、別売のOSを本機で利用するために必要な知識や注意事項について説明しています。

Windows 95以外のOSをご利用になる際の注意

Windows 95以外のOSをご利用になる場合は、Windows 95がインストールされている領域とは別の領域に、インストールやアップグレードなどを行ってください。インストールやアップグレードを行う際にはMS-DOSに関する知識が必要となります。MS-DOSに添付されているマニュアルをよくお読みの上、ご利用ください。

MS-DOSを利用する

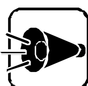
本機で別売のMS-DOSを利用する場合に必要となるアップグレードの手順について説明します。
また、アップグレードしたことにより、利用できる機能についても説明します。

MS-DOS　6.2の利用........................

本機では、以下のMS-DOSがお使いになれます。

- **MS-DOS 6.2基本機能セット　　　　　　　　（以降、MS-DOS 6.2）**

次に、これら別売のMS-DOSを利用する場合に必要となるアップグレードの手順について説明します。



- **Windows 95がインストールされている領域およびMS-DOSをインストールする領域が圧縮されている場合は、その領域を展開してからインストールやアップグレードを行ってください。**
- **Windows 95がインストールされている領域を解放して、MS-DOSをインストールする場合は、領域を解放する前に作業が必要となります。後述の「●参考Windows 95の領域を解放してMS-DOSをインストールする」をご覧ください。また、Windows 95がインストールされている領域がMS-DOSから認識できない場合も、同様の手順に従ってアップグレードしてください。なお、MS-DOS 6.2以外のソフトウェアをアップグレードする場合は、Windows 95の領域を解放しないでください。**

■MS-DOS　6.2のアップグレード

本機で別売のMS-DOS 6.2を利用するには、必ず次の手順でアップグレードを行ってください。

(1)アップグレードモジュールの複製

(2)システムディスクの複製

(3)複製したシステムディスクのアップグレード

(4)MS-DOSのインストール

(5)インストールしたMS-DOSのアップグレード

(1)アップグレードモジュールの複製

ここでは、アップグレードに必要なモジュールをCD-ROMからハードディスクへコピーする手順を説明します。
アップグレード作業の前に、必ずこの作業を行ってください。

以下の手順では、次のものが必要です。準備しておいてください。

- **バックアップCD-ROM**(本機添付)

1 本機の電源をONにしてWindows95を起動します。

2 [スタート]メニューから[プログラム]ー[MS-DOSプロンプト]をクリックし、コマンドプロンプトを表示させます。

3 カレントディレクトリがWindows95がインストールされているドライブのルートディレクトリでない場合は、コマンドプロンプトから次のように入力してください。

CD ¥⏎

4 「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。

5 コマンドプロンプトから次のように入力し、Windows95がインストールされているドライブに¥DOS62ディレクトリを作成し、アップグレードに必要なファイルをCD-ROMからコピーします。

MD <Windows95ドライブ名>:¥DOS62⏎
COPY <CD-ROMドライブ名>:¥DOS62¥*.* <Windows95ドライブ名>:¥DOS62⏎

6 コマンドプロンプトから次のように入力し、[MS-DOSプロンプト]を終了します。

EXIT⏎

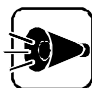
7 Windows95を終了し、本機の電源をOFFにしてください。

(2)システムディスクの複製

以下の手順では、次のものが必要です。準備しておいてください。

- **MS-DOS 6.2 システムディスク(別売)**
- **2HDフロッピーディスク:1枚**

  2HDフロッピーディスクには、あらかじめ「アップグレード済みシステムディスク#1」と書いたラベルを貼っておいてください。



Windows 95の領域を解放して、MS-DOSをインストールする場合は、別途フロッピーディスクが必要となります。その際は指示にしたがって用意してください。詳しくは後述の「●参考 Windows 95の領域を解放してMS-DOSをインストールする」をご覧ください。

はじめに、「MS-DOS 6.2 システムディスク#1」に対してアップグレードを行います。アップグレードによりシステムディスクの内容を書き換えますので、必ずシステムディスクの複製を作成し、複製に対してアップグレードを行ってください。オリジナルのシステムディスクは大切に保存しておいてください。

1 本機の電源をONにして、「Windows 95を起動しています...」のメッセージが表示されたら、キーボードの[f･8]キーを押してWindows 95起動メニューを表示させます。

2 Windows 95起動メニューから「コマンドプロンプトのみ」を選択します。
システムディスクのアップグレードが終了するまでは、起動したコマンドプロンプトのまま続けて作業してください。

3 あらかじめ用意しておいた「アップグレード済みシステムディスク#1」をフロッピーディスクドライブにセット後、コマンドプロンプトから次のように入力し、1.25Mバイトでフォーマットします。

FORMAT <フロッピーディスクドライブ名>: /U /M ↵

4 DISKCOPYコマンドを使って「システムディスク#1」の複製を作成します。
複製はあらかじめ用意した「アップグレード済みシステムディスク#1」に作成します。
DISKCOPYコマンドの使用方法はコマンドプロンプトで次のように入力して、確認してください。

DISKCOPY /? ↵

(3)複製したシステムディスクのアップグレード

引き続き、複製したシステムディスク「アップグレード済みシステムディスク#1」に対してアップグレードを行います。

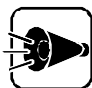
1 フロッピーディスクドライブに「アップグレード済みシステムディスク#1」をセットします。

2 コマンドプロンプトから次のように入力し、アップグレードを実行します。

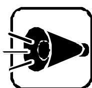
CD　¥DOS62 ↵
UPDOS62　<フロッピーディスクドライブ名>：↵

(4)MS-DOSのインストール

引き続き、「アップグレード済みシステムディスク#1」を使って、ハードディスクまたはフロッピーディスクへのインストールを行います。
MS-DOSのインストール方法については、別売のMS-DOS 6.2 に添付のマニュアルをご覧ください。
なお、MS-DOS6.2をハードディスクにインストールする場合は、必ず20MB以上の容量を確保し、MS-DOS6.2のすべての機能をインストールしてください。



MS-DOS6.2に添付されているWindowsモジュールは、Windows95およびWindows NTではご利用になれません。
なお、Windows3.1でMS-DOS6.2のWindowsモジュールをご利用になる場合は、MS-DOS6.2とWindows3.1のアップグレードをすべて終了してから、INSTWINコマンドを使ってWindowsモジュールをインストールしてください。INSTWINコマンドについては、MS-DOS6.2に添付の「インストールガイド」をご覧ください。



「アップグレード済みシステムディスク#1」はこのディスクを作成した環境でのみ使用できます。CD-ROMドライブなどのハードウェア構成を変更すると、正常にMS-DOSをインストールできない場合があります。そのような場合は、最初からアップグレードをやりなおしてください。

---

(5)インストールしたMS-DOSのアップグレード

引き続き、「アップグレード済みシステムディスク#1」を使ってインストールしたMS-DOSを、再度アップグレードします。

1 MS-DOSをインストールしたハードディスク、またはフロッピーディスクから起動します。
DOSシェルの画面が表示された場合は、キーボードの[f･3]キーを押して終了してください。

2 コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブをWindows 95がインストールされているハードディスクのドライブに変更します。

〈ドライブ名〉にはWindows 95のドライブを指定してください。

<ドライブ名>：[↵]

3 コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントディレクトリを変更した後、アップグレードを実行します。
〈ドライブ名〉にはMS-DOSをインストールしたドライブを指定します。
ハードディスクにインストールした場合はディレクトリ名も指定してください。

- **フロッピーディスクにインストールした場合**
  CD ¥DOS62 [↵]
  UPDOS62 <フロッピーディスクドライブ名>： [↵]
- **ハードディスクにインストールした場合**
  CD ¥DOS62 [↵]
  UPDOS62 <ドライブ名>：¥<ディレクトリ名> [↵]

4 アップグレードが終了したら、再起動してアップグレードしたMS-DOSをお使いください。

●参考　Windows　95の領域を解放してMS-DOSをインストールする

ここではWindows　95がインストールされている領域を解放して別売のMS-DOS 6.2をインストールする場合の手順について説明します。

別売のMS-DOS 6.2をWindows　95がインストールされている領域を解放してインストールするには、必ず次の手順で行ってください。

1. システムディスクの複製

アップグレードに必要なファイルのバックアップを行います。

> 以下の手順では、MS-DOSでフォーマット済みの2HDフロッピーディスクが必要です。あらかじめ準備しておいてください。
>
> ・**MS-DOS 6.2をインストールする場合：2枚**

次に手順を説明します。

1 「■MS-DOS 6.2 のアップグレード」の「(1)アップグレードモジュールの複製」から「(3)複製したシステムディスクのアップグレード」の手順を行います。

2 フロッピーディスクドライブに用意したフロッピーディスクをセットし、コマンドプロンプトから次のように入力します。
画面の指示にしたがってフロッピーディスクを入れ替えてください。

CD　¥DOS62 ↵
FBACK62　<フロッピーディスクドライブ名>： ↵

メッセージに従って、作成したフロッピーディスクにラベルを貼ります。

3 「■MS-DOS 6.2　のアップグレード」の「(4)MS-DOSのインストール」を行います。

2. インストールしたMS-DOSのアップグレード

引き続き、「アップグレード済みシステムディスク#1」を使ってインストールしたMS-DOSを、再度アップグレードします。

1 MS-DOSをインストールしたハードディスクから起動します。
DOSシェルの画面が表示された場合は、キーボードの[f･3]キーを押して終了させます。

2 フロッピーディスクドライブに「●参考 Windows95の領域を解放してMS-DOSをインストールする」の「1. システムディスクの複製」の手順2で作成した「バックアップディスク#1」をセットします。

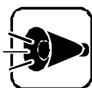
3 コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントドライブを「バックアップディスク#1」をセットしたドライブに変更して、アップグレードに必要なファイルをハードディスクにリストアします。
〈ドライブ名〉にはMS-DOSをインストールしたハードディスクのドライブ名を入力します。

<フロッピーディスクドライブ名>：[↵]
FBACK62 <ドライブ名>：[↵]
<ドライブ名>：[↵]

4 以降は、「■MS-DOS 6.2 のアップグレード」の「(5) インストールしたMS-DOSのアップグレード」の手順3以降を実行します。

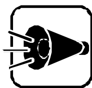
■MS-DOS　6.2での複数台CD-ROMドライブの利用

ここでは別売の「MS-DOS　6.2」上でCD-ROMドライブを複数台同時に使用する場合に必要となる設定方法や注意事項を説明します。



次のCD-ROMドライブを接続している場合は、複数台接続の設定はできません。

- **PC-ODX**
- **PC-CD800**
- **PC-CD60/7**
- **PC-CD400D/4**
- **PC-ODXD**
- **PC-ODX66**
- **NEC製以外のCD-ROMドライブ**



MS-DOS　6.2上で接続できるCD-ROMドライブはSCSI接続が4台まで、本体内蔵の専用インターフェイス接続が1台までで、合計最大5台までです。

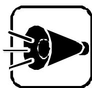
●CD-ROMドライブの複数台接続の設定

CD-ROMドライブの複数台接続の設定は、INSTCDコマンドを使用して行います。INSTCDコマンドは、起動ドライブのCONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイルにCD-ROMの複数台接続の設定を自動的に行います。
INSTCDコマンドを使用するには、次の条件が全て満たされている必要があります。

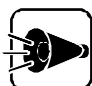
- **1台目のCD-ROMドライブが使用可能な設定になっている。**
- **ハードディスクにインストールされているMS-DOS　6.2から起動している。**
- **MS-DOS　6.2がインストールされているディレクトリが、環境変数DOSDIRに正しく設定されている。**
- **AUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「/L:」で指定したドライブ番号が、増設するCD-ROMドライブのドライブ番号を連続して確保できる設定になっている。**

INSTCDコマンドを実行するには、コマンドプロンプトから次のように入力します。

INSTCD ↵



INSTCDコマンドはWindowsのMS-DOSプロンプトおよびDOSシェルからは実行できません。



ネットワークドライブが存在する場合や、SUBSTコマンドなどで設定した仮想ドライブが存在する場合、INSTCDコマンド実行後に以下の現象が起こることがあります。

- **ネットワークドライブが使用できなくなる**
- **SUBSTコマンドなどで設定した仮想ドライブが使用できなくなる**
- **CD-ROMドライブが使用できなくなる**

このような場合は、次の手順でCD-ROMドライブの接続設定を再度行うと、従来の環境どおりにご利用になれます。

①INSTCDコマンドでCD-ROMドライブの接続設定を行う。

②SEDITなどのエディタを使用して、ネットワークドライブや仮想ドライブのドライブ指定やAUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「/L:」のドライブ指定を他のドライブの割り当てと重複しないよう変更する。

●CD-ROMドライブの複数台接続の解除

CD-ROMドライブの複数台接続の設定を解除するには、次の手順で行ってください。

1 SEDITなどのエディタを使用して、CONFIG.SYSファイルおよびAUTOEXEC.BATファイルのCD-ROMの設定行の先頭に、すべて「REM」を追記して、CD-ROMドライブの接続設定を無効にします。

例 **<CONFIG.SYSファイル>**

```
REM  DEVICE=A:¥DOS¥NECCD.SYS /D:CD_101
REM  DEVICE=A:¥DOS¥NECCDB.SYS /D:CD_B
```

<AUTOEXEC.BATファイル>

```
REM  A:¥DOS¥MSCDEX   /D:CD_101   /L:Q   /D:CD_B
```

2 本機を再起動します。

3 CUSTOMコマンドで、再度標準装備されているCD-ROMの設定を行います。

4 SEDITなどのエディタを使用して、AUTOEXEC.BATファイルの中のMSCDEX行のパラメータ「/L:」にドライブ名を指定します。

例　CD-ROMドライブをQドライブに設定する

```
A:¥DOS¥MSCDEX  /D:CD_101  /L:Q
```

5 本機を再起動すると、CD-ROMドライブの複数台接続が解除されます。

●複数台接続時のCD-ROMアプリケーション使用上のご注意

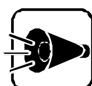
- **CD-ROMアプリケーションを使用する場合、複数台のCD-ROMドライブのうち先頭以外のドライブにCD-ROMをセットすると、正常に動作しないものがあります。**
  この場合には、CD-ROMアプリケーションを先頭のCD-ROMドライブにセットしなおしてお使いください。
- **CD-ROMアプリケーションによっては、CD-ROMドライブが複数割り当てられた状態では動作しないものがあります。**
  この場合には、接続しているCD-ROMドライブを1台にするなど、CD-ROMドライブが1台しか割り当てられていない状態にしてください。

■MS-DOS　6.2の強化機能

MS-DOS 6.2をアップグレードしたことにより、本機で使用できる強化機能は次のとおりです。

●POWERコマンド

POWERコマンドは、MS-DOSシステムやアプリケーションソフトの動作を監視して、本機をパワーセーブ（消費電力制御）状態にします。
POWERコマンドを使用することで、MS-DOSシステムレベルでのパワーセーブが可能になります。



本体の［省電力の設定］メニューに［CPU自動停止］の設定がある場合は［設定しない］にしてご使用ください。［省電力の設定］については『ステップアップガイド』をご覧ください。

・POWERコマンドの組み込み

POWERコマンドを使用するには、CONFIG.SYSファイルに次の一行を追加して本機を再起動します。

```
DEVICE=A：¥DOS¥POWER.EXE
```

POWERコマンドは、UMBメモリに十分な空き容量が存在する場合、組み込み時に自動的にUMBメモリを利用します。
また、POWERコマンドには次のようなスイッチがあります。

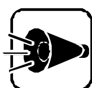
```
DEVICE=A：¥DOS¥POWER.EXE [ADV [: MAX|REG|MIN]|STD|OFF] [/LOW]
```

ADV[：MAX|REG|MIN]
アプリケーションソフトやハードウェアのアイドル（何もしていない時間）を検出して、本機をパワーセーブ動作状態にします。MIN、REG、MAXの順にパワーセーブされる度合いが高くなりますが、本機の動作速度が遅くなる可能性も大きくなります。動作速度に問題が発生する場合は、MINを指定してください。これらの指定を省略した場合は、REG指定の状態で動作します。

STD　POWERコマンドの機能を無効にします。本体に省電力機能がある場合は設定された値を有効にします。

OFF　POWERコマンドの機能を無効にします。本体に省電力機能がある場合は設定された値を無効にします。

/LOW　UMBメモリに十分な空き容量がある場合でも、UMBメモリを使用しません。

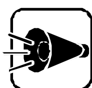


POWERコマンドは、ADDDRVコマンドでは組み込まないでください。

・POWERコマンドの動作の変更

POWERコマンド組み込み後に動作の設定を変更する場合は、コマンドラインから次のように指定します。スイッチの内容は組み込み時と同様です。

POWER [ADV [: MAX|REG|MIN] STD|OFF] ⏎



POWERコマンドを組み込んでいない場合、コマンドラインからの設定変更はできません。

●MAXLINK-LITE

ここでは、MS-DOS 6.2に添付されているマニュアルに記述されている「MAXLINK LITE」の補足事項を説明します。
MAXLINK-LITEは最大115.2Kbpsでの高速通信に対応しています。

・MAXLINK.DRVのスイッチ

MAXLINK.DRVのスイッチは次のとおりです。

DEVICE=A:¥DOS¥MAXLINK.DRV [/1|/2|/3][/W][/E]

/1	本機内蔵シリアルインターフェイスを使用します(デフォルトの値)。
/2	拡張RS-232C第2回線を使用します。
/3	拡張RS-232C第3回線を使用します。
/W	相手機のMAXLINKコマンドが実行されるまで待機します。
/E	相手機のドライブをすべて交換可能なドライブとして処理します。

・MAXLINK.EXEのスイッチ

MAXLINK.EXEのスイッチは次のとおりです。

MAXLINK [/1|/2|/3][/S0|/S5|/S3|/S1|/S9|/S4]

/1	本機内蔵シリアルインターフェイスを使用します(デフォルトの値)。
/2	拡張RS-232C第2回線を使用します。
/3	拡張RS-232C第3回線を使用します。
/S0	転送速度を115200bpsに設定します。

/S5	転送速度を57600bpsに設定します。
/S3	転送速度を38400bpsに設定します。
/S1	転送速度を19200bpsに設定します。
/S9	転送速度を9600bpsに設定します(デフォルトの値)。
/S4	転送速度を4800bpsに設定します。

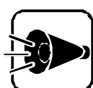
●高分解能クロックデバイス

HRTIMER.SYSは、MS-DOSで1/100秒単位での時刻の取得／設定を行う場合に使用する高分解能クロックデバイスです。

・HRTIMER.SYSの組み込み

高分解能クロックデバイスを使用するにはCONFIG.SYSファイルに次のような一行を追加して本機を再起動します。

DEVICE=A:¥DOS¥HRTIMER.SYS



- **HRTIMER.SYSは、ADDDRVコマンドを使用して組み込まないでください。**

また、オンラインヘルプの注意事項も必ずお読みください。

■固定ディスク起動メニュープログラムについて

本機の固定ディスク起動メニューで自動起動の設定/解除を行うには、キーボードの[f･1]キーを使用します。
固定ディスク起動メニュープログラムについて、詳しくは付録の「固定ディスク起動メニューの利用」または、MS-DOSのマニュアルをご覧ください。

Windows 3.1を利用する

**本機でWindows 3.1を利用する場合やアップグレードの手順について説明します。
また、アップグレードしたことにより、利用できる機能についても説明します。**

Windows 3.1の利用........................

本機でMicrosoft Windows 3.1(以降、Windows 3.1)を利用するには、次の手順で、アップグレードや表示解像度、サウンド機能の設定を行ってください。また、本機で使用できるWindows 3.1の強化機能についても説明しています。

アップグレードでは、次のものが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

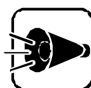
- **バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク**(本機添付)
- **バックアップCD-ROM**(本機添付)

■Windows 3.1のアップグレード

本機で別売のWindows 3.1を利用するには、必ず次の手順でアップグレードを行ってください。

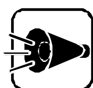
1 Windows 3.1をハードディスクドライブにインストールします。
Windows 3.1のインストール方法は、Windows 3.1の添付マニュアルの『お使いになる前に』をご覧ください。

2 インストール途中でセットアップ方法を選択する画面が表示されます。ここで[カスタムセットアップ]を選択します。



セットアップの際に、[入門セットアップ]や[標準セットアップ]を選択すると、自動的に解像度が選択されますので、これらのセットアップ方法は選択しないでください。

3 システムのハードウェア、ソフトウェア構成を選択する画面が表示されたら、ディスプレイの項目で[640×400 16色 12ドット]または、[640×400 16色 16ドット]を選択します。



[スワップファイルの設定]ダイアログボックスで[BIOSを経由しないでスワップファイルを利用]に×印がついている(選択されている)場合、マウスでこのチェックボックスをクリックするなどして、×印を消してください。
また、Windows 3.1をインストール、アップグレードした後も、このチェックボックスは選択しないでください。
選択した状態でWindows 3.1をインストールする、またはWindows 3.1を使用すると、正常に動作しない場合があります。
[アプリケーションの登録]ダイアログボックスの[検索するパスかドライブ]で、WindowsNTのインストールされている領域を選択しないでください。

4 Windows 3.1のインストールが終了したら、一度電源をOFFにします。

5 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。
Windows 3.1が起動した場合には、終了して、MS-DOS画面にしてください。

6 「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」をフロッピーディスクドライブに、「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。

7 コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリをCD-ROMドライブの「WIN31」ディレクトリに変更します。

```
<CD-ROMドライブ名>:↵
CD ¥WIN31↵
```

8 コマンドプロンプトから次のように入力して、Windows3.1をアップグレードします。<ドライブ名>、<ディレクトリ名>にはWindows3.1をインストールしたドライブとディレクトリを入力します。

```
UPWIN<ドライブ名>:¥<ディレクトリ名>↵
```

9 アップグレードを終了後、本機を再起動してください。

10 Windows3.1が起動後、「WIN.INI」ファイルを修正します。[プログラムマネージャ]の[アイコン]-[ファイル名を指定して実行]を選択し、以下のように入力します。

```
notepad <ドライブ名> : ¥windows¥win.ini
```

<ドライブ名>には、Windows 3.1をインストールしたドライブを入力します。



11 [メモ帳]が開きます。「WIN.INI」ファイルを以下のように修正します。

```
[windows]
    ・
    ・
load = <AP名の並び>  wspowoff.exe
    ・                  ↑このファイル名を追加します。
    ・
```

<AP名の並び>は元々記述されていた実行ファイル名の並びを示しています。

12 [ファイル]－[上書き保存]をクリックして修正内容を保存した後、[メモ帳]を終了します。

13 「SYSTEM.INI」ファイルを修正します。[プログラムマネージャ]の[アイコン]－[ファイル名を指定して実行]を選択し、以下のように入力します。

```
notepad  <ドライブ名>:¥windows¥system.ini
```

<ドライブ名>には、Windows 3.1をインストールしたドライブを入力します。

14 [メモ帳]が開きます。「SYSTEM.INI」ファイルに以下の行を追加します。

```
[386Enh]
    ・
    ・
device=vpowwach.386     ←  この行を追加
```

15 [ファイル]－[上書き保存]をクリックして修正内容を保存した後、[メモ帳]を終了します。

16 Windows 3.1を再起動します。

■表示解像度の設定

本機はウィンドウアクセラレータを内蔵しています。内蔵のウィンドウアクセラレータに対応したディスプレイドライバを使用することで、高解像度、多色表示を利用できます。

●解像度の種類

本機内蔵のウィンドウアクセラレータでは、次の解像度が使用できます。

解像度	表示色
640×480	26万色中256色
640×480	6万5千色
640×480	1677万色
800×600	26万色中256色
800×600	6万5千色
800×600	1677万色
1024×768	26万色中256色
1024×768	6万5千色
1280×1024	26万色中256色

●ディスプレイドライバの組み込み

MS-DOSのコマンドプロンプトから、WindowsディレクトリのSETUPコマンドを起動して、ディスプレイドライバを組み込みます。
ディスプレイドライバを組み込む方法の詳細は、『Microsoft Windows 3.1　機能ガイド』の「第14章　セットアップによるWindowsの利用環境の変更」をご覧ください。

●マイクロソフト社製Microsoft Windows 3.1で内蔵ウィンドウアクセラレータを使用する場合の注意

マイクロソフト社製Windows 3.1のSETUPコマンド実行時のディスプレイの項目で、内蔵アクセラレータボード対応のドライバを選択した場合、フロッピーディスクを差し替える旨のメッセージが表示されます。このとき、指定のフロッピーディスクをセットしてもセットアップを継続できない場合は、次のフロッピーディスクと差し替えてください。

画面のメッセージ	セットするフロッピーディスク（マイクロソフト社製の場合）
Microsoft Windows 3.1 DISK #1	Windowsディスク #2
Microsoft Windows 3.1 DISK #3	Windowsディスク #2
Microsoft Windows 3.1 DISK #8	Windowsディスク #4
Microsoft Windows 3.1 DISK #11	Windowsディスク #9

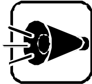


■サウンド機能の設定

ここでは、Windows 3.1でのサウンド機能の利用方法について説明します。

●サウンドドライバの組み込み

次の手順でサウンドドライバを組み込んでください。



次のドライバが組み込まれている場合は、あらかじめ削除してください。

- **NECサウンドボード(PC-9801-26K)MIDI**
- **NECサウンドボード(PC-9801-73)Wave & MIDI**
- **NECサウンドボード(PC-9801-86)Wave & MIDI**

削除の手順は以下のとおりです。

①[コントロールパネル]の[ドライバ]をダブルクリックします。

②表示されたダイアログボックスで上記のドライバを選択し、[削除]ボタンをクリックし削除します(Windowsの再起動は行わないでください)。

③[アクセサリ]グループの[メモ帳]を起動して[SYSTEM.INI]ファイルの次の行を削除します。

```
device=vsbd.386
```

④Windowsを終了します。

1 Windows 3.1を起動します。

2 [メイン]グループの[コントロールパネル]アイコンをダブルクリックして、さらに[ドライバ]アイコンをダブルクリックします。

3 [ドライバの設定]ダイアログボックスの[追加]ボタンをクリックします。

4 [一覧にない、または更新されたドライバ]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。

5 [ドライバの組み込み]ダイアログボックスが表示されたら、次のように指定します。

<Windows 95のドライブ名>:¥WIN31

6 [OK]ボタンをクリックします。

7 「NEC PCM Sound Driver」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

8 [現在のものを使う]をクリックします。

9 組み込みが終了したら、[システム設定の変更]ダイアログボックスで[再起動する]をクリックしてください。

10 Windows 3.1を再起動すると、サウンド機能が使えるようになります。

●音量の調節

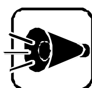
サウンドの音量調節を行うツールとして、[ボリュームコントロール](VOLUME.EXE)があります。次の手順で音量調節を行ってください。

1 [メイン]グループから[ファイルマネージャ]アイコンをダブルクリックして、ファイルマネージャを起動します。

2 WindowsディレクトリのVOLUME.EXEをダブルクリックしてボリュームコントロールユーティリティを起動します。

3 音量を調整します。

ボリュームコントロールユーティリティの使用方法は、[ボリュームコントロール]のヘルプをご覧ください。



ボリュームコントロールユーティリティでは、サウンドボードの音量調節はできません。詳しくは[ボリュームコントロール]のヘルプをご覧ください。

■Windows 3.1の強化機能

Windows 3.1をアップグレードしたことにより、本機で使用できる強化機能は次のとおりです。

●19200bpsの通信速度の利用

Windows 3.1上では19200bpsまでの通信速度が利用可能です。
利用する際の注意事項は、以下のとおりです。

- RS-232Cでの通信は、CPUなどの通信先のハードウェア性能や利用するアプリケーションソフト、またはマルチタスクで使用しているかなどの条件によって大きく影響されます。このため、19200bpsで安定した通信ができない場合があります。
- Windowsの[アクセサリ]グループにある[イメージスキャナ]で指定できるデータ転送速度は9600bpsまでです。19200bpsでのデータ転送はできません。
- 2nd CCUにモデム等を接続して使用する場合には、使用するアプリケーションで接続するポートの指定をCOM4にしてください。
- COM4のシリアルポートを接続した場合は、75bps、150bpsの通信速度は使用できません。



MS-DOSのSPEEDコマンドとSWITCHコマンドでも、従来の通信速度に加えて19200bpsを指定することができます。指定方法は、他の通信速度と同じですので、MS-DOSのマニュアルをご覧ください。

Windows 3.1で19200bpsの通信速度を利用する場合には、次の設定を行います。

・シリアルポート(コントロールパネル)

シリアルポートの通信条件を設定する場合に使用します。

1 [メイン]グループの[コントロールパネル]をダブルクリックし、さらに[シリアルポート]をダブルクリックします。
[シリアルポートの設定]ダイアログボックスが表示されます。

2 設定を変更するポートを選択して[設定]ボタンをクリックし、設定を行います。

3 設定したら、[OK]ボタンをクリックして、[終了]ボタンをクリックします。

・カードファイル

カードファイルに記入した電話番号に電話をかける場合に使用します。

1 [アクセサリ]グループの[カードファイル]をダブルクリックし、[カード]メニューを選択します。

2 [自動ダイヤル]コマンドを選択します。
[自動ダイヤル]ダイアログボックスが表示されます。

3 [詳細設定]ボタンをクリックして、設定を行います。

4 設定したら、[OK]ボタンをクリックして、[ファイル]メニューから[カードファイルの終了]を選択します。

・ターミナル

他のコンピュータと接続して情報交換(パソコン通信など)を行う場合に使用します。

1 [アクセサリ]グループの[ターミナル]をダブルクリックし、[設定]メニューを選択します。

2 [通信条件]コマンドを選択します。

3 [通信条件の設定]ダイアログボックスで設定を行います。

4 設定したら[OK]ボタンをクリックして、[ファイル]メニューから[ターミナルの終了]を選択します。



■Windows 3.1の注意事項

●スワップファイルを利用する場合のご注意

Windowsをエンハンスドモードで実行する場合、情報を一時的にメモリからハードディスクに移し、メモリの空き容量を確保します。その際、情報をスワップファイルに格納します。
スワップファイルの設定は、コントロールパネルの[エンハンスドモード]アイコンで行います。[スワップファイルの設定]ダイアログボックスの「最大のサイズ」、「望ましいサイズ」に表示される容量はハードディスクの空き容量だけで決定されるわけではありません。
「最大のサイズ」はハードディスクの空き容量に依存しますが、「望ましいサイズ」はコンピュータに実装されているメモリが少ない場合や、Windowsを起動する前に大量のメモリを消費している場合、ハードディスクの空き容量に関係なく、「望ましいサイズ」の容量は増加しません。
「新しいサイズ」には、指定したドライブの空き容量分を確保することができますが、メモリ容量が少ない場合には「望ましいサイズ」以上の値を指定しても、実際には「望ましいサイズ」に表示された容量分のみをスワップファイルとして使用します。

Windows NTを利用する

本機で、Windows NT Workstation 3.51*、Windows NT Server 3.51(以下、Windows NT 3.51) およびWindows NT Workstation 4.0***、Windows NT Server 4.0****(以下、Windows NT 4.0)を利用する場合、通常のセットアップ以外にいくつかのドライバをアップデートする必要があります。**
ここではWindows NTが利用できるまでの手順について説明します。

* Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 3.51
** Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 3.51
*** Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0
****Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0

Windows NT 3.51の利用 ....

本機でWindows NT 3.51をセットアップするには、次の手順で行います。

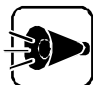
1.Windows NT 3.51のセットアップ
- **「Windows NT 3.51アップデートディスク」を作成する**
- **Windows NT 3.51をセットアップする前の確認事項**
- **Windows NT 3.51をセットアップする**
- **ドライバをアップデートする**

2.内蔵アクセラレータの利用

3.Windows NT 3.51アップデートサービス Service Pack 5の利用

4.B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用

5.フルカラーウィンドウアクセラレータボードXの利用(PC-9821 Xa20/W30R、PC-9821 Xa200/W30Rをお使いの場合のみ)



- **「1. Windows NT 3.51のセットアップ」がすべて終了してから、「2. 内蔵アクセラレータの利用」以降を行ってください。**
- **本機内蔵ネットワークインターフェイスをお使いの場合は、「4.B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用」を行う必要はありません。**
- **B4680 NIB-PCIネットワークアダプタを接続してWindows NTをセットアップする場合は、次の手順に変わりますので注意してセットアップを行ってください。**

  1.Windows NTのセットアップ
  - **「Windows NT 3.51アップデートディスク」を作成する**
  - **Windows NTをセットアップする前の確認事項**
  - **Windows NT 3.51をセットアップする**
  - **B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用**
  - **ドライバをアップデートする**



2.内蔵アクセラレータの利用

3.Windows NT 3.51 アップデート サービス Service Pack 5の利用

4.フルカラーウィンドウアクセラレータボードXの利用(PC-9821 Xa20/W30R、PC-9821 Xa200/W30Rをお使いの場合のみ)

- ドライバのインストールを行う場合は、Administrator権限を持ったユーザーで行ってください。
- 本機に添付されているドライバは、本機専用ドライバです。他機種では使用しないでください。

セットアップでは、次のものが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

- **バックアップCD-ROM**(本機添付)
- **1.44 M バイト フォーマット済みのフロッピーディスク:2枚**
  (注意:フォーマット時にシステムの転送は行わないでください。)

これらのフロッピーディスクには、それぞれ次のラベルを貼っておいてください。
「システム修復ディスク」
「Windows NT 3.51アップデートディスク」

1.Windows NT 3.51のセットアップ

●「Windows NT 3.51アップデートディスク」を作成する

ここでは、「Windows NT 3.51アップデートディスク」の作成を行います。
「バックアップCD-ROM」には Windows NT 3.51のドライバが保存されています。
これらのドライバをフロッピーディスクにコピーします。

ここでは、CD-ROMドライブをC、フロッピーディスクドライブをBとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

1 Windows 95の[スタート]メニューから、[プログラム]ー[MS-DOSプロンプト]をクリックして、MS-DOSプロンプトを起動します。

2 用意しておいた「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブに、「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

3 MS-DOSプロンプトから次のように入力します。

```
C:↵
CD ¥NT351↵
```

4 カレントディレクトリが「NT351」であることを確認し、コマンドプロンプトから次のように入力します。このとき、フロッピーディスクのドライブ名にコロン「:」は付けないでください。

```
CDNTUP B ⏎
```

5 画面の表示に従って、ファイルをコピーします。

6 作成したフロッピーディスクは、今後 Windows NT 3.51をセットアップする際必要となりますので、大切に保管してください。

● Windows NT 3.51をセットアップする前の確認事項

Windows NT 3.51セットアップを行う前に、次の確認を行ってください。

・本機の設定について

セキュリティの設定は、すべて「使用しない」、または「設定しない」にしてセットアップを行ってください。セキュリティの設定については、『ステップアップガイド』を参照してください。

・オプションボードについて

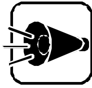
- B4680 NIB-PCIネットワークアダプタをお使いになる場合、「Windows NT 3.51 アップデートディスク」のネットワークドライバを使用してください。B4680 NIB-PCIネットワークアダプタのセットアップ方法は「4.B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用」をご覧ください。
- プラグ&プレイ対応ボードをお使いの場合、ボードの設定を従来互換モードに設定してください。設定方法は本体添付の『ステップアップガイド』や、各ボード添付のマニュアルをご覧ください。
- PC-9801-107、108 B4680インタフェースボードをお使いの場合、Windows NT 3.51をセットアップする前に、ボードのハードウェア設定を行ってください。設定方法については、ボード添付のマニュアルをご覧ください。
- PC-9801-107、108 B4680インタフェースボードをお使いになる場合、ボード添付の「ドライバディスク」のドライバを使用してください。

・キーボードについて

- 106 キーボード(PC-9801-116)をお使いの場合は、Windows NT 3.51標準の106 キーボードドライバを使用してください。キーボード添付のドライバは使えません。

● Windows NT 3.51をセットアップする

高速セットアップを使って、本機にWindows NT 3.51を新規に組み込む場合について説明します。



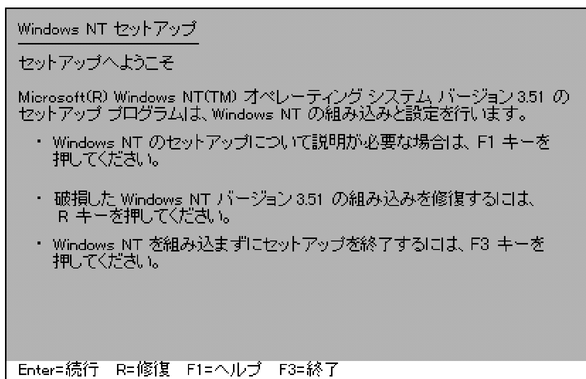
- **セットアップは、高速セットアップで行います。**
- **B4680 NIB-PCI LANアダプタをお使いになる場合は、セットアップはカスタムセットアップで行わなければいけません。B4680 NIB-PCI LANアダプタのセットアップ方法については、「4.B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用」をご覧ください。**
- **ディスプレイの設定は「解像度 640×400、ノーマルモード 16色」で行ってください。**
  お使いのWindows NT 3.51によっては、このマニュアルに記載されている画面と異なる場合があります。

ここではセットアップブートディスクを使用したセットアップ手順について説明します。

1 「Windows NT 3.51セットアップブートディスク」を、フロッピーディスクドライブにセットして本機の電源を入れます。Windows NT 3.51 CD-ROM版をお持ちの場合は、「Windows NT 3.51セットアップCD-ROM」をCD-ROMドライブに入れておきます。

2 画面の指示にしたがって、セットアップディスクを入れ替えます。

3 「Windows NT 3.51 セットアップディスクNo.3」をセットした後で、次の画面が表示されます。ここでは、[続行]を選択してください。



4 セットアップ方式を選択する画面が表示されます。ここでは、[高速セットアップ]を選択してください。

5 認識した大容量記憶装置の一覧が表示されます。

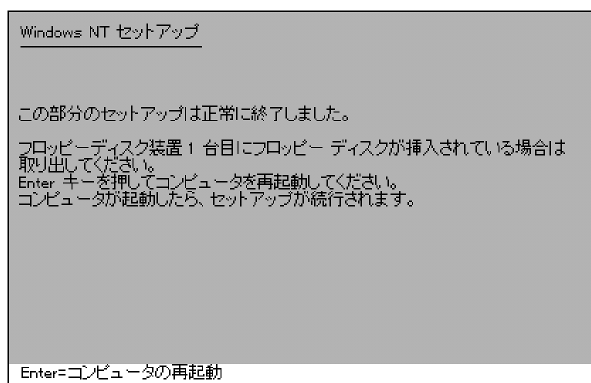
6 画面の指示にしたがって、セットアップディスクを入れ替えます。

7 Windows NT 3.51のセットアップ媒体を選択する画面が表示されます。ご購入のWindows NT 3.51がCD-ROM版かフロッピーディスク版かを確認して、選択してください。

8 本機に、その他のWindowsがインストールされている場合、アップグレードするかどうか確認されますが、ここではアップグレードしないでセットアップしてください。

9 Windows NT 3.51をインストールするパーティション、ファイルシステム、ディレクトリの設定を行います。
ファイルのコピーが自動的に開始されます。

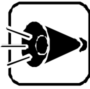
10 ファイルのコピー終了後、次の画面が表示されます。フロッピーディスクドライブよりフロッピーディスクを取り出して、コンピュータを再起動してください。



これで、Windows NT 3.51のテキストセットアップは終了しました。続いてグラフィックセットアップを行います。

11 グラフィックのセットアップ画面が表示されます。画面の指示に従って下記の項目について設定を行います。

- 氏名および会社名の登録
- プロダクト ID の登録
- セキュリティの役割(ドメイン コントローラとサーバーの役割)
- ライセンスモードの選択
- コンピュータ名の登録
- 各国対応
- ローカルプリンタのセットアップ



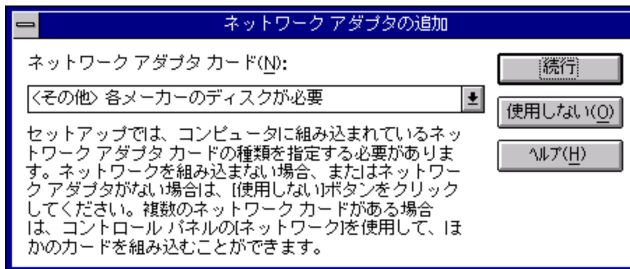
Windows NT Workstation 3.51では、セキュリティの役割、ライセンスモードの設定は出来ません。

12 ネットワークアダプタの検出を行います。
ここでは、本体内蔵LANアダプタを利用する場合について説明します。
ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

13 「ネットワークアダプタカードが検出されませんでした」と表示されるので、[続行]ボタンをクリックします。

14 手動でネットワークを組み込むか、リモートのセットアップを行うか確認されるので、[続行]ボタンをクリックします。リモートアクセスサービスの設定をする場合は、ここで[リモート]ボタンをクリックします。リモートの設定については、Windows NT 3.51のマニュアルを参照してください。

15 [ネットワーク アダプタ カード]リストボックスから[<その他>各メーカーのディスクが必要]を選択し[続行]ボタンをクリックします。



16 ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されるので、「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
フロッピーディスクを入れたドライブのINTELディレクトリを指定して、[OK]ボタンをクリックします。

C:¥INTEL

17 OEMの一覧から「PC-9821X-B06互換/Intel EtherExpress PRO/100B Adapter」を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

セットアッププログラムがファイルのコピーを行います。

18 ファイルコピーが終了すると「Adapter Properties(557set)」ダイアログが表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。



ドライバのパラメータを手動で設定する場合は、Windows NT 3.51セットアップ後に行います。パラメータを手動設定、パラメータの詳しい設定については、「Windows NT 3.51アップデートディスク」のINTELディレクトリにあるREADME.TXTを参照してください。

19 ネットワークの設定を行います。
画面の指示にしたがってネットワークの設定を行ってください。
ネットワークの設定については、Windows NT 3.51のマニュアルを参照するか、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

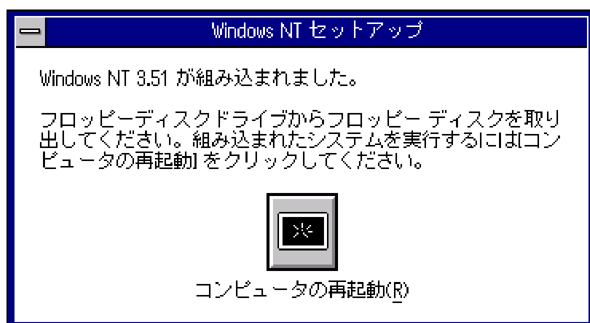
ネットワークに関する Windows NT 3.51のファイルをコピーします。

20 アカウント/日付時刻の設定/ディスプレイの設定を行います。
画面の指示に従って下記の項目について設定します。

- ドメイン/ワークグループの設定
- 管理者アカウントの設定
- ローカルアカウントの設定
- 日付、時刻および時間帯の設定
- ディスプレイの設定(確認のみ)

21 構成情報の保存後、「システム修復ディスク」の作成を行います。用意しておいたフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして[はい]ボタンをクリックします。

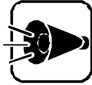
22 「システム修復ディスク」の作成が終了すると、Windows NT 3.51セットアップは終了です。フロッピーディスクドライブから、「システム修復ディスク」を取り出して[コンピュータの再起動]ボタンをクリックしてください。





Windows NT 3.51本体のセットアップは終了しました。ファイルシステムとしてNTFS を選択した場合は最初のシステム起動でファイルシステムの変換を行い、その後自動起動します。

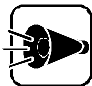
Windows NT 3.51のセットアップ終了後、「ドライバをアップデートする」に進んでください。



Windows NT 3.51セットアッププログラムは、セットアップした領域を「自動起動」に設定します。セットアップした領域以外から起動する場合は、TABキーを押しながら本機の電源を入れると「固定ディスク起動メニュープログラム」が起動します。メニューより起動する領域を選択してください。

●ドライバをアップデートする

Windows NT 3.51のドライバをアップデートします。「Windows NT 3.51アップデートディスク」には、本機の機能を有効にお使いいただくため、Windows NT 3.51のドライバが添付されています。ここでは、アップデートの手順について説明します。



ドライバをアップデートする前に、「Windows NT 3.51アップデートディスク」のルートディレクトリにある「README.TXT」を参照してください。

ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

1 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピー ディスクドライブにセットします。

2 [メイン]グループの[コマンドプロンプト]をダブルクリックします。

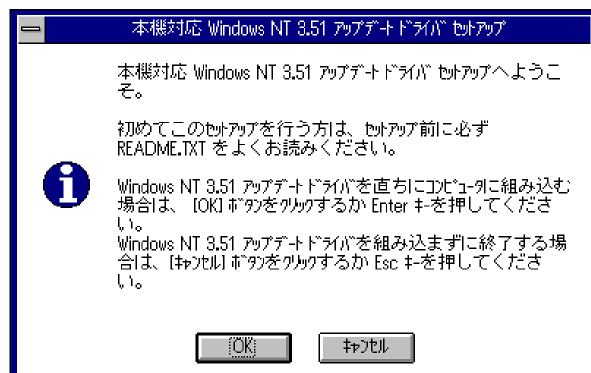
3 コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
C: ↵
CD ¥ ↵
```

カレントディレクトリがCドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力します。

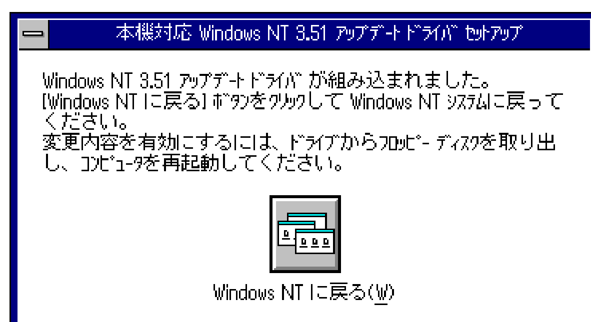
```
NTUPDATE ↵
```

4 次のようなセットアップの画面が表示されます。ダイアログに表示されている内容をよく確認した上で[OK]ボタンをクリックしてください。



ファイルのコピーが開始されます。

5 ドライバのコピー終了後、次の画面が表示されたら、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 3.51アップデートディスク」を取り出し、システムを再起動してください。



以上で Windows NT 3.51のセットアップは終了しました。「2. 内蔵アクセラレータの利用」に進んでください。



2. 内蔵アクセラレータの利用

ここでは、本機内蔵アクセラレータの設定について説明します。
本機では、「Windows NT 3.51アップデートディスク」に含まれているディスプレイドライバを使って、以下の画面モードが利用できます。

解像度	表示色
640×480	256色、65,536色、TrueColor
800×600	256色、65,536色、TrueColor
1024×768	256色、65,536色
1280×1024	256色

設定は次の手順で行います。
ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

1 ［メイン］グループにある［コントロール パネル］の［ディスプレイ］を起動します。

2 ［ディスプレイの変更］ボタンを選択します。

3 ［変更］ボタンを選択します。

4 ［その他］ボタンを選択します。
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。

5 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。フロッピーディスクを入れたドライブのTRIDENTディレクトリを指定して、［OK］ボタンをクリックします。

C:¥TRIDENT

6 ［組み込む］ボタンを選択します。

7 ［はい］ボタンを選択します。
既存のドライバが存在する場合は、既存のドライバを使用するかどうかを聞いてくるので、［新しいドライバ］ボタンを選択します。
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。

8 ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするよう指示するメッセージが表示されたら、ドライブ名とディレクトリ名を確認します。
「C:¥TRIDENT」を指定して[続行]ボタンをクリックします。

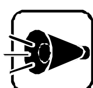
9 ドライバ組み込み結果が表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

10 ドライバ起動に関するメッセージが表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

11 「新しい設定を有効にするにはWindows NTを終了して再起動する必要があります」というメッセージが表示されるので、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 3.51アップデートディスク」を取り出し、[再起動する]ボタンを選択します。

3. Windows NT 3.51アップデートサービスService Pack 5の利用

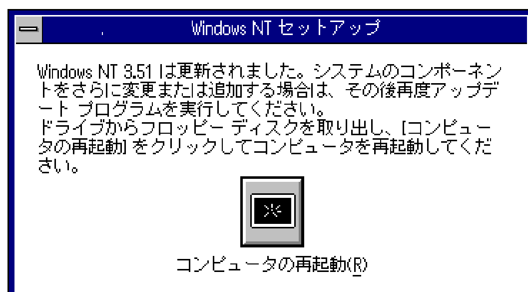
本機でMicrosoft® Windows NT® 3.51でアップデート サービス「Service Pack 5」(以下 Service Pack 5)を適用する場合、必ず次の手順で行ってください。



- **Service Pack 5インストール後は再度起動せずに、ドライバのアップデートを必ず行ってください。**
- **Service Pack 5をインストールする前に、Service Pack 5の「README.TXT」をご覧ください。**

1 Service Pack 5をインストールします。

2 Service Pack 5ファイルのコピーが終了すると、次のダイアログボックスが表示されます。



ここでは再起動を行わず、タスク スイッチ(GRPH + TABを何度か押す)でプログラム マネージャに戻り、必ず次の操作を行ってください。

3 ドライバの再アップデートを行います。まず、[メイン]グループの[コマンドプロンプト]を起動します。

4 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

5 Windows NTのコマンドプロンプトより、次のように入力します。
ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読み替えてください。

```
C:⏎
CD  ¥⏎
```

カレントディレクトリが、Cドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力します。

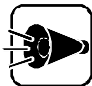
```
NTUPDATE⏎
```

6 コピー終了後、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 3.51アップデートディスク」を取り出して、コマンドプロンプトを終了します。

7 タスクスイッチ（GRPH + TABを何度か押す）でService Pack 5のインストール（Windows NT Setup）に戻り、[コンピュータの再起動]ボタンをクリックしてシステムを再起動してください。



Microsoft® Windows NT® 3.51アップデートサービス「Service Pack 5」についての詳しい内容は、「はじめに」の「■ソフトウェアの最新情報のお知らせ」に記載されている各種サービスにより提供しています。



NEC製以外のWindows NT 3.51並びに Service Pack をご利用の方は、各OSメーカにお問い合わせください。

---

4. B4680 NIB-PCIネットワークアダプタの利用

ここでは、カスタムセットアップでのB4680 NIB-PCIネットワークドライバの追加の手順について説明します。追加手順以外のセットアップについての説明は、「Windows NTセットアップガイド」またはオンラインヘルプを参照してください。また、B4680 NIB-PCIネットワークアダプタを利用する場合、ドライバはWindows NT標準ネットワークドライバではなく、「Windows NT 3.51アップデートディスク」のドライバを使用する必要があります。

設定は次の手順で行います。

1 Windows NTのテキストセットアップを行います。



テキストセットアップ時には次のことに注意してください。

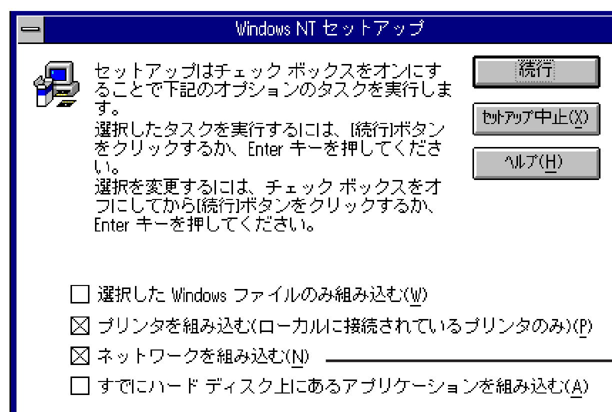
•必ずカスタムセットアップ指定を行ってください。

•ディスプレイの設定は「解像度640×400ノーマルモード 16色」で行ってください。

•セットアップ時の追加デバイスの指定で、「IDE CD-ROM(ATAPI)デバイス」は必ず設定してください。

---

2 テキストのセットアップの終了後、グラフィックのセットアップを行います。
本機でB4680 NIB-PCIアダプタを利用する場合、グラフィックセットアップの次の画面で、[ネットワークを組み込む]オプションをチェックしてセットアップしてください。



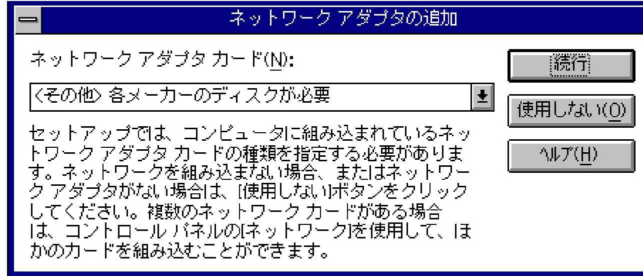
ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読み替えてください。



3 ネットワークアダプタカードを自動的に検出するかどうかを聞いてくるので、[検出しない]ボタンをクリックします。

4 手動でネットワークを組み込むか、リモートのセットアップを行うか聞いてくるので、[続行]ボタンをクリックします。

5 [ネットワークアダプタカード]リストボックスから[<その他>各メーカーのディスクが必要]を選択し、[続行]ボタンをクリックします。



6 ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されるので、「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。
フロッピーディスクを入れたドライブ名とディレクトリ名B80PCIAを指定して、[OK]ボタンをクリックします。

C:¥B80PCIA

7 [B4680 NIB-PCIアダプタ]を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

これでB4680 NIB-PCIアダプタドライバの追加のセットアップは終了しました。

Windows NTのファイルコピーが開始されます。グラフィックセットアップを続行してください。
セットアップが終了したら、「1.Windows NT 3.51のセットアップ」の「●ドライバをアップデートする」に進んでください。

5. フルカラーウィンドウアクセラレータボードXの利用

PC-9821 Xa20/W30R、PC-9821 Xa200/W30Rに関する内容です。

本機で「フルカラーウィンドウアクセラレータボードX」を利用する場合、「Windows NT 3.51アップデートディスク」に含まれているディスプレイドライバを使う必要があります。ここでは、「フルカラーウィンドウアクセラレータボードX」のドライバのインストール手順について説明します。

設定は次の手順で行います。

ここでは、フロッピーディスクドライブをC、CD-ROMドライブをDとして説明します。
実際と異なる場合は、読みかえてください。

1 ［メイン］グループにある［コントロールパネル］の［ディスプレイ］を起動します。

2 ［ディスプレイの変更］ボタンを選択します。

3 ［変更］ボタンを選択します。

4 ［モデル］のリストボックスから、「フルカラーウィンドウアクセラレータX」を選択して、［組み込む］ボタンをクリックします。
ドライバの入ったCD-ROMをセットするように指示されます。

5 ［はい］ボタンをクリックします。
既存のドライバが存在する場合は、既存のドライバを使用するかどうかを聞いてくるので、［新しいドライバ］ボタンを選択します。
ドライバの入った CD-ROM をセットするように指示されます。

6 Windows NT 3.51のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。

7 CD-ROM をセットしたドライブの￥PC98ディレクトリを指定して［続行］ボタンをクリックします。

D:￥PC98

8 ドライバ組み込み結果が表示されるので、［OK］ボタンをクリックします。

9 ドライバ起動に関するメッセージが表示されるので、［OK］ボタンをクリックします。

10 「新しい設定を有効にするにはWindows NT を終了して再起動する必要があります」というメッセージが表示されますが、ここでは［再起動しない］ボタンをクリックします。



11 ［メイン］グループにあるコマンド プロンプトを起動します。

12 「Windows NT 3.51アップデートディスク」をフロッピー ディスク ドライブにセットします。

13 コマンドプロンプトより、次のように入力します。

```
C:
CD¥
```

カレントが、C:¥であることを確認して、次のように入力します。

```
MGAUP⏎
```

14 画面にしたがってドライバをアップデートします。

15 アップデートが終了したら、フロッピー ディスク ドライブより「Windows NT 3.51アップデートディスク」を取り出し、システムを再起動してください。

Windows　NT　4.0の利用

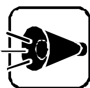
本機でWindows NT 4.0をセットアップするには、次の手順で行います。

1. Windows NT 4.0のセットアップ

- **「Windows NT Setup Disk1＜置換版＞」を作成する**
- **Windows NT 4.0セットアップディスクを作成する**
- **Windows NT 4.0をセットアップする前の確認事項**
- **Windows NT 4.0をセットアップする**
- **ドライバをアップデートする**

2. 内蔵アクセラレータドライバのアップデート

3. Windows NT 4.0アップデートサービス Service Pack 3の利用



- **「1.Windows NT 4.0のセットアップ」がすべて終了してから、「2.内蔵アクセラレータドライバのアップデート」以降を行ってください。**
- **本機に添付されているドライバは、本機専用ドライバです。他の機種では使用しないでください。**
- **ドライバのインストールを行う場合は、Administrator権限を持ったユーザーで行ってください。**

Part 2 他のOSを利用する

セットアップでは、次のものが必要です。あらかじめ用意しておいてください。

- **バックアップCD-ROM**（本機添付）
- **1.44 Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク：3枚**
  （注意：フォーマット時にシステムの転送は行わないでください。）

  これらフロッピーディスクには、それぞれ次のラベルを貼っておいてください。
  「Windows NT Setup Disk1＜置換版＞」
  「Windows NT 4.0アップデートディスク」
  「システム修復ディスク」（注意：セットアップ後に手動で作成してください。）

1. Windows NT 4.0のセットアップ

●「Windows NT Setup Disk1＜置換版＞」の複製を作成する

「Windows NT Setup Disk1」に対して、アップグレードを行います。アップグレードにより、フロッピーディスクの内容を書き換えますので、必ず複製を作成し、複製に対してアップグレードを行ってください。オリジナルの「Windows NT Setup Disk1」は大切に保存しておいてください。

1 ［スタート］メニューから、［プログラム］－［MS-DOSプロンプト］をクリックして、MS-DOSプロンプトを起動します。

2 DISKCOPYコマンドを使って「Windows NT Setup Disk1」の複製を作成します。
複製はあらかじめ用意した「Windows NT Setup Disk1＜置換版＞」に作成します。
DISKCOPYコマンドの使用方法はコマンドプロンプトで次のように入力して、確認してください。

DISKCOPY /?

●Windows NT 4.0セットアップディスクを作成する

ここでは、「Windows NT Setup Disk1＜置換版＞」のアップグレードと、「Windows NT 4.0アップデートディスク」の作成を行います。
「バックアップCD-ROM」には Windows NT 4.0のドライバが保存されています。これらのドライバをフロッピーディスクにコピーします。
ここでは、CD-ROMドライブをD、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

1 用意しておいた「バックアップCD-ROM（OSを除く）」をCD-ROMドライブに、「Windows NT Setup Disk1＜置換版＞」をフロッピーディスクドライブにセットします。



2 MS-DOSプロンプトから次のように入力します。

```
D: ↵
CD ¥NT40 ↵
```

3 カレントディレクトリが「NT40」であることを確認し、MS-DOSプロンプトから次のように入力します。このとき、フロッピーディスクのドライブ名にコロン「:」は付けないでください。

```
CDNTUP C ↵
```

4 画面の表示に従って、ファイルをコピーします。
途中で「Windows NT 4.0アップグレードディスク」と入れ換えるよう指示があります。

作成したフロッピーディスクは、今後 Windows NT 4.0をセットアップする際必要となりますので、大切に保管してください。

●Windows NT 4.0をセットアップする前の確認事項

Windows NT 4.0セットアップを行う前に、次の確認を行ってください。

・本機の設定について

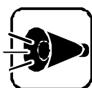
セキュリティの設定はすべて「使用しない」、または「設定しない」にしてセットアップを行ってください。セキュリティの設定については、『ステップアップガイド』を参照してください。

・オプションボードについて

プラグ&プレイ対応ボードをお使いの場合、ボードの設定を従来互換モードに設定してください。設定方法は、各ボード添付のマニュアルを参照してください。

●Windows NT 4.0をセットアップする

本機にWindows NT 4.0を新規に組み込む場合について説明します。



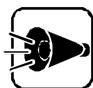
セットアップを行う前に「Windows NT 4.0アップデートディスク」のルートディレクトリにある「README.TXT」、「NECREAD.TXT」をご覧ください。

ここではセットアップブートディスクを使用したセットアップ手順について説明します。

1 「Windows NT Setup Disk1＜置換版＞」をフロッピーディスクドライブにセットして本機の電源を入れます。
「Windows NT CD-ROM Disc1」をCD-ROMドライブにセットします。

2 画面の指示にしたがってテキストセットアップを行います。

3 容量記憶装置検出の画面で、[S=検出のスキップ]を選択します。



ここで、[Enter=続行]を選択しないでください。自動検出を行うと以下で行うドライバの組み込みができなくなります。

4 「セットアップは、コンピュータに次の大容量記憶装置を検出しました:<なし>」と表示されますので、[S=追加デバイスの指定]を選択します。

5 「Windows NTで使用する、追加のSCSIアダプタ、CD-ROMドライブ、または特殊なディスクコントローラを指定します」と表示されますので、リスト表示されている中から[その他(ハードウェアメーカー提供のディスクが必要)]を選択します。

6 「次のラベルの付いたディスクをドライブA:に挿入してください。
ハードウェアメーカー提供のサポートディスク」と表示されますので、作成した「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、⏎キーを押します。

7 「ハードウェアメーカーから提供された SCSIアダプタ、CD-ROMドライブ、または特殊なディスクコントローラをインストールします。」と表示されますので、リストから[IDE CD-ROM (ATAPI)/IDE Controller]を選択します。

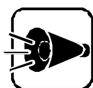
8 「セットアップはコンピュータに次の大容量記憶装置を検出しました:<IDE CD-ROM (ATAPI)/IDEController>」と表示されますので、⏎キーを押します。

9 画面の指示にしたがい、セットアップを続けます。テキストセットアップ中「Windows NT Setup Boot Disk」をセットするように指示されるので、作成した「Windows NT Setup Disk1<置換版>」をフロッピーディスクドライブにセットし、Enterキーを押します。また領域確保後に「次のラベルの付いたディスクをドライブA:に挿入して下さい。Windows NT 4.0アップデートディスク」と表示されますので、作成した「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、⏎キーを押します。

10 画面の指示にしたがい、セットアップを続けます。

11 テキストセットアップのセットアップが終了したら、フロッピーディスクドライブからセットアップディスクを取り出して本機を再起動してください。

12 再起動するとグラフィックセットアップが開始されます。ここでは、次の設定を行います。



Windows NT Server 4.0とWindows NT Workstation 4.0とでは、設定内容が異なります。



- セットアップ方法の選択
- 個人情報の入力
- サーバーの種類の選択(Windows NT Server 4.0のみ)
- 管理者アカウントのパスワードの設定
- システム修復ディスク作成の選択
- インストールするファイルの選択

13 次にネットワークのインストールを行います。ここでは本体内蔵LANインターフェイスを使用する場合について説明します。ネットワークに参加させる方法を、[ネットワークに参加する]ー[ネットワークに接続]を選択して[次へ]ボタンをクリックします。

14 Windows NT Server 4.0の場合、Internet Information Serverのインストールするかどうかを選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

15 ネットワークアダプタの検出画面が表示されます。ここでは、[一覧から選択]をクリックします。

16 ネットワークアダプタの選択画面で、[ディスク使用]をクリックします。

17 フロッピーディスクの挿入画面が表示されますので、「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、次のように入力します。ここでは、フロッピーディスクドライブをCドライブとして説明します。実際の環境と異なる場合は読み替えてください。

C:¥INTEL

18 OEMオプションの選択画面が表示されます。リストから「NEC PC-9821X-B06(互換) PCI Adapter」を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

19 ネットワークアダプタの検出画面に、「NEC PC-9821X-B06(互換) PCI Adapter」が表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

20 次のネットワークアダプタの構成を行います。

- ネットワークプロトコルの選択
- ネットワークサービスの選択
- ネットワークの設定の確認
- ネットワークに必要なファイルのコピー
- NEC PC-9821X-B06(互換) PCI Adapterの設定
- ネットワークバインドの調整
- ワークグループまたはドメインの参加

これで、グラフィックのセットアップの本体内蔵LANインターフェイスを組み込む手順が終了しました。後は画面の指示に従って設定を行ってください。Windows NT 4.0のセットアップが終了したら、「●ドライバをアップデートする」に進んでください。

●ドライバをアップデートする

Windows NT 4.0のドライバをアップデートします。「Windows NT 4.0アップデートディスク」には、本機の機能を有効に利用するための最新のドライバが保存されています。ここでは、アップデート手順について説明します。

1 [スタート]メニューの[プログラム]ー[コマンドプロンプト]をクリックします。

2 「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。

3 Windows NTのコマンドプロンプトより、次のように入力します。
ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際の環境と異なる場合は読み替えてください。

```
C:⏎
CD ¥⏎
```

カレントが、Cドライブのルートディレクトリであることを確認して、次のように入力します。

```
UPDATE⏎
```

4 次の画面が表示されます。[OK]ボタンをクリックして、アップデートを開始します。



5 コピー終了後、次の画面が表示されたら、[Windows NTに戻る]ボタンをクリックします。

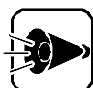




6 フロッピーディスクドライブより「Windows NT 4.0アップデートディスク」を取り出します。

7 Windows NTを再起動させます。
[スタート]メニューから[シャットダウン]をクリックして、[コンピュータを再起動する]を選択し、[はい]ボタンをクリックします。

Windows NT 4.0が再起動したら、続けて「2.内蔵アクセラレータドライバのアップデート」に進んでください。



- **Windows NT 4.0セットアッププログラムは、セットアップした領域を「自動起動」に設定します。セットアップした領域以外から起動する場合は、TABキーを押しながら本機の電源を入れると「固定ディスク起動メニュープログラム」が起動します。メニューより起動する領域を選択してください。**
- **Windows NT 4.0は、デフォルトでは自動電源断機能が有効になっていません。自動電源断機能を有効にする場合は、「Windows NT 4.0アップデートディスク」のルートディレクトリにある「README.TXT」をご覧になり、設定してください。**

2.内蔵アクセラレータドライバのアップデート

「Windows NT 4.0アップデートディスク」には、内蔵アクセラレータの最新ドライバが保存されています。ここでは、内蔵アクセラレータドライバのアップデート手順について説明します。
「Windows NT 4.0アップデートディスク」に含まれている内蔵アクセラレータドライバを使って、以下の画面モードが利用できます。

解像度	表示色
640×480	256色、65,536色、TrueColor
800×600	256色、65,536色、TrueColor
1024×768	256色、65,536色
1280×1024	256色

設定は次の手順で行います。
ここでは、フロッピーディスクドライブをCとして説明します。実際と異なる場合は、読みかえてください。

1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]－[コントロールパネル]をクリックします。

2 [画面]アイコンをダブルクリックします。

3 [ディスプレイの設定]タブをクリックします。

4 [ディスプレイの種類]ボタンをクリックします。

5 [変更]ボタンをクリックします。

6 [ディスク使用]ボタンをクリックします。
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするように指示されます。

7 「Windows NT 4.0 アップデート ディスク」をフロッピーディスクドライブにセットします。フロッピーディスクを入れたドライブのTRIDENTディレクトリを指定して、[OK]ボタンをクリックします。

C:¥TRIDENT

8 [ディスプレイ]リストボックスから、「内蔵アクセラレータ(Trident Microsystems社製TGUI9682)」を選択します。

9 [OK]ボタンをクリックします。

10 ドライバ組み込み結果が表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。

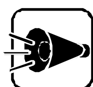
11 [閉じる]ボタンをクリックします。

12 [閉じる]ボタンをクリックします。

13 「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。今すぐ再起動しますか?」というメッセージが表示されるので、フロッピーディスクドライブより「Windows NT 4.0 アップデート ディスク」を取り出し、[はい]ボタンをクリックします。

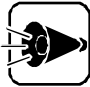
3.Windows NT 4.0アップデートサービス Service Pack 3 の利用

本機でMicrosoft® Windows NT® 4.0アップデート サービス「Service Pack 3」(以下 Service Pack 3)を適用する場合、必ず次の手順で行ってください。

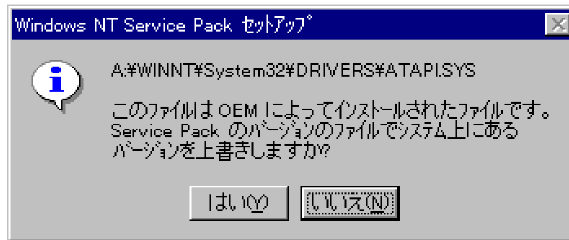


- **Service Pack 3インストール時に、ドライバのアップデートを必ず行ってください。**
- **Service Pack 3をインストールする前に、Service Pack 3の「README.TXT」を参照してください。**

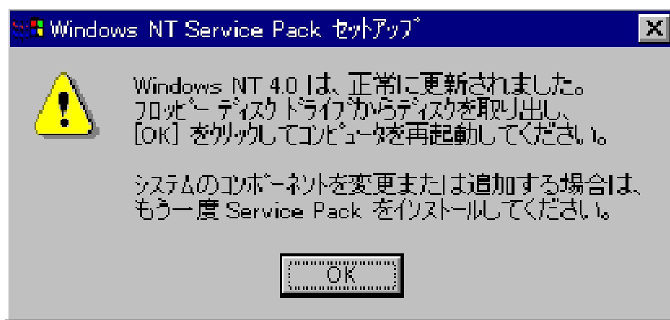
1 Service Pack 3をインストールします。



Service Pack 3セットアップ時に、「バージョンを上書きしますか?」という旨のメッセージが表示された場合は、[いいえ]を選択してください。



2 Service Pack 3ファイルのコピーが終了すると、次のダイアログボックスが表示されます。



3 ここでは、[OK]ボタンをクリックしないでください。
[スタート]メニューから[プログラム]-[コマンドプロンプト]をクリックします。

4 Windows NTのコマンドプロンプトより、次のように入力します。
ここでは、Windows NTをインストールしたシステムドライブをAとして説明します。実際と異なる場合は、読み替えてください。

A:⏎
CD¥UPSP3⏎

カレントが、AドライブのUPSP3ディレクトリであることを確認して、次のように入力します。

NTUPDATE⏎

5 アップデート終了後、コマンドプロンプトを終了します。

6 [Windows NT Service Pack セットアップ]のダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックして、Windows NTを再起動させます。



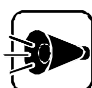
Microsoft® Windows NT® 4.0アップデート サービス「Service Pack 3」についての詳しい内容は、「はじめに」の「■ソフトウェアの最新情報のお知らせ」に記載されている各種サービスにより提供しています。

OS/2を利用する

本機でOS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合の設定や手順について説明します。

OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版の利用...............

本章にはOS/2インストール時の注意事項が記載されておりますので、OS/2をインストールする前に必ずお読みください。



PC-9821 Ra266/W30RにてOS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、インストール途中の[OS/2にようこそ]の画面では、必ず[拡張インストール]を選択してください。
また、インストール時に[マルチメディアのソフトウェア・サポート]を組み込むことはできません。[OS/2の設定とインストール]ウィンドウでは、必ず[マルチメディアのソフトウェア・サポート]のチェックははずしてください。インストール完了後、[マルチメディアのソフトウェア・サポート]を組み込んでください。

■OS/2をアップグレードする

PC-9821 Ra333/W60、PC9821 Ra300/W40に関する内容です。

OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp ConnectV3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版をご利用になる場合、アップグレードが必要です。
アップグレードは、次の2通りの方法で実行できます。

- **OS/2のインストールを行う場合**
  (1) OS/2インストール用ディスクのアップグレード
  (2) OS/2のインストール

- **インストール済みのOS/2システムをアップグレードする場合**
  (1) OS/2インストール用ディスクのアップグレード
  (3) インストール済みのOS/2システムのアップグレード

(1) OS/2インストール用ディスクのアップグレード

OS/2インストール用「ディスク」のアップグレードおよびアップグレードユーティリティディスクを作成します。アップグレードは、「ディスク1」の複製に対して行います。コピー元の「ディスク1」は大切に保管しておいてください。

> アップグレードでは次のものが必要です。あらかじめ用意しておいてください。
> - **バックアップCD-ROM(本機添付)**
> - **1.2Mバイトフォーマット済のフロッピーディスク　:2枚**
>   (注意:フォーマット時にシステムの転送は行わないでください。)
>
> これらのフロッピーディスクには、それぞれ次のラベルを貼っておいてください。
> 「ディスク1(アップグレード済み)」
> 「アップグレードユーティリティディスク」

1 内蔵ハードディスクからMS-DOSモードを起動します。
Windows 95が起動している場合は、[スタート]メニューから[Windowsの終了]をクリックし、[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択します。

2 用意した空きフロッピーディスク2枚をFORMATコマンドを使用して、1.2MBに初期化してください。

3 DISKCOPYコマンドを使用し、「ディスク1」の複製を作成します。

4 「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。

5 コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントドライブ、カレントディスクをCD-ROMドライブの¥OS2ドライブに変更します。

<CD-ROMドライブ名> : ↵
CD ¥OS2 ↵

6 コマンドプロンプトから次のように入力し、アップグレードプログラムを実行します。画面の指示に従って、手順4で作成した「ディスク1(アップグレード済み)」および「アップグレードユーティリティディスク」の作成を行ってください。

- **OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版の場合**

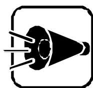
  OS/2UP3.BAT　<フロッピーディスクドライブ名>: ↵

- **OS/2 Warp 4-日本語版の場合**

  OS/2UP4.BAT　<フロッピーディスクドライブ名>: ↵

以上で「ディスク1(アップグレード済み)」および「アップグレードユーティリティディスク」の作成は終了です。
本機の電源をOFFにしてください。

(2) OS/2のインストール



- **本章には、OS/2をインストールする時の注意事項が記載されておりますので、OS/2をインストールする前に「■ディスプレイの設定」、「■CD-ROMの設定」、「■拡張電源管理の設定」、「■マルチメディアのソフトウェア・サポートのインストール」を必ずお読みください。**
- **インストール時の[OS/2にようこそ]の画面では、[拡張インストール]を必ず選択してください。**

1 「(1)OS/2インストール用ディスクのアップグレード」でアップグレードした「ディスク1(アップグレード済み)」を使用してOS/2をインストールします。

2 インストール途中で、「フロッピーディスクのみをドライブAから取り出してください。Enterキーを押して、インストールを続けてください」というメッセージが表示されます。ここで、[f･3]キーを押し、コマンドプロンプトを起動します。

3 「(1)OS/2インストール用ディスクのアップグレード」で作成した「アップグレードユーティリティディスク」をフロッピーディスクドライブにセットしてください。

4 コマンドプロンプトから次のように入力し、カレントドライブをアップグレードユーティリティディスクをセットしたフロッピーディスクドライブに変更してアップグレードを行ってください。

- **OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版の場合**

  <フロッピーディスクドライブ名>: ↵

  WARP3UP.CMD <フロッピーディスクドライブ名>: <OS/2インストール先ドライブ名>: ↵

- **OS/2 Warp 4-日本語版の場合**

  WARP4UP.CMD <フロッピーディスクドライブ名>: <OS/2インストール先ドライブ名>: ↵

5 コマンドプロンプト上から「EXIT↵」と入力すると、手順2で表示される画面に戻ります。
画面の指示に従い、インストールを続行してください。

(3) インストール済みのOS/2システムのアップグレード

1 「(1)OS/2インストール用ディスクのアップグレード」で作成した「ディスク1」(アップグレード済み)」を使用してOS/2を起動します。

2 「OS/2にようこそ」の画面が表示されたら、[f･3]キーを押し、コマンドプロンプトを起動します。

3 「(1)OS/2インストール用ディスクのアップグレード」で作成した「アップグレードユーティリティディスク」をフロッピーディスクドライブにセットしてください。

4 コマンドプロンプトから次のように入力し、アップグレードを行ってください。

・**OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版の場合**

<フロッピーディスクドライブ名>: ⏎

WARP3UP.CMD **<フロッピーディスクドライブ名>: <OS/2インストール先ドライブ名>:** ⏎

・**OS/2 Warp 4-日本語版の場合**

WARP4UP.CMD **<フロッピーディスクドライブ名>: <OS/2インストール先ドライブ名>:** ⏎

以上でアップグレードは完了します。フロッピーディスクドライブから「アップグレードユーティリティディスク」を取り出し、本機を再起動してください。

■ユーティリティディスクのアップグレード

PC-9821 Ra333/W60、PC9821 Ra300/W40に関する内容です。

OS/2 Warp 4-日本語版のユーティリティディスクを作成した場合、以下の手順でアップグレードを行ってください。
「ユーティリティディスク」の作成方法は「オンラインマニュアル」の「ユーティリティー・ディスクの作成」をご覧ください。

1 OS/2を起動し、「OS/2ウィンドウ表示」を起動してください。

2 「ユーティリティディスク1」をフロッピーディスクドライブにセットしてください。

3 コマンドプロンプトから次のように入力し、「ユーティリティディスク1」にアップグレードモジュールをコピーしてください。

COPY **<OS2インストール先ドライブ名>**:¥OS2¥BOOT¥NEC1S506.ADC **<フロッピーディスクドライブ名>:** ⏎

以上でアップグレードは終了です。

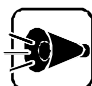
■ディスプレイの設定

本機で、OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、ディスプレイドライバのソフトウェア設定は、次の手順で行ってください。
本機に搭載されているウィンドウアクセラレータを使用する場合、「●インストール途中のディスプレイ設定」では、OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版の場合は[TRIDENT社製TGUI9680内蔵アクセラレータ]、OS/2 Warp 4-日本語版の場合は[TRIDENT社製TGUI9680/9682内蔵アクセラレータ]を選択してください。

●インストール途中のディスプレイ設定

1 インストール途中で、本機が再起動すると[システム構成]ウィンドウが表示されます。

2 ここで、[ディスプレイ]を選択すると、ディスプレイ一覧が表示され、使用したいディスプレイを選択することができます。



「本体 640×480 256色モード」を選択した場合、WIN-OS/2環境はご利用できません。
OS/2 Warp 4-日本語版をご利用の場合は、OS/2 Warp 4-日本語版に添付の「デバイスサポートディスク」内の「本体 640x480 256色 GRADD」ディスプレイドライバをインストールすると、WIN-OS/2ウィンドウ表示を使用することができます。インストール方法はOS/2に添付されているマニュアル『OS/2 Warp 4-日本語版ご利用にあたって』を参照してください。

●解像度の種類

本機内蔵のアクセラレータでは、次の解像度が使用できます。

解像度	表示色
640×480	256色、64K色、16M色*1
800×600	256色、64K色
1024×768	256色、64K色
1280×1024	256色

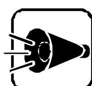
*1:OS/2 Warp 4 日本語版では、16M色表示は使用できません。

■CD-ROMの設定

OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版、OS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、CD-ROMドライバのソフトウェア設定は、次の手順で行ってください。

1 インストール途中で、本機が再起動すると[システム構成]ウィンドウが表示されます。

2 ここで[CD-ROM装置]を選択すると、CD-ROM一覧が表示され、使用したいCD-ROMを選択することができます。



内蔵CD-ROMをご使用になる場合、[その他の専用インターフェイスCD-ROM]を選択してください。

■ 拡張電源管理の設定

●OS/2 Warp V3-日本語版、OS/2 Warp Connect V3-日本語版をご利用の場合

本機でソフトウェアパワーオフ機能を利用するには、別途「OS/2 ドライバディスク」が必要です。「OS/2 ドライバディスク」の「拡張電源管理ドライバ」をインストールすると、ソフトウェアパワーオフ機能が利用できます。
なお、OS/2インストール時には拡張電源管理機能を組み込まないよう、以下の手順で設定してください。

1 インストール途中で本機が再起動すると、[システム構成]ウィンドウが表示されます。

2 [拡張電源管理(APM)]を選択すると、[拡張電源管理(APM)のサポート]ウィンドウが表示されます。

3 [インストールしない]を選択します。



「OS/2ドライバディスク」は以下の方法で入手できます。

●オンラインサービスを利用する

「はじめに」の「ソフトウェアの最新情報のお知らせ」に記載されているインターネットおよびパソコン通信の各種サービスにより提供しています。

●フロッピーディスク送付サービスを利用する

申込先:NECカスタマサービス(TEL:044-813-2400)

●OS/2 Warp 4-日本語版をご利用の場合

本機でソフトウェアパワーオフ機能を利用するには、OS/2 Warp 4-日本語版に添付の「デバイスサポートディスク」の「ソフトウェアパワーオフ機能」をインストールする必要があります。インストール手順については、OS/2に添付されているマニュアル『OS/2 Warp 4-日本語版 ご利用にあたって』を参照してください。
なお、OS/2 インストール時には拡張電源管理機能を組み込まないよう、以下の手順で設定してください。

1 インストール途中で本機が再起動すると、[システム構成]ウィンドウが表示されます。

2 [次ページ]ボタンを選択すると、[システム構成(続き)]ウィンドウが表示されます。

3 [拡張電源管理(APM)]を選択すると、[拡張電源管理(APM)のサポート]ウィンドウが表示されます。

4 [インストールしない]を選択します。

■マルチメディアのソフトウェア・サポートのインストール

PC-9821 Ra266/W30Rに関する内容です。

本機でOS/2 Warp 4-日本語版を利用する場合、マルチメディアのソフトウェア・サポートのインストールは次の手順で行ってください。

1. インストール途中で、本機が再起動すると[OS/2の設定とインストール]ウィンドウが表示されます。
   ここで[マルチメディアのソフトウェア・サポート]のチェックをはずします。

2. 全てのインストール終了後、[OS/2 システム]－[システム設定]－[インストール/削除]－[システム構成 機能の追加]アイコンを選択します。

3. [システム構成]ウィンドウが表示されたら、[マルチメディア]アイコンをクリックします。

4. [装置選択と設定]ウィンドウが表示されたら、[NEC PCM Sound Driver]をクリックし、[追加>>]、[了解]でマルチメディアを追加します。

5. 次に、[OS/2の設定とインストール]ウィンドウが表示されたら、[マルチメディアのソフトウェア・サポート]をチェックします。

6. 画面の指示にしたがってインストールを行います。

NetWareを利用する

本機で、NetWare(ファイルサーバ)を利用する場合の設定や手順について説明します。

●NetWareを利用する前に

本章の手順を行う前に、「MS-DOS 6.2の利用」をご覧になり、MS-DOS 6.2をアップグレード、インストールしてください。

NetWare® 3.12J(ファイルサーバ)の利用....

NetWare 3.12Jを利用するには次の作業が必要です。

- NetWareのアップグレード
- SCSIドライバのセットアップ
- LANドライバのセットアップ

■NetWareのアップグレード

NetWareのプログラムファイルの内、次のファイルをアップグレードします。

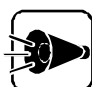
- AIC7870.DSK (PCI対応ASPI SCSIマネージャ/ハードディスクドライバ)
- AIC6360.DSK (PC-9801-100対応ASPI SCSIマネージャ/ハードディスクドライバ)
- NECASPI.DSK (ASPIトランスポートレイヤ)
- ASPICD.DSK (ASPI対応CD-ROMドライバ)
- PC98ID.DSK (内蔵ハードディスク/ファイルベイ内蔵CD-ROMドライバ)
- NECSTUB.DSK (デバイスドライバサポートモジュール)
- PB4680.LAN (PCI対応ODIサーバドライバ)
- N100B.LAN (内蔵100BASE-TX、PC-9821X-B06対応ODIサーバドライバ)
- ETHERTSM.NLM (LANドライバ関連モジュール)
- MSM31X.NLM (LANドライバ関連モジュール)
- XLOAD.EXE (PCI対応NetWareローダユーティリティ)
- LOADER.EXE (PCI対応NetWareローダ)
- POFF3X.NLM (電源制御ユーティリティ)

次に手順を説明します。

以下の手順では、次のものが必要です。準備しておいてください。
・**バックアップCD-ROM**(本機添付)

1 NetWareをインストールするドライブからMS-DOSを起動します。

2 NetWareのSYSTEMファイルを、手順1でMS-DOSを起動したドライブにインストールします。
インストールの手順については、NetWareのインストールマニュアルをご覧ください。



インストールが終了すると、自動的に「SERVER.EXE」が実行されますが、アップグレードを行うため、サーバコンソールから「DOWN」と入力した後、「EXIT」と入力して終了してください。



SYSTEMファイルをインストールしたドライブおよびディレクトリを確認(メモを取るなど)しておいてください。

3 「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットし、コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブおよびカレントディレクトリを変更します。

<CD-ROMドライブ名>: ↵
CD ¥NW312 ↵

4 次のように入力して、アップグレードを実行します。
<ドライブ名>、<ディレクトリ名>には、NetWareのSYSTEMファイルをインストールしたドライブ、ディレクトリを指定します。

UPNET312 <ドライブ名>:¥ <ディレクトリ名> ↵

(このコマンドの最後に「¥」を付ける必要はありません。)

例 UPNET312 A:¥SERVER.312 ↵

5 「NetWare3.12Jのアップグレードが終了しました。」というメッセージが表示されたら、カレントドライブおよびカレントディレクトリを手順2でインストールしたドライブおよびディレクトリに変更してください。

6 本体内蔵LANインターフェイスまたはPC-9821X-B06を使用する場合は、ここで手順2でNetWareをインストールしたドライブのディレクトリにある「NW312.TXT」を他の媒体にCOPYするか、または印刷などを行って内容が参照できるようにしておいてください。

NW312.TXTにはNetWare 3.12Jファイルサーバのインストールの詳細が記載されています。

7 コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
XLOAD LOADER.EXE SERVER.EXE /LD ↵
```

8 NetWareの「SERVER.EXE」を実行して、ファイルサーバをインストールします。インストールの手順については、NetWareのインストールマニュアルをご覧ください。

9 SCSIインターフェイスボードのセットアップを行います。
PC-9821X-B02L、PC-9801-100をお使いの場合、セットアップの方法は「■SCSIドライバのセットアップ」をご覧ください。

10 B4680インターフェイスボードのセットアップを行います。
SV-98/2-B05/B06、SV-98/2-B05L/B06Lをお使いの場合、セットアップの方法は、「■LANドライバのセットアップ」をご覧ください。SV-98/2-B05/B06、SV-98/2-B05L/B06L以外のB4680インターフェイスボードをお使いの場合は、B4680インターフェイスボードに添付のマニュアルをご覧ください。

11 本体内蔵LANインターフェイスまたはPC-9821X-B06のセットアップを行います。
詳細は手順6のNW312.TXTを参照してください。

12 電源制御ユーティリティのセットアップを行います。
セットアップ方法は、後述の「■電源制御ユーティリティのセットアップ」を参照してください。



必要に応じて、アップグレードしたドライバをNetWareのSYS:SYSTEMディレクトリにもコピーしてください。

■SCSIドライバのセットアップ

SCSIドライバには、次の4種類があります。

- **AIC7870.DSK** (PCI対応ASPI SCSIマネージャ/ハードディスクドライバ)
- **AIC6360.DSK** (PC-9801-100対応 ASPI SCSIマネージャ/ハードディスクドライバ)
- **NECASPI.DSK** (ASPIトランスポートレイヤ)
- **ASPICD.DSK** (ASPI対応CD-ROMドライバ)

●AIC7870.DSK

Adaptec社の提唱するASPI(Advanced SCSI Programming Interface)に対応したSCSIマネージャで、PC-9821X-B02Lをお使いの場合に使用します。
使用方法は、コマンドプロンプトから次のように入力してドライバをロードします。

LOAD [パス名] AIC7870 [コマンドオプション]
(自動的にNECASPI.DSKもロードされます)

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

SLOT= PCIのデバイス番号に16を加算した値を指定することができます。省略した場合、デバイス番号の候補が表示されますので、その中から選択して番号を指定することもできます。

VERBOSE=SCSIアダプタの情報をコンソール画面に表示します(「y」の場合)。

●AIC6360.DSK

Adaptec社の提唱するASPIに対応したSCSIマネージャで、PC-9801-100をお使いの場合に使用します。
使用方法は、コマンドプロンプトから次のように入力してドライバをロードします。

LOAD [パス名] AIC6360[コマンドオプション]
(自動的にNECASPI.DSKもロードされます)

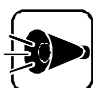
コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

PORT= PC-9801-100で使用するI/Oポートベースアドレスを指定できます。省略した場合、候補が表示されますので、その中から選んで番号を指定することもできます。

SYNC= ドライバ初期化時の同期転送ネゴシエーションの有無を指定できます(デフォルトはON)。

- **ON** 全デバイスに対して同期転送ネゴシエーションを行います。
- **OFF** 同期転送ネゴシエーションを行わず、BIOS設定に従います。

VERBOSE=本ドライバの情報をコンソール画面に表示します(「y」の場合)。

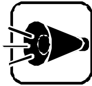


- **「SBACKUP.NLM」を使ってバックアップを行う場合、「TAPEDAI.DSK」をロード後、「SBACKUP.NLM」をロードしてください。また、DIBI-IIドライバは、DIBIDAIをご利用ください。**
- **ハードディスク以外の装置(CD-ROM、DAT)については、別途ドライバが必要です。たとえば、CD-ROM装置には「ASPICD.DSK」、またはサードパーティ製ASPI仕様CD-ROMドライバが必要です。**

●ASPICD.DSK

Adaptec社の提唱するASPIに対応したCD-ROMドライバです。
使用方法は、コマンドプロンプトから次のように入力してドライバをロードします。

LOAD ［パス名］ ASPICD
（自動的にNECASPI.DSKもロードされます）



ASPI仕様のSCSIマネージャがロードされていない場合、CD-ROM装置を認識できません。

■LANドライバのセットアップ

B4680インターフェイスボード（SV-98/2-B05/B06、およびSV-98/2-B05L/B06L）および本体内蔵LANインターフェイス、PC-9821X-B06を使用する場合のセットアップ方法について説明します。
NetWareのインストール方法や用語などについては、NetWareのマニュアルをご覧ください。

●B4680インターフェイスボードのセットアップ方法

AUTOEXEC.NCFファイルに、次のようなLANドライバのロード行を追加します。

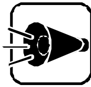
LOAD ［パス名］ PB4680 ［コマンドオプション］

LANドライバをロードする際に指定できるコマンドオプションは、FRAME、BOARD、NAME、NODEの4種類です。

FRAME　LANドライバが使用するフレームタイプを指定します。
FRAMEオプションに指定可能な値は次のとおりです。

Ethernet_802.2
Ethernet_802.3
Ethernet_SNAP
Ethernet_II

各フレームタイプの詳細は、NetWareのマニュアルをご覧ください。1つの物理ボードに複数のFRAMEを割り当てる場合には、BOARDオプションとともに指定してください。FRAMEオプションを指定しない場合はデフォルト値としてEthernet_802.2となります。



FRAMEのタイプがファイルサーバとワークステーションで異なると通信ができませんので、注意してください。

BOARD　1つの物理ボードに複数のFRAMEを割り当てるときに指定します。1つの物理ボードに1つのFRAMEしか割り当てない場合は必要ありません。BOARDオプションの値はユーザによって決められます。
BOARDオプションで指定できる値の範囲は、1～9999です。

たとえば、1つの物理ボードに4つのFRAMEを割り当てる場合、次のように指定します。

```
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.3 BOARD=1
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.2 BOARD=1
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_II    BOARD=1
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_SNAP BOARD=1
```

NAME　物理ボードに複数のFRAMEを割り当てた際、プロトコルとバインドを行うための名前を定義します。

たとえば、次のように指定します。

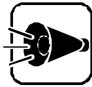
```
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.3 BOARD=1 NAME=E_8023
LOAD A:PB4680 FRAME=ETHERNET_802.2 BOARD=1 NAME=E_8022
BIND IPX TO E_8023 NET=XXXX
BIND IPX TO E_8022 NET=YYYY
```



NET=　で指定される値(上記例では、XXXXとYYYY)は、1～8桁の16進数です。詳細については、NetWareのマニュアルをご覧ください。

NODE　ユーザがノードアドレスを指定するためのオプションです。
NODEオプションを指定した場合、指定したノードアドレスのローカルビットが自動的に設定されます。

例　00004C000001　(指定したアドレス)
↓
02004C000001　(使用されるアドレス)
↓
0010　(2進数表現)
ローカルビット



通常、指定する必要はありません。NODEオプションがない場合、LANドライバはボード上のROMのノードアドレスを使用します。ROMのノードアドレスから変更の必要性が生じた場合のみ指定してください。

●複数枚ボード実装時のLANドライバのロードについて

本ボードを2枚以上実装した場合は、それぞれのボードに対してLANドライバをロードする必要があります。
たとえば、3枚のボードを実装した場合は、AUTOEXEC.NCFファイルに次のようなLANドライバのロード行を追加します。

```
LOAD  A:PB4680        ← 1枚目のボード
LOAD  A:PB4680        ← 2枚目のボード
LOAD  A:PB4680        ← 3枚目のボード
```

また、STARTUP.NCFファイルに次のような行を追加してください。

```
SET  RESERVED  BUFFERS  BELOW  16  MEG=200
```

「MEG=」には、設定可能な最大値を設定します。詳細は、NetWareのマニュアル、またはSETコマンドで確認できます。
最大値はNetWare 3.12Jでは「200」、NetWare 4.1Jでは「300」です。



本インターフェイスの最大実装可能枚数は、本機のPCIスロット数に制限されます。

●本体内蔵LANインターフェイスまたは、PC-9821X-B06のセットアップ

本体内蔵LANインターフェイスまたは、PC-9821X-B06のセットアップの詳細は、NW312.TXT(NetWare 3.12Jファイルサーバのインストールの詳細)を参照してください。

●LANドライバのロードについての注意事項

PC-9867およびPC-9868のインターフェイスボードを使用する場合、LANドライバ(PC4680.LAN)は、ほかのLANドライバより先にロードしてください。
AUTOEXEC.NCFにLANドライバの設定をしている場合は、PC4680.LANのロード行をほかのLANドライバのロード行より前に記述してください。

■電源制御ユーティリティのセットアップ

電源制御ユーティリティのセットアップ方法について説明します。
電源制御ユーティリティをロードすると、電源スイッチをOFFすることにより、NetWareファイルサーバをシャットダウンできるようになります。
電源制御ユーティリティをアンロードすると、従来の電源スイッチに戻ります。

●セットアップ方法

AUTOEXEC.NCFファイルに、次のようなユーティリティのロード行を追加します。

LOAD ＜パス名＞ POFF3X [コマンドオプション]

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

省略時	電源スイッチをOFFにすると、約1分後にファイルサーバのシャットダウンが始まり、シャットダウン終了後に電源が切断されます。
LOCK	LOCKモードになります。LOCKモードでは電源スイッチをOFFにしても、電源が切れなくなります。本設定とコンソールモニタのコンソールロック機能を併用すると、管理者以外の第三者によってシャットダウンされることを防止できます。LOCKモードを解除するには、手動でファイルサーバをシャットダウンしてMS-DOSに戻ってください。

NetWare® 4.1J(ファイルサーバ)の利用....

NetWare 4.1Jを利用するには次の作業が必要です。

- **NetWareのアップグレード**
- **SCSIドライバのセットアップ**
- **LANドライバのセットアップ**

■NetWareのアップグレード

NetWareのプログラムファイルの内、次のファイルをアップグレードします。

- **AIC7870.DSK**　**(PCI対応ASPI SCSIマネージャ/ハードディスクドライバ)**
- **AIC6360.DSK**　**(PC-9801-100対応 ASPI SCSIマネージャ/ハードディスクドライバ)**
- **NECASPI.DSK**　**(ASPIトランスポートレイヤ)**
- **ASPICD.DSK**　**(ASPI対応CD-ROMドライバ)**
- **PC98ID.DSK**　**(内蔵ハードディスク/ファイルベイ内蔵CD-ROMドライバ)**

- NECSTUB.DSK　(デバイスドライバサポートモジュール)
- PB4680.LAN　(PCI対応ODIサーバドライバ)
- N100B.LAN　(100BASE-TX、PC-9821X-B06対応ODIサーバドライバ)
- ETHERTSM.NLM(LANドライバ関連モジュール)
- MSM.NLM　(LANドライバ関連モジュール)
- POFF4X.NLM　(電源制御ユーティリティ)

次に手順を説明します。

> 以下の手順では、次のものが必要です。準備しておいてください。
> - **バックアップCD-ROM**(本機添付)
> - **1Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク:1枚**
>
>   このフロッピーディスクには「NetWare4.1Jアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

1 NetWareをインストールするドライブからMS-DOSを起動します。

2 用意したフロッピーディスクを、フロッピーディスクドライブに、「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。

3 MS-DOSのコマンドプロンプトで、次のように入力してカレントドライブおよびディレクトリを変更します。

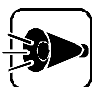
<CD-ROMドライブ名>: ↵
CD ¥NW41 ↵

4 次のように入力します。

UPNET41 <フロッピーディスクドライブ名>: ↵
(このコマンドの最後に「¥」を付ける必要はありません。)

5 「NetWare 4.1Jのアップグレードディスクを作成しました」というメッセージが表示されたら、アップグレードディスクの完成です。

6 手順1でMS-DOSを起動したドライブにNetWareをインストールします。
インストール手順については、NetWareのインストールマニュアルをご覧ください。



PC-9801-100、PC-9821X-B02L、内蔵ハードディスクや内蔵CD-ROMをお使いの場合、インストール中に表示されるディスクドライバの選択画面で、INSキー(リストにないドライバのインストール)を押して、f･3キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリパスの指定ウィンドウが表示された後、アップグレードディスクのドライブを指定してください。

例　アップグレードディスクのドライブがCドライブの場合

C:¥ ⏎

ディスクドライバの一覧が表示されますので、その中からドライバを選択してください。

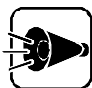


SV-98/2-B05/B06、SV-98/2-B05L/B06Lまたは本体内蔵LANインターフェイス、PC-9821X-B06をお使いの場合、インストール中に表示されるネットワークドライバの選択画面で、INSキー(リストにないドライバのインストール)を押して、f･3キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリパスの指定ウィンドウが表示された後、アップグレードディスクのドライバ名を指定してください。

例　アップグレードディスクのドライブがCドライブの場合

C:¥ ⏎

ネットワークドライバの一覧が表示されますので、その中からドライバを選択してください。



必要に応じて、アップグレードしたドライバをNetWareのSYS:SYSTEMディレクトリにもコピーしてください。

7 NetWareのインストールが終了したら、サーバのコンソール画面で次のように入力してインストールユーティリティを起動します。

LOAD INSTALL ⏎

8 [インストールオプション]の画面で、「プロダクトオプション」を選択してください。

9 [その他のインストール操作]の画面で、「リストにはないプロダクトのインストール」を選択した後、f･3キー(パスの変更)を押してください。ディレクトリのパスの指定ウィンドウが表示された後、「アップグレードディスク」のドライブとディレクトリを指定してください。

例　C:¥ ⏎

10 ファイルのコピーが終了したら、後述の「■電源制御ユーティリティのセットアップ」をご覧になって、AUTOEXEC.NCFファイルを書き替えてください。

■SCSIドライバのセットアップ

「NetWare® 3.12J(ファイルサーバ)の利用」の「■SCSIドライバのセットアップ」をご覧ください。

■LANドライバのセットアップ

本体内蔵LANインターフェイスまたはPC-9821X-B06のセットアップの詳細は、アップグレードディスクのNW4X.TXT(NetWare 4.1Jサーバのインストールの詳細)を参照してください。
その他のLANドライバのコマンドオプションについては、「NetWare® 3.12J(ファイルサーバ)の利用」の「■LANドライバのセットアップ」をご覧ください。なお、LANドライバのロード行のパス名は記述しないでください。

■電源制御ユーティリティのセットアップ

電源制御ユーティリティのセットアップ方法について説明します。
電源制御ユーティリティをロードすると、電源スイッチをOFFすることにより、NetWareファイルサーバをシャットダウンできるようになります。
電源制御ユーティリティをアンロードすると、従来の電源スイッチに戻ります。

●セットアップ方法

AUTOEXEC.NCFファイルのSYSボリュームをマウントさせる記述の後に、次のようなユーティリティのロード行を追加します。

LOAD POFF4X [コマンドオプション]

コマンドオプション(省略可)の内容は次のとおりです。

省略時 電源スイッチをOFFにすると、約1分後にファイルサーバのシャットダウンが始まり、シャットダウン終了後に電源が切断されます。

LOCK LOCKモードになります。LOCKモードでは電源スイッチをOFFにしても、電源が切れなくなります。本設定とコンソールモニタのコンソールロック機能を併用すると、管理者以外の第三者によってシャットダウンされることを防止できます。LOCKモードを解除するには、手動でファイルサーバをシャットダウンしてMS-DOSに戻ってください。

IntranetWare/NetWare® 4.11J（ファイルサーバ）の利用

IntranetWare/NetWare4.11J（以降はNetWareと呼びます）を利用するには、次の作業が必要です。

■ **NetWareのアップグレード**

■ NetWareのアップグレード

NetWareのプログラムファイルの内、次のファイルをアップグレードします。

- **PC98ID.DSK（内蔵ハードディスク/ファイルベイ内蔵CD-ROMドライバ）**

次に手順を説明します。

> 以下の手順では、次のものが必要です。準備しておいてください。
> - **バックアップCD-ROM**（本機添付）
> - **1Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク：1枚**
>
>   このフロッピーディスクには「IntranetWare/NetWare4.11Jアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

1 NetWareをインストールするドライブからMS-DOSを起動します。

2 「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブに、あらかじめ用意したフロッピーディスクを、フロッピーディスクドライブにセットします。

3 MS-DOSのコマンドプロンプトで、次のように入力してカレントドライブおよびディレクトリを変更します。

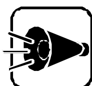
<CD-ROMドライブ名>：↵
CD　¥INW↵

4 次のように入力します。

UPINW　<フロッピーディスクドライブ名>：↵
（このコマンドの最後に¥をつける必要はありません）

5 「IntranetWare /NetWare4.11Jアップグレードディスクを作成しました」というメッセージが表示されたら、アップグレードディスクの完成です。

6 手順1でMS-DOSを起動したドライブにNetWareをインストールします。
インストール手順については、NetWareの「インストール」マニュアルをご覧ください。



内蔵ハードディスクや、内蔵CD-ROMドライブをお使いの場合、以下の手順に従ってください。

1 インストール中に表示されるサーバドライバの選択：概要画面で、「選択したディスク／LANドライバの追加選択あるいは変更」を選択し、PC98ID.DSKを選択してください。

2 ディスクドライバの選択画面になります。「選択したドライバの選択解除」を選択してください。ドライバ名一覧が表示されますので、その中からPC98ID.DSKを選択してください。

3 「追加ドライバの選択」を選択してください。INSキー（リストにないドライバのないインストール）を押して、f·3キー（パスの変更）を押してください。ディレクトリパスの指定ウィンドウが表示された後、アップグレードディスクのドライブを指定してください。

例　アップグレードディスクのドライブがCドライブの場合

C:¥⏎

ドライバの一覧が表示されますので、その中からPC98ID.DSKを選択してください。

NetWare® 3.12J/4.1J(クライアント)の利用.....

NetWare 3.12J/4.1Jのクライアント環境は、NetWare付属のWSINST.BAT(3.12Jの場合)またはINSTALL.EXE(4.1Jの場合)を使用してインストールすることができます。

■本体内蔵LANインターフェイスを使用する場合

本体内蔵LANインターフェイスまたはPC-9821X-B06を使用する場合は、以下の手順でクライアントアップグレードディスクを作成してください。なお、インストールの詳細はこのアップグレードディスクのNWODIDOS.TXT(DOS ODIクライアントインストール詳細)を参照してください。

> 以下の手順では、次のものが必要です。準備しておいてください。
> - **バックアップCD-ROM**(本機添付)
> - **1Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク:1枚**
>
>   このフロッピーディスクには「NetWare クライアントアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

1 1Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに、「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。

2 コマンドプロンプトから次のように入力してください。

＜CD-ROMドライブ名＞: ↵
CD ¥NWCLIENT ↵
UPNWCLI ＜フロッピーディスクドライブ名＞: ↵

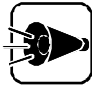
例 CD-ROMドライブがQドライブで、フロッピーディスクドライブがCドライブの場合

Q: ↵
CD ¥NWCLIENT ↵
UPNWCLI C: ↵

(このコマンドの最後に「¥」をつける必要はありません)

3 「NetWareのクライアントアップグレードディスクを作成しました。」というメッセージが表示されたら「NetWare クライアントアップグレードディスク」の完成です。NetWareのインストール作業の途中で、このフロッピーディスクを使用します。

4 インストール作業の途中でのLANドライバの選択メニューでは、「他のドライバ」を選択し、「NetWare クライアントアップグレードディスク」の¥(ルート)ディレクトリを指定するようにしてください。



LSL.COMは下記のバージョン以降のものを使用する必要があります。

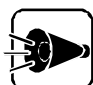
LSL.COM 2.16

LSL.COMのバージョンが上記より古い場合は、ドライバディスクの\(ルートディレクトリ)ディレクトリにあるものを使用してください。

その他のソフトウェアを利用する

本機で、別売のソフトウェアを利用する場合の設定や手順について説明します。

N88-日本語BASIC(86)(MS-DOS版)Ver6.2の利用



- **N88-日本語BASIC(86)(MS-DOS版)Ver.6.2は、Windows NT上では動作保証していません。**
- **本機では、N88-BASIC(86)およびN88-日本語BASIC(86)Ver 6.3は利用できません。**

●テキスト画面についてのご注意

テキスト画面を使用する場合、WIDTH命令を使用して表示する＜桁数＞を40桁に設定することはできません。

●グラフィック画面についてのご注意

グラフィック画面を使用する場合、SCREEN命令を使用して＜画面モード＞を白黒モードまたは高分解能白黒モードに設定することはできません。

●Windows 95／Windows 98上でのご注意

Windows 95／Windows 98上で使用する場合は、MS-DOSモードを起動してご利用ください。
Windows 95／Windows 98のMS-DOSプロンプトを起動して使用することはできません。
次にMS-DOSモードを起動させる手順を説明します。

1. Windows 95／Windows 98の[スタート]メニューで[Windowsの終了]をクリックします。
2. [Windowsの終了]画面から[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択します。
3. [はい]ボタンをクリックして、MS-DOSモードを起動させます。

MS　LANマネージャの利用

この章では、本機でMS LANマネージャを利用する際に必要となるアップグレード作業の手順と強化機能について説明します。

■MS　LANマネージャのアップグレード

本機で、本体内蔵LANインターフェイス/MS LANマネージャ リモートアクセスサービスを利用する前には、次の手順でアップグレードを行ってください。

本機で、本体内蔵LANインターフェイス/MS LANマネージャ リモートアクセス サービスを利用するにはあらかじめ、次のソフトウェアがシステムにインストールされていることを確認してください。

- **日本語MS-DOS 6.2のインストール/アップグレード**

  「MS-DOSを利用する」をご覧になって、インストール/アップグレードを行ってください。

- **以下のいずれかのLANマネージャ**
  - 日本語マルチベンダLANマネージャ 2.1A MS-DOSクライアントパック
  - 日本語マルチベンダLANマネージャ 2.1A サーバパック内のMS-DOS LANマネージャワークステーション
  - 日本語マルチベンダLANマネージャ 2.1c

ただし、本体内蔵LANインターフェイスを利用する場合、LANマネージャのネットワークアダプタドライバの設定を「ドライバなし」でセットアップしてください。
また、CD-ROMドライブが利用できるよう設定を行ってください。

MS-DOS LANマネージャおよび、MS LANマネージャ リモートアクセス サービスのインストール/構成方法については、次のそれぞれのマニュアルをご覧ください。

- **LANマネージャ 2.1Aをご使用の場合**

  『MS-DOS LANマネージャ 2.1 セットアップガイド』

  『MS-DOS LANマネージャ リモートアクセス サービス管理者ガイド』

  『MS LANマネージャ 2.1A ご使用に際して』

- **LAN マネージャ 2.1c をご使用の場合**

  『MS-DOS LANマネージャ 2.1 セットアップガイド』

『MS-DOS LANマネージャ リモートアクセス サービス管理者ガイド』
『Microsoft Windows NT Server 3.51 の内容について』

●本体内蔵LANインターフェイスドライバのアップグレード

次の手順でアップグレードを行います。

> 以下の手順では、次のものが必要です。準備しておいてください。
>
> - **バックアップCD-ROM**（本機添付）
> - **フォーマット済みのフロッピーディスク：1枚**
>   このフロッピーディスクには、「LANマネージャアップグレードディスク（機種名）」と書いたラベルを貼っておきます。機種名には、お使いの機種名を書いてください。

1．アップグレードディスクの作成

ただし、下記の「MS LAN リモートアクセスサービスのアップグレード」でアップグレードディスク作成済みの場合、本操作は必要はありません。

1 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。

2 「バックアップ CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットし、フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

3 コマンドプロンプトから次のように入力して、アップグレードディスクを作成します。

```
XCOPY <CD-ROMドライブ名>:¥LANMAN <フロッピーディスクドライブ名>: /S ↵
```

例 CD-ROMがQドライブ、フロッピーディスクがBドライブの場合

```
XCOPY Q:¥LANMAN B: /S ↵
```

2． 本体内蔵LANインターフェイスドライバのセットアップ

1 「LANマネージャアップグレードディスク」をセットし、コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブをLANマネージャをインストールしたドライブに変更します。

```
<ドライブ名>: ↵
```

例 LANマネージャをAドライブにインストールしている場合

```
A: ↵
```



2 コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリをLANマネージャをインストールしたディレクトリに変更します。

CD　<ディレクトリ名> ⏎

例　LANマネージャをLANMAN.DOSディレクトリにインストールしている場合

CD　LANMAN.DOS ⏎

3 コマンドプロンプトから次のように入力してLANマネージャのセットアッププログラムを実行します。

SETUP ⏎

4 [表示／変更]メニューの[ネットワークドライバの登録]を選択し、[新規設定]を選択します。

5 [ネットワークワークアダプタドライバ]画面が表示されたら[その他のドライバ]を選択します。

6 [ドライバまたはプロトコルファイルのコピー]ダイアログボックスが表示されますので、[LANマネージャアップグレードディスク]をセットしたドライブを指定し、[了解]を選択します。

<ドライブ名>:

例　「LANマネージャアップグレードディスク」をBドライブにセットしている場合

B:

7 [その他のネットワークアダプタドライバ] ダイアログボックスに [PC-9821X-B06(互換)/Intel EtherExpress PRO/100B] と表示されます。ここで、[了解]を選択すると、必要なファイルのコピーを行います。

8 [ネットワークプロトコル]ダイアログボックスが表示されたら、以降の操作は通常のLANマネージャセットアップと同様に行います。

9 セットアップが終了したら、本機を再起動してください。

●MS　LANマネージャリモートアクセスサービスのアップグレード

次の手順でアップグレードを行います。

> 以下の手順では、次のものが必要です。準備しておいてください。
>
> ・**バックアップCD-ROM**（本機添付）
>
> ・**フォーマット済みのフロッピーディスク：1枚**

1．MS　LANマネージャリモートアクセスサービスのインストール

MS　LANマネージャリモートアクセスサービスをハードディスクにインストールします。
MS　LANマネージャリモートアクセスサービスのインストール方法は、『MS　LANマネージャリモートアクセスサービス管理者ガイド』をご覧ください。

2．アップグレードディスクの作成

ただし、前記の「本体内蔵LANインターフェイスドライバのアップグレード」でアップグレードディスク作成済みの場合、本操作は必要ありません。

1 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。

2 「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットし、フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

3 コマンドプロンプトから次のように入力して、アップグレードディスクを作成します。

```
XCOPY <CD-ROMドライブ名>:¥LANMAN <フロッピーディスクドライブ名>: /S ↵
```

例　CD-ROMがQドライブ、フロッピーディスクがBドライブの場合

```
XCOPY Q:¥LANMAN B: /S ↵
```

3．リモートアクセスサービスのアップグレード

1 作成した「LANマネージャアップグレードディスク」をセットし、コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントドライブをフロッピーディスクドライブに変更します。

<ドライブ名>: ↵

例 「LANマネージャアップグレードディスク」をBドライブにセットしている場合

B: ↵

2 コマンドプロンプトから次のように入力して、カレントディレクトリを¥LANMANディレクトリに変更します。

CD LANMAN ↵

3 コマンドプロンプトから次のように入力してアップグレードプログラムを実行します。

INSTRAS <ドライブ名>:<LANマネージャのディレクトリ> ↵

<ドライブ名>、<LANマネージャのディレクトリ>には、それぞれMS-DOS LANマネージャをインストールしたドライブとディレクトリを入力します。

例 ドライブAの¥LANMAN.DOSディレクトリにLANマネージャをインストールしている場合

INSTRAS A:¥LANMAN.DOS ↵

4 ファイルのコピーが終了すると、自動的にリモート アクセス サービスのセットアッププログラムが起動します。ここで、[構成]を選択し、ポートとモデムの再構成を行ってください。

5 セットアップが終了したら、本機を再起動してください。

■MS　LANマネージャの強化機能

ここでは、「MS　LANマネージャのアップグレード」の手順に従ってアップグレードしたMS　LANマネージャの強化機能について説明します。

●MS　LANマネージャで本体内蔵LANインターフェイスを利用する

本機では、本体内蔵LANインターフェイスを利用して100Mbpsの高速転送を利用することができます（ただし、100Mbps対応のマルチポートリピータ、ネットワークケーブル使用時のみ）。

本機で本体内蔵LANインターフェイスを利用する前に、上記で作成した「LANマネージャアップグレードディスク」にある「README.TXT」をご覧ください。

●MS　LANマネージャリモートアクセスサービスで38400bpsの通信速度を利用する

MS LANマネージャリモートアクセスサービスでは、38400bpsまでの通信速度が利用できます。Windows 3.1上でご使用の場合は、19200bpsより高速な通信速度は使用できません。

・PC-9801-101 RS-232C（第2～第3回線用）拡張インターフェイスボードを使用する場合は、インターフェイスボードに添付されているドライバはインストールしないでください。
・PC-9861K、またはPC-9801-101拡張インターフェイスボードをご使用の場合は、それぞれのインターフェイスボードでサポートされている最高の通信速度までご利用になれます。
・モデムカード2400（PC-9801N-J01）、FAXモデムカード（PC-9801N-J05）を使用する場合は、次の点に注意してください。
  ・活線挿抜機能は使用できない
  ・通信速度は、それぞれのPCカードでサポートされている最高通信速度まで使用できる
・FAXモデムカード（PC-9801N-J05）を使用する前には、FAXモデムカードセットのFAXモデムカードメニュー（MODEMSET.EXE）を使用して、RS-232C回線番号をCOM2またはCOM3に設定してお使いください。
  FAXモデムカードメニューの使用方法については、FAXモデムカード添付の『FAXモデムカードセットご使用に際して』をご覧ください。

TCP/IP通信制御ドライバの利用................

MS-DOSおよびWindows 3.1環境において、TCP/IP通信制御ドライバを使い本体内蔵LANインターフェイスを利用するには、次の手順に従いインストールを行う必要があります。

本機で動作可能なTCP/IP製品は次の通りです。

TCP/IP通信制御ドライバ(Windows版)(Ver1.0)以降

インターネットソフトウェアセット(エントリ)(Windows版)(Ver1.0)

インターネットソフトウェアセット(スタンダード)(Windows版)(Ver1.0)

また、次のソフトウェアがシステムにインストールされていることを確認してください。

- **日本語MS-DOS**
- **Windows 3.1**



- **TCP/IPとMS-DOS LANマネージャを同時に使用する場合は、LANマネージャのセットアッププログラムを使用してインストールしてください。詳しくはTCP/IPのマニュアルを参照してください。**
- **TCP/IPをNetWareと共存させる場合は、NetWareのインストール終了後、TCP/IPのマニュアルに従ってインストールしてください。**

以下の手順では、次のものが必要です。準備しておいてください。

- **バックアップCD-ROM**(本機添付)
- **フォーマット済みの2HDフロッピーディスク : 1枚**
  このフロッピーディスクには、あらかじめ「ネットワークアダプタディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

1. ネットワークアダプタディスクの作成

1 内蔵ハードディスクからMS-DOSを起動します。

2 「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブに、フォーマット済みの2HDフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

3 コマンドプロンプトから次のように入力して、ネットワークアダプタディスクを作成します。

XCOPY <CD-ROMドライブ名>:¥LANMAN <フロッピーディスクドライブ名>:¥ /S [↵]

例 CD-ROMドライブがQ、フロッピーディスクドライブがBの場合

XCOPY Q:¥LANMAN B:¥ /S [↵]

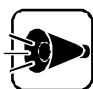
2. TCP/IP通信制御ドライバのインストール

TCP/IP通信制御ドライバのマニュアルに従いインストールを行います。

1 インストールプログラムを起動してください。

2 使用するネットワークアダプタの選択画面で、「その他のボード」を選択し、1で作成した「ネットワークアダプタディスク」をフロッピーディスクドライブにセットしてください。

3 以降はインストールプログラムの指示にしたがってください。



本体内蔵LANインターフェイスを使用時には「RAMウィンドウアドレス」を使用しませんので、以下のファイルの修正は必要ありません。

- **MS-DOS 5.0A以上でUMBを使用する場合、CONFIG.SYSファイルのEMM386.EXE“/E”オプションの設定。**
- **Windows 3.1をエンハンスドモードで使用する場合、SYSTEM.INIファイルの“EMMExclude”パラメータの設定。**

プラグ＆プレイサポートソフトウェアの利用.....

MS-DOS 6.2およびWindows 3.1環境でプラグ&プレイ対応ボードをプラグ&プレイモードでご利用になる場合は、別売のプラグ&プレイサポートソフトウェアが必要となります。本機でプラグ&プレイサポートソフトウェアを利用するには、必ず以下の手順でアップグレードを行ってください。

1. アップグレードディスクの作成

2. プラグ&プレイサポートソフトウェアのアップグレード

1. アップグレードディスクの作成

以下の手順では、次のものが必要です。準備しておいてください。

- **バックアップCD-ROM**（本機添付）
- **2HDのフロッピーディスク：1枚**
  2HDフロッピーディスクには、あらかじめ「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」と書いたラベルを貼っておいてください。

1 本機の電源をONにして、内蔵のハードディスクからWindows 95を起動します。

2 ［スタート］メニューから［プログラム］－［MS-DOSプロンプト］を起動します。

3 CD-ROMドライブに「バックアップCD-ROM」をセットし、コマンドプロンプトから次のように入力してカレントディレクトリを変更します。

<CD-ROMドライブ名>：↵
CD ¥PNP↵

4 「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットしてください。このときフロッピーディスクは書込可能状態にしておいてください。

5 FORMATコマンドを使って「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」を初期化します。コマンドプロンプトから次のように入力してください。

FORMAT <フロッピーディスクドライブ名>: /U /F:1.44↵

<ドライブ名>には、「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をセットしたフロッピーディスクドライブを指定します。

6 アップグレードモジュールを「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」にコピーします。コマンドプロンプトから次のように入力してください。

FBACKPNP　＜フロッピーディスクドライブ名＞:↵

2. プラグ&プレイサポートソフトウェアのアップグレード

1 別売のプラグ&プレイサポートソフトウェアをインストールします。インストールが完了すると、「本機を再起動してください。」という内容のメッセージが表示されますが、再起動させずにコマンドプロンプトの状態にしてください。

インストールの手順については、『プラグ&プレイサポートソフトウェアコンフィグレーションユーティリティユーザーズガイド』を参照してください。

2 「1.アップグレードディスクの作成」で作成した「プラグ&プレイサポートソフトウェアアップグレードディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、コマンドプロンプトから次のように入力してカレントドライブを変更します。

＜フロッピーディスクドライブ名＞:↵

3 コマンドプロンプトから次のように入力してアップグレードを行います。

・プラグ&プレイサポートソフトウェアのDOS版をインストールした場合

UPPNP　＜ドライブ名1＞:¥＜プラグ&プレイインストールディレクトリ名＞↵

・プラグ&プレイサポートソフトウェアのWindows版をインストールした場合

UPPNP　＜ドライブ名1＞:¥＜プラグ&プレイインストールディレクトリ名＞
＜ドライブ名2＞:¥＜Windows 3.1ディレクトリ名＞↵

＜ドライブ名1＞には、プラグ&プレイサポートソフトウェアをインストールしたドライブを、＜ドライブ名2＞には、Windows 3.1がインストールされているドライブを指定します。

例 プラグ&プレイサポートソフトウェアをBドライブの¥PLUGPLAYディレクトリに、Windows 3.1をBドライブの¥WINDOWSディレクトリにインストールしている場合

UPPNP　B:¥PLUGPLAY　B:¥WINDOWS↵

4 アップグレード終了後、本機を再起動してください。プラグ&プレイサポートソフトウェアがご使用になれます。

Windows 98を利用する

PC-9821 Ra333/W60、PC-9821 Ra300/W40に関する内容です。

本機で別売の Windows 98を利用する手順について簡単に説明します。
詳しくは、「バックアップCD-ROM」内の次のファイルをご覧ください。

¥WIN98¥README.TXT

■準備するもの

Windows 98をセットアップする手順では次のものが必要です。あらかじめ準備しておいてください。

- Microsoft® Windows® 98(別売)
- バックアップCD-ROM(本機添付)
- バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク

■セットアップの流れ

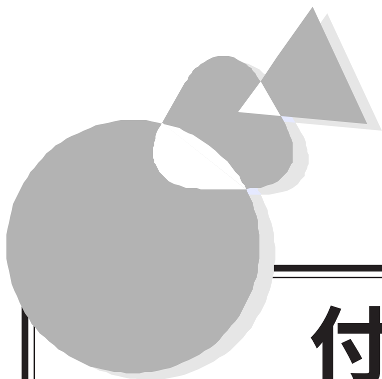
本機にWindows 98をセットアップするには、次の手順で行います。

1 Windows 98をセットアップする

Windows 98添付マニュアルをご覧になり、Windows 98をセットアップしてください。

2 ドライバやアプリケーションを更新する

「バックアップCD-ROM(OSを除く)用インストールディスク」内の「¥WIN98¥README.TXT」をご覧になり、ドライバやアプリケーションの更新を行ってください。



付録

本機を利用するための補足情報です。

●固定ディスク起動メニューの利用

●FAT32ファイルシステムの利用

固定ディスク起動メニューの利用

ここでは、本機で固定ディスク起動メニューを利用する上での必要事項について説明します。

■固定ディスク起動メニュー

［固定ディスク起動メニュー］では、ハードディスクのどの領域（ドライブ）から、システムを起動するかを選択することができます。
［固定ディスク起動メニュー］を表示させるには、キーボードの TAB キーを押しながら、電源をONにしてください。このとき、「ピピピ…」と音が鳴るまで TAB キーを押したままにしてください。

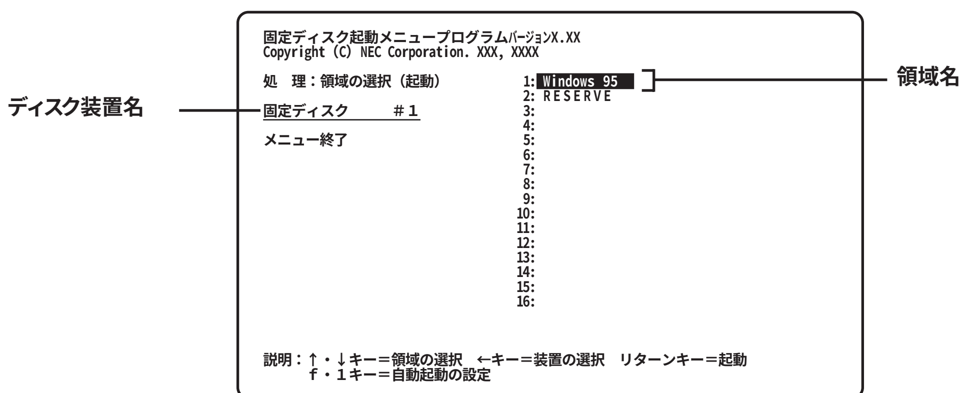
ただし、固定ディスク起動メニューを表示させてシステムを起動するには、次のうち、どれか1つを満たしている必要があります。

- **BOOT可になっている領域が複数ある場合**
- **本機内蔵ハードディスク以外に別売のハードディスクを増設した場合**

本機はご購入時には2つの領域に分けられていますが、BOOT可が1つに設定されているので、TAB キーを押しながら電源をONにしても、固定ディスク起動メニューは表示されず、内蔵ハードディスクのWindows 95が起動します。
BOOTを変更するには、［FDISKオプション］の機能を利用します。［FDISKオプション］は、MS-DOSプロンプトの画面から、

FDISK ↵

と入力してください。表示された画面で、［2．状態を変更］を選択してください。あとは画面の指示に従って、領域のBOOTを「可」にしてください。



固定ディスク起動メニュー



[固定ディスク起動メニュー]の画面では、どのディスク装置のどの領域(ドライブ)からシステムを起動するかを選択できます。
画面左には、ディスク装置名が表示されており、同じインターフェイスごとに1から順に装置番号が付けられます。また、画面右には下線が付いた装置内の領域名が表示されています。
システムを起動するには、↑、↓、←、→キーで起動したい装置、領域に反転表示をあわせて、⏎キーを押します。
なお、[FDISKオプション]の[4. 領域情報を表示]で「BOOT」が「不可」になっている領域や、「状態」が「スリープ」になっている領域は選択できません。

●自動起動の設定

[固定ディスク起動メニュー]を表示しないで、あらかじめ指定したハードディスクの指定した領域から自動起動することができます。自動起動の設定を行うと、次回起動時からは固定ディスク起動メニューは表示されません。
自動起動の設定を行うには、次のように操作してください。

1 [固定ディスク起動メニュー]が表示されているときに、自動起動したい領域を反転表示させ、f·1キーを押します。

2 「選択した領域を自動起動に設定しますか(Y/N)?」というメッセージが表示されるので、Yキーを押します(Nキーを押すと自動起動の設定は行われません)。

3 次のように表示されて、自動起動に設定されます。

- 領域名の横　「*」
- 画面右下　「*は自動起動に設定された領域です」

なお、複数の領域を自動起動に設定することもできますが、この場合の優先順位は次のようになり、最初に認識された領域から起動します。

内蔵固定ディスク(装置番号小→大)
↓
SCSI固定ディスク(装置番号小→大)
↓
光ディスク(装置番号小→大)

付録

●自動起動の変更/解除

自動起動の変更/解除は、固定ディスク起動メニューで行います。
自動起動に設定されていると、固定ディスク起動メニューは表示されませんので、次のような操作で固定ディスク起動メニューを表示させます。

1 装置の起動時にキーボードの[TAB]キーを押し続けます。

2 「ピピピ…」という音が鳴ってから[TAB]キーから指を離します。

3 固定ディスク起動メニューが表示されたら、次のように操作します。

・ **変更する場合**
[f･1]キーを押して自動起動を解除した後、「自動起動の設定」と同じ操作を行ってください。

・ **解除する場合**
自動起動を解除したい領域名を反転表示させ、[f･1]キーを押します。

FAT32ファイルシステムの利用

本機にインストールされているWindows 95では、FAT32ファイルシステムをサポートしています。ここでは、FAT32ファイルシステムの概要や設定方法について説明します。

FAT(File Allocation Table)ファイルシステム(以降、FAT)は、MS-DOSや従来のWindowsで使用されている基本的なファイルシステムです。
FAT32ファイルシステム(以降、FAT32)はFATを拡張したファイルシステムで、次のような特長があります。

・従来のFATでは、2GBの容量を超える領域を扱えませんでしたが、FAT32では理論上2TB(2,048GB)の容量まで扱えます。



FAT32に関する情報は、[Windows]フォルダのgeneral.txtにも記載されています。

●FAT32を使用する場合の注意

本機の出荷時のハードディスクの領域はFATです。通常は、FATのまま使用してください。FAT32を使用する場合は、次の注意事項を確認してご使用ください。

・本機に添付されているアプリケーションやご使用になっているソフトウェアによっては正しく動作しない場合があります。

  ・スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、[システムツール]グループにあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、[ドライブスペース]でFAT32のドライブを圧縮できません。

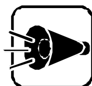
・FAT32は、本機にインストールされているWindows 95(Version 4.00.950 B)でのみ使用できます。以下のOSでは、FAT32のドライブに保存されたデータやファイルにアクセスできません。

市販されているWindows 95
MS-DOS
Windows 3.1
Windows NT 4.0 および、それ以前のバージョンのWindows NT
OS/2
NetWare

付録

●FAT32の設定方法

FAT32を利用するには、[FDISKオプション]を使用して領域を作成します。
[FDISKオプション]は、ハードディスクに領域を作成したり、削除したりするプログラムです。

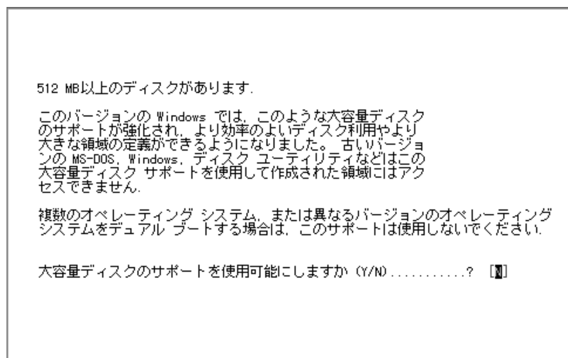


領域を削除すると、お客様がセットアップしたシステムやアプリケーション、データファイルもすべて削除されます。大切なデータやファイルがある場合には、必ずフロッピーディスクなどの別の媒体に保存してください。

[FDISKオプション]は、Windows 95を起動して、MS-DOSプロンプトの画面から次のように入力します。

FDISK ↵

ハードディスクの容量が512MBを超える場合は、大容量ディスクのサポートを行うかどうかを確認する、次のようなメッセージが表示されます。



Y を選択した後、領域(ただし、512MBを超える領域)を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。
[FDISKオプション]で領域を作成した後、Windows 95を再起動してドライブをフォーマットすると、領域が利用できるようになります。

98 MATE

再セットアップガイド
98MATE
(Windows 95インストール)

六版　1998年12月
NEC
P

808-882706-010-A

このマニュアルはエコマーク認定の
再生紙を使用しています。

